

(案)

**京都市
家族や家庭生活のあり方に関する
意識調査
【結果報告書】**

平成 31 年 1 月

京都市

目 次

I . 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1
II . 調査結果	2
1 あなたご自身について	2
2 少子化について	25
3 結婚について	34
4 出産について	64
5 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について	74

I. 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、結婚・出産に関する意識や、働き方、ワーク・ライフ・バランスへのご意見等をうかがい、今後の京都市の少子化対策やワーク・ライフ・バランスの推進に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査設計

- 調査対象者：京都市に在住する 18 歳から 49 歳までの市民
- 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- 調査期間：平成 30 年 9 月 7 日～9 月 21 日
- 調査方法：郵送による配布・回収

3 回収結果

回収結果				
家族や家庭生活のあり方に関する意識調査		6,500 件	1,866 件	28.7%
(参考)	平成 25 年調査	6,500 件	1,842 件	28.3%
	平成 20 年調査	6,500 件	2,140 件	32.9%

※平成 20 年、平成 25 年の調査名は「結婚と出産に関する意識調査」

※平成 20 年調査の対象者は 18 歳以上 35 歳未満の市民

4 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 設問によっては、結果を詳細に分析するため、クロス集計表を掲載しています。

II. 調査結果

1 あなたご自身について

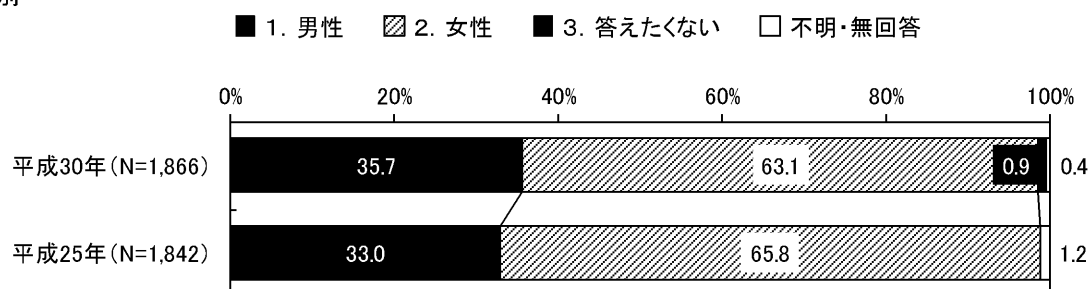
問1 あなたの性別と年齢をお答えください（年齢は平成30年9月1日現在）。（〇は1つ）

性別は、「1. 男性」が35.7%、「2. 女性」が63.1%となっています。

年齢は、「7. 45～49歳」が21.5%と最も高く、次いで「6. 40～44歳」が19.3%、「5. 35～39歳」が17.9%となっています。

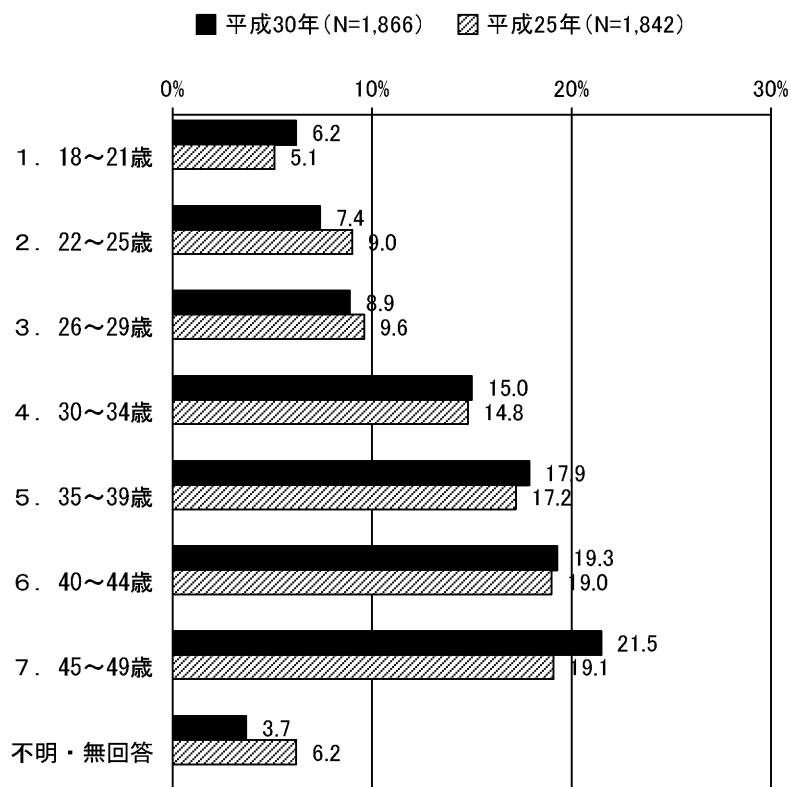
平成25年と比較すると、特に大きな差はみられません。

◆性別



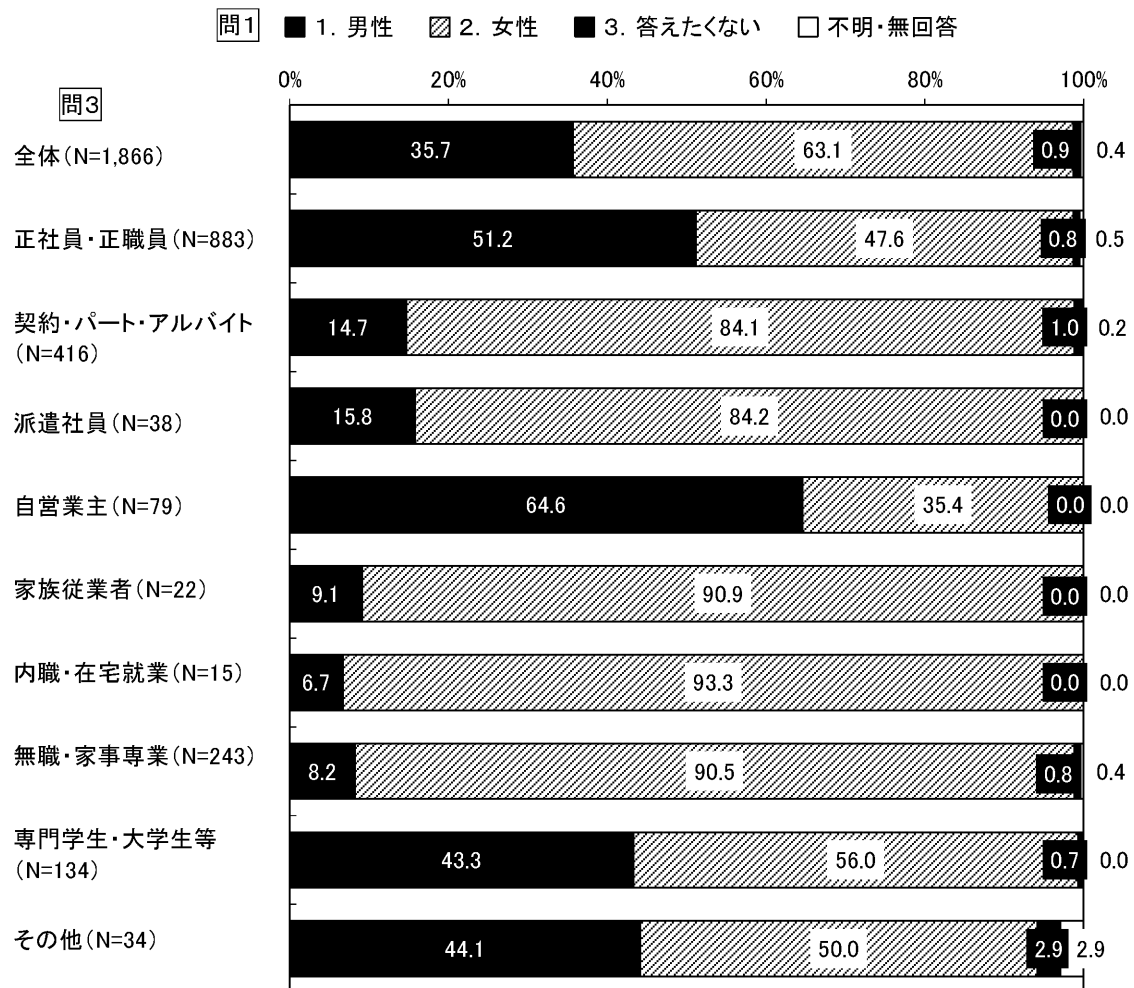
※「3. 答えたくない」は平成30年のみの選択肢

◆年齢



《問1 性別×問3就労形態別》

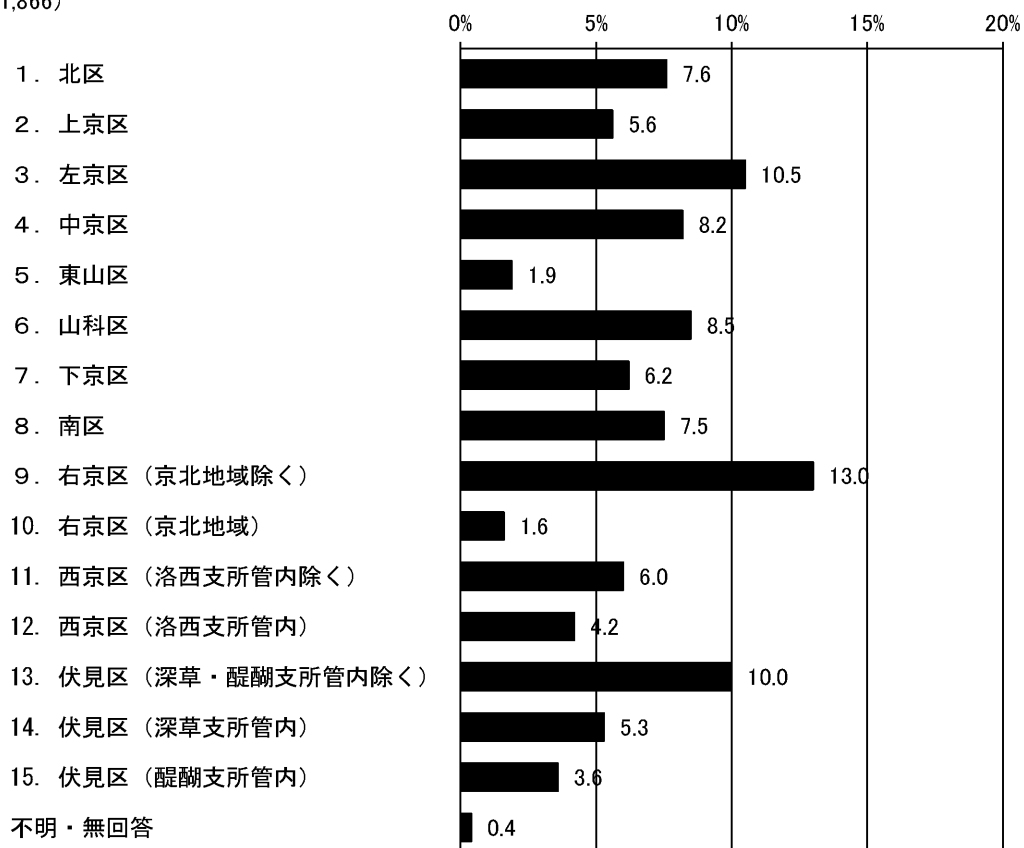
『正社員・正職員』『自営業主』では「1. 男性」、それ以外の区分では「2. 女性」の割合が最も高くなっています。



問2 お住まいの区等はどちらですか。(〇は1つ)

「9. 右京区（京北地域除く）」が13.0%と最も高く、次いで「3. 左京区」が10.5%、「13. 伏見区（深草・醍醐支所管内除く）」が10.0%となっています。

(N=1,866)

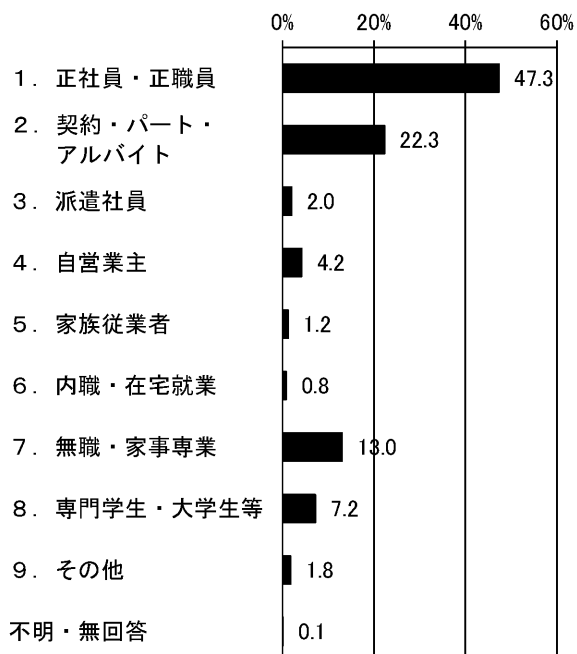


問3 あなたの就労形態をお答えください。(〇は1つ)

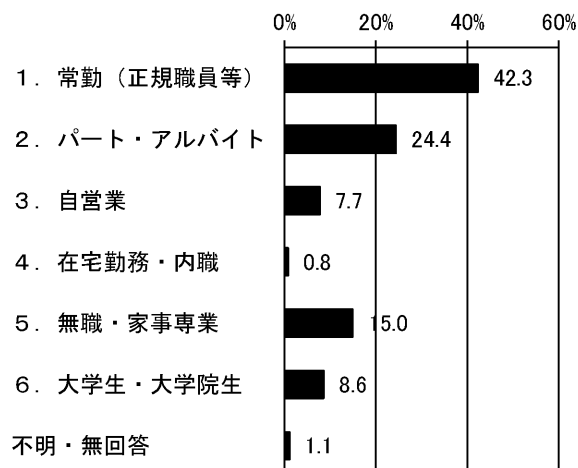
「1. 正社員・正職員」が47.3%と最も高く、次いで「2. 契約・パート・アルバイト」が22.3%、「7. 無職・家事専業」が13.0%となっています。

平成25年と比較すると、特に大きな差はみられません。

平成30年(N=1,866)



平成25年(N=1,842)

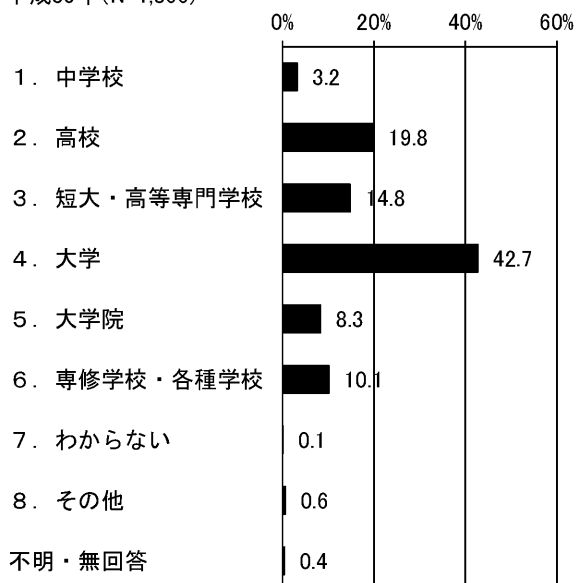


問4 あなたの最終学歴（現在学生の方は予定）をお答えください。(〇は1つ)

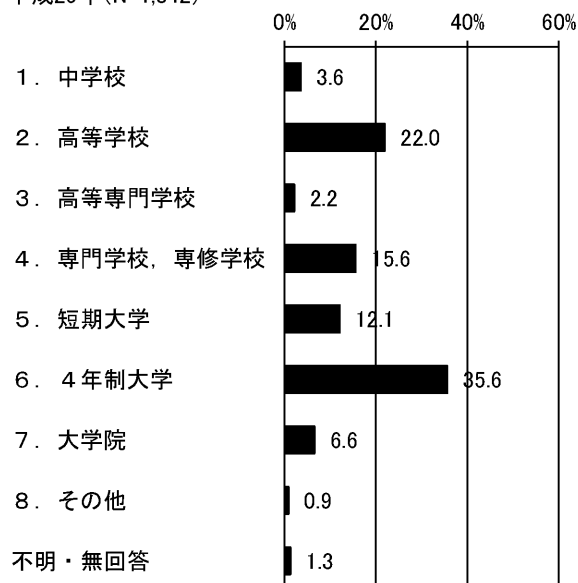
「4. 大学」が42.7%と最も高く、次いで「2. 高校」が19.8%、「3. 短大・高等専門学校」が14.8%となっています。

平成25年と比較すると、「4. 大学」（平成25年では「6. 4年制大学」）が7.1ポイント高くなっています。

平成30年(N=1,866)

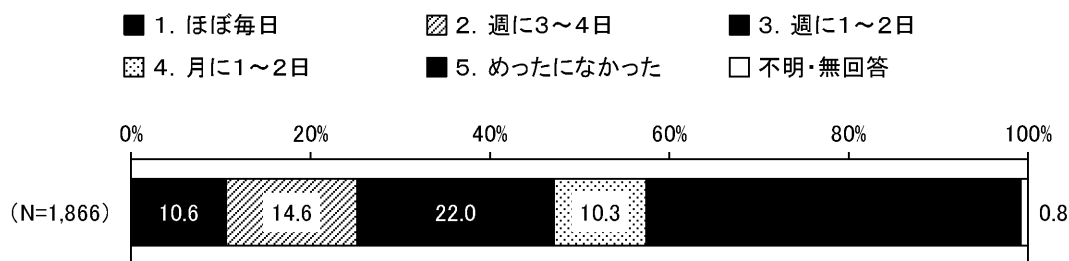


平成25年(N=1,842)



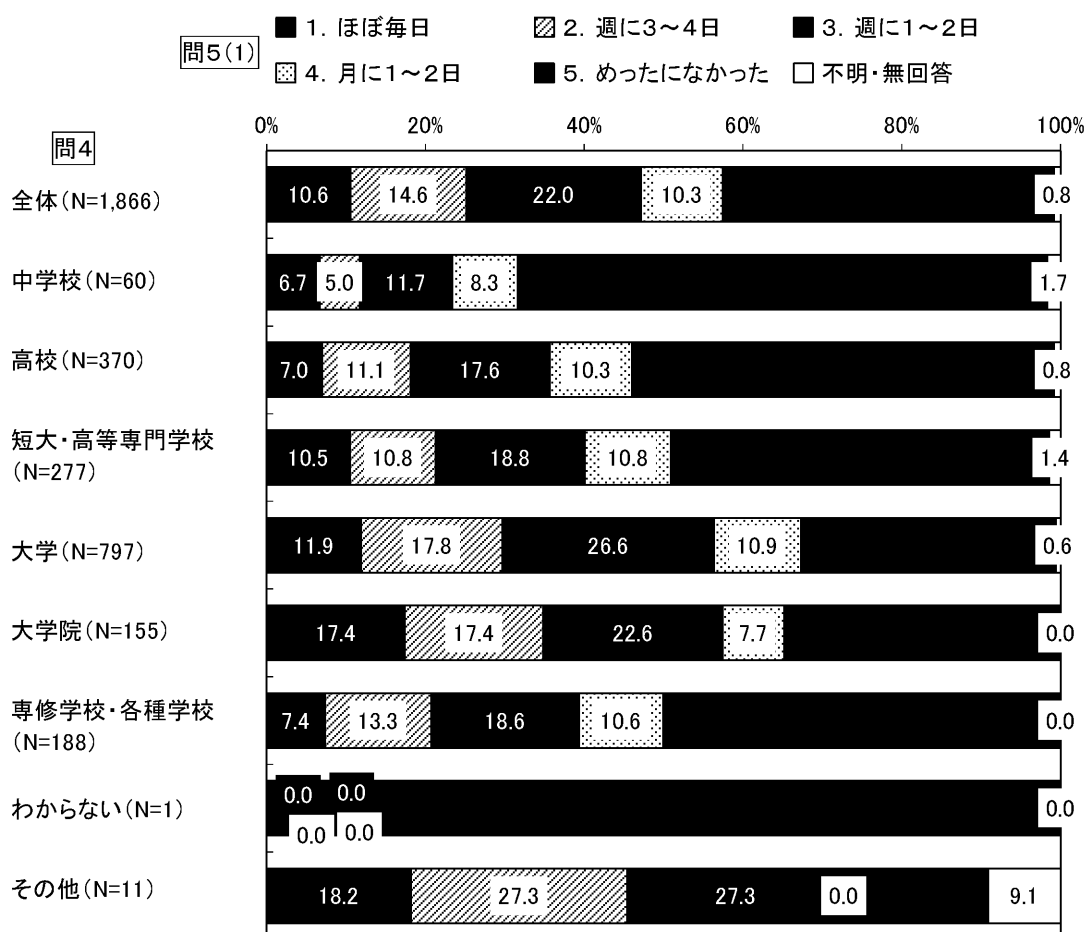
問5(1) あなたは小学生の頃に親や保護者に勉強を教えてもらう（一緒に学校の宿題に取り組むなど）機会がありましたか。（〇は1つ）

「5. めったになかった」が41.8%と最も高く、次いで「3. 週に1～2日」が22.0%, 「2. 週に3～4日」が14.6%となっています。



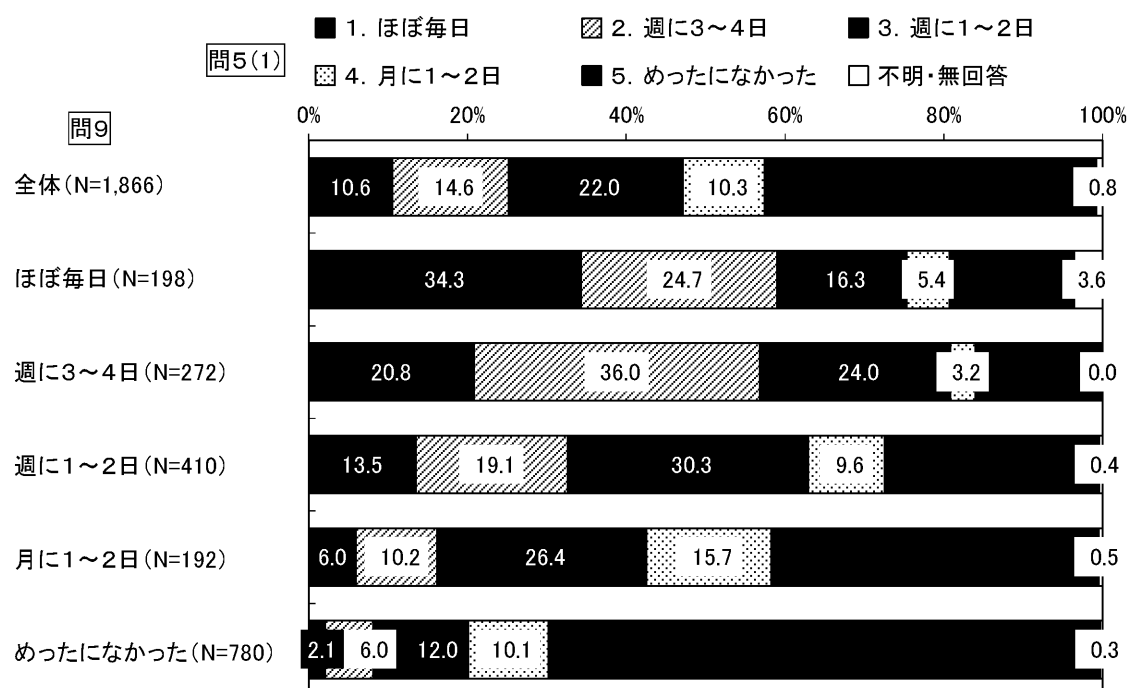
《問5(1)小学生の頃に勉強を教えてもらう機会×問4 最終学歴別》

最終学歴が高くなるほど、「1. ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられます。



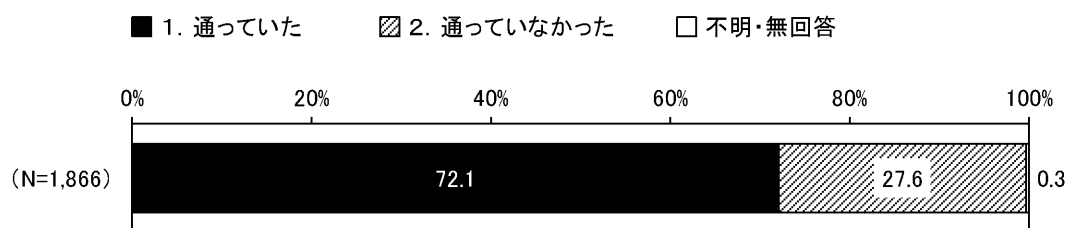
《問5(1)小学生の頃に勉強を教えてもらう機会×問9 12歳の頃に親等と遊んだ頻度別》

12歳の頃に親等と遊んだ頻度が高くなるほど、「1. ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられます。



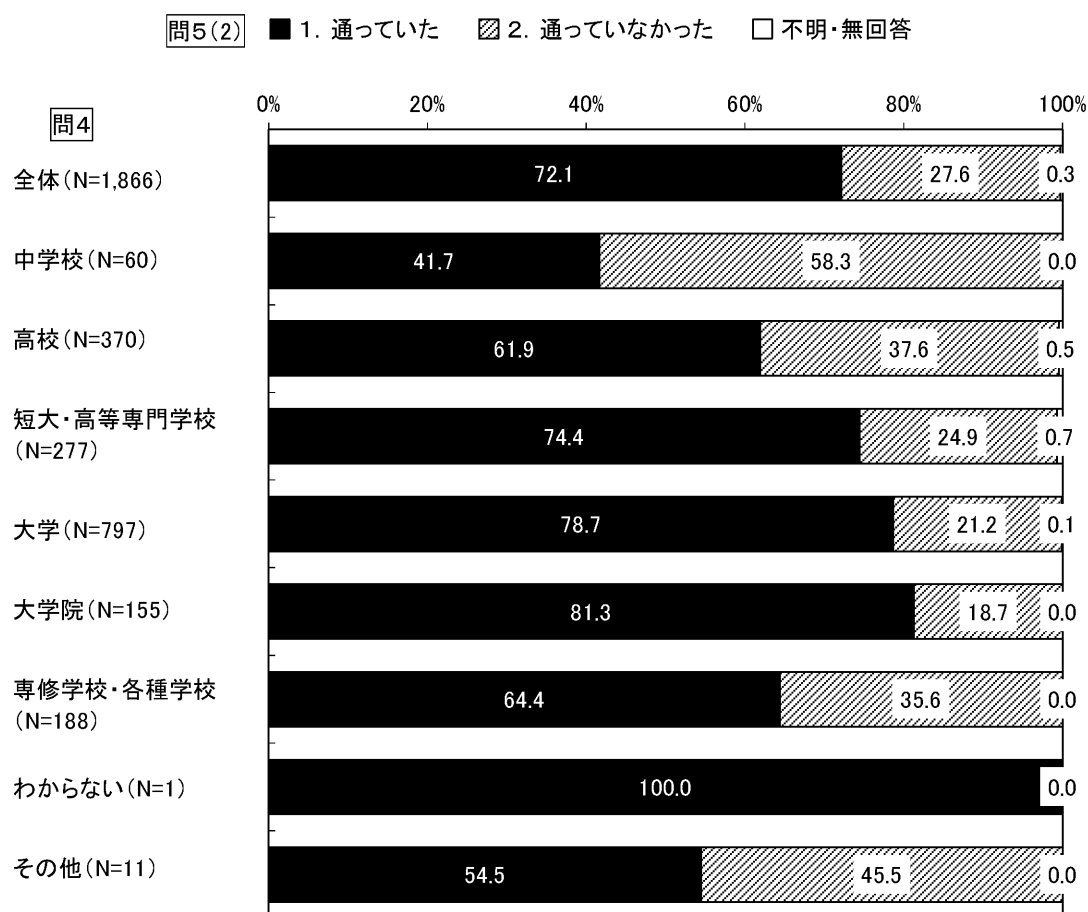
問5(2) あなたは小学生、中学生、高校生の頃に塾に通っていましたか。(〇は1つ)

「1. 通っていた」が72.1%、「2. 通っていなかった」が27.6%となっています。



《問5(2)通塾状況×問4最終学歴別》

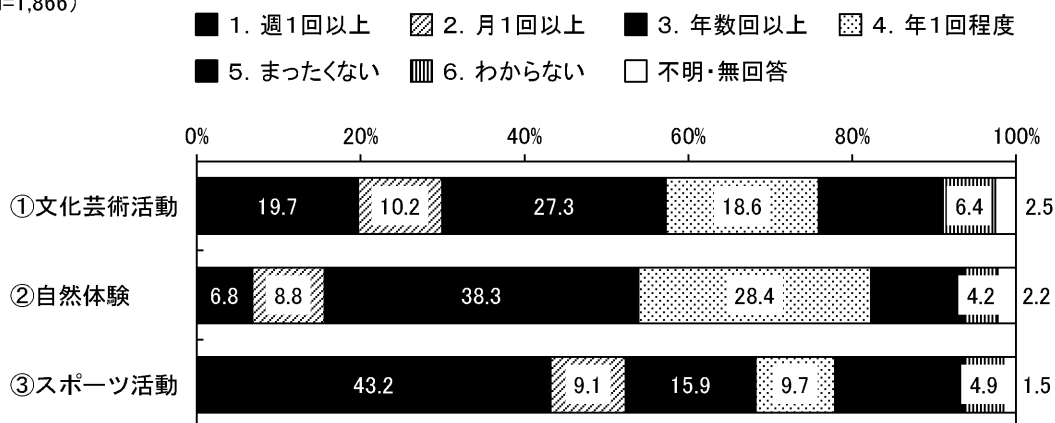
『中学校』では「2. 通っていなかった」、それ以外の区分では「1. 通っていた」が最も高くなっています。



問5(3) あなたは、小学生、中学生、高校生の頃に、学校の授業以外で、自宅以外での文化芸術活動（映画、音楽、絵画、写真、演劇、能・狂言・歌舞伎などの鑑賞、体験など）や自然体験（山登り、海水浴、川遊び、キャンプなど）、スポーツ活動を行う機会はどの程度ありましたか。（〇はそれぞれ1つつ）

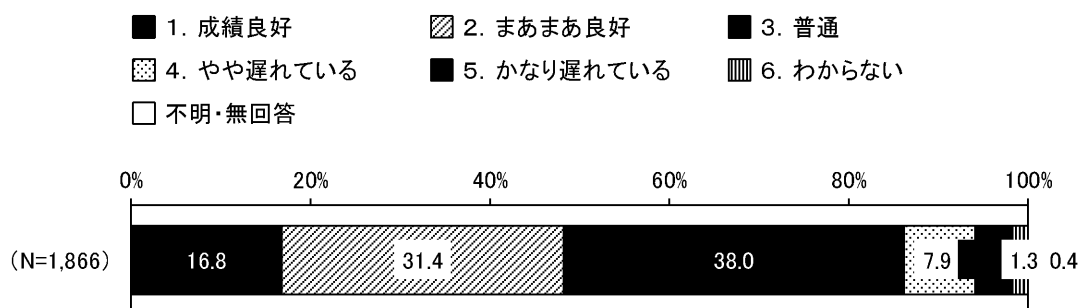
①文化芸術活動、②自然体験では「3. 年数回以上」がそれぞれ 27.3%、38.3%と最も高く、次いで①文化芸術活動では「1. 週1回以上」が 19.7%、②自然体験では「4. 年1回程度」が 28.4%となっています。③スポーツ活動では「1. 週1回以上」が 43.2%と最も高く、次いで「3. 年数回以上」が 15.9%となっています。

(N=1,866)



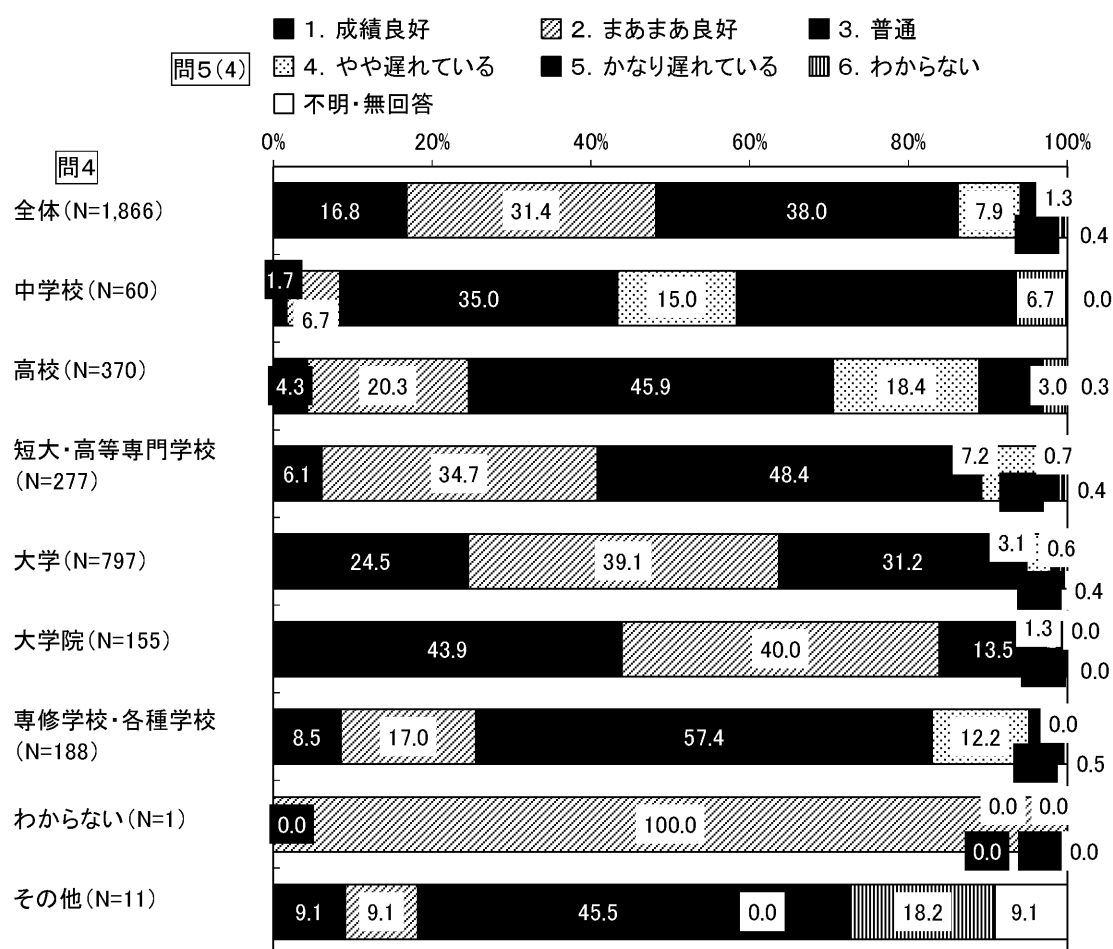
問5(4) あなたの学校での勉強の成績はどうか（どうでしたか）。（〇は1つ）

「3. 普通」が 38.0%と最も高く、次いで「2. まあまあ良好」が 31.4%、「1. 成績良好」が 16.8%となっています。



《問5(4)学校での成績×問4 最終学歴別》

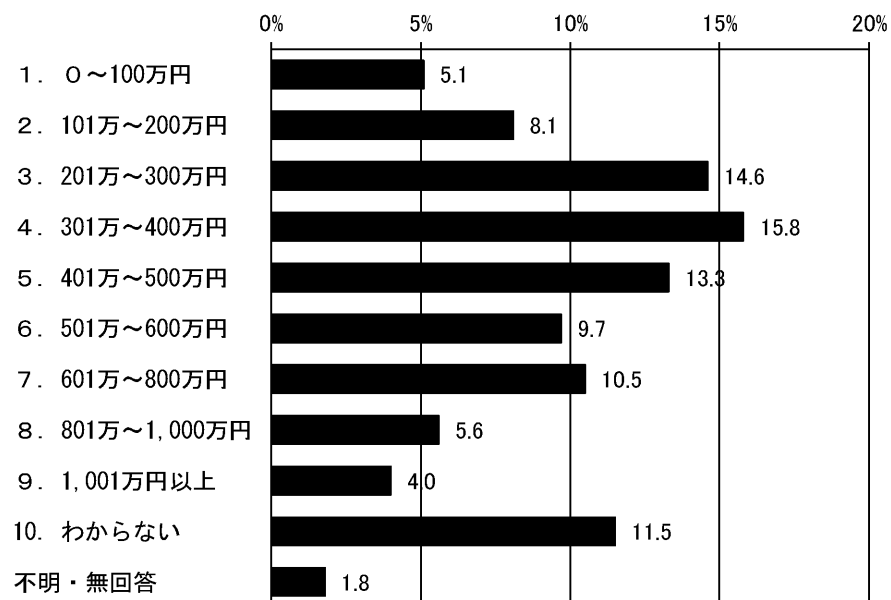
最終学歴が高くなるほど、「1. 成績良好」「2. まあまあ良好」の割合が高くなる傾向がみられます。



問6 あなたの世帯の昨年1年間（平成29年1月1日～同年12月31日の期間）の可処分所得（実収入から税金や社会保険料等を引いたいわゆる手取り収入）はおおよそどのくらいですか。（〇は1つ）

「4. 301万～400万円」が15.8%と最も高く、次いで「3. 201万～300万円」が14.6%, 「5. 401万～500万円」が13.3%となっています。

(N=1,866)



《問6 昨年1年間の可処分所得×問3 就労形態別》

『正社員・正職員』では「301 万～400 万円」,『契約・パート・アルバイト』では「101 万～200 万円」「301 万～400 万円」,『派遣社員』『自営業主』『家族従業者』では「201 万～300 万円」,『内職・在宅就業』では「501 万～600 万円」,『無職・家事専業』では「601 万～800 万円」,『専門学生・大学生等』『その他』では「わからない」の割合が最も高くなっています。

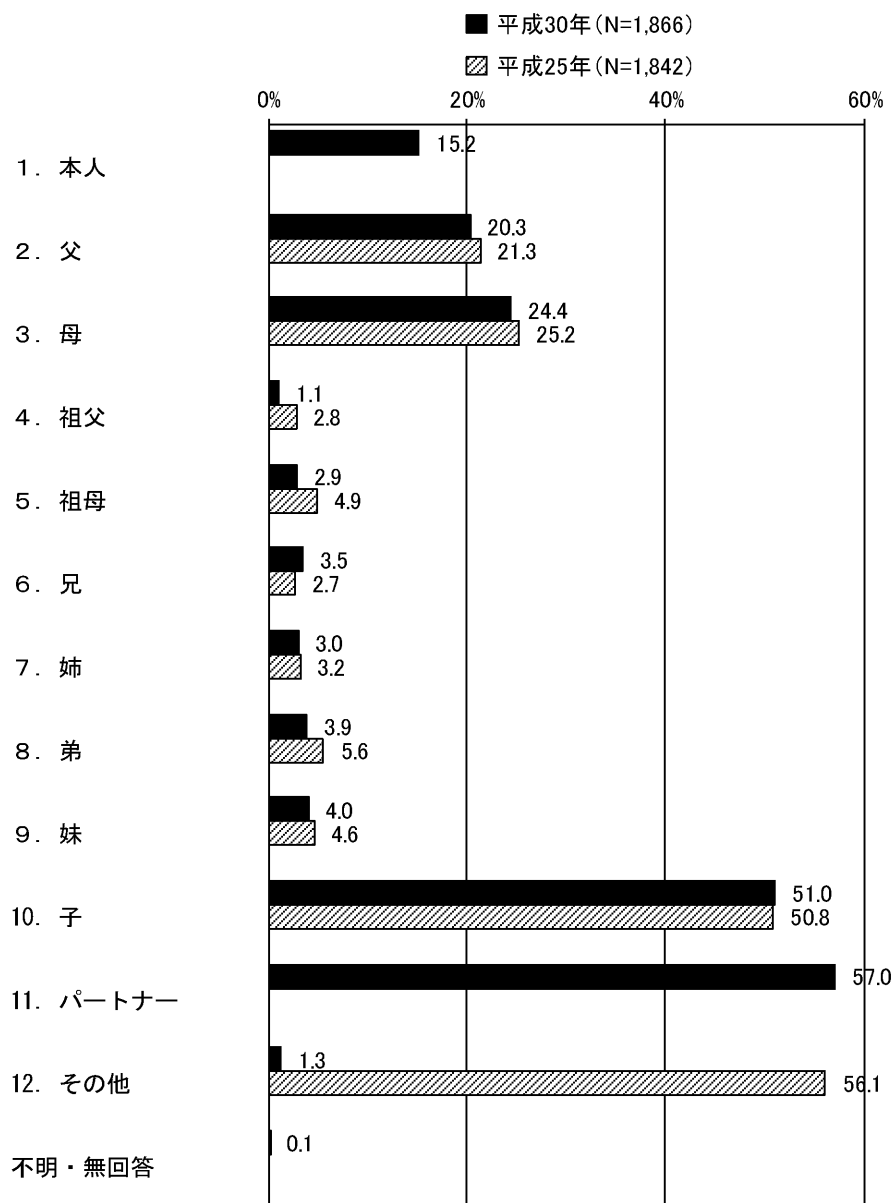
	1,866 100.0	96 5.1	151 8.1	272 14.6	294 15.8	249 13.3	181 9.7
	883 100.0	7 0.8	44 5.0	150 17.0	154 17.4	134 15.2	105 11.9
	416 100.0	31 7.5	66 15.9	55 13.2	66 15.9	53 12.7	37 8.9
	38 100.0	2 5.3	9 23.7	10 26.3	7 18.4	0 0.0	1 2.6
	79 100.0	7 8.9	9 11.4	20 25.3	10 12.7	8 10.1	9 11.4
	22 100.0	0 0.0	1 4.5	7 31.8	1 4.5	1 4.5	2 9.1
	15 100.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0	2 13.3	2 13.3	4 26.7
	243 100.0	28 11.5	12 4.9	21 8.6	43 17.7	40 16.5	18 7.4
	134 100.0	17 12.7	5 3.7	5 3.7	6 4.5	10 7.5	3 2.2
	34 100.0	3 8.8	3 8.8	3 8.8	5 14.7	1 2.9	2 5.9

	1,866 100.0	196 10.5	105 5.6	74 4.0	214 11.5	34 1.8
	883 100.0	118 13.4	62 7.0	40 4.5	61 6.9	8 0.9
	416 100.0	32 7.7	14 3.4	13 3.1	36 8.7	13 3.1
	38 100.0	2 5.3	2 5.3	0 0.0	3 7.9	2 5.3
	79 100.0	4 5.1	3 3.8	5 6.3	3 3.8	1 1.3
	22 100.0	0 0.0	1 4.5	2 9.1	6 27.3	1 4.5
	15 100.0	1 6.7	0 0.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0
	243 100.0	32 13.2	11 4.5	6 2.5	27 11.1	5 2.1
	134 100.0	7 5.2	11 8.2	6 4.5	64 47.8	0 0.0
	34 100.0	0 0.0	1 2.9	1 2.9	12 35.3	3 8.8

問7 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、就業形態等、年齢、健康状態及び心身の状況について、下記の選択肢から番号を1つずつ選んでご記入ください（年齢は平成30年9月1日現在で直接記入）。

「11. パートナー」が57.0%と最も高く、次いで「10. 子」が51.0%、「3. 母」が24.4%となっています。

◆続柄



※「1. 本人」「11. パートナー」は平成30年のみの選択肢

◆就業形態等

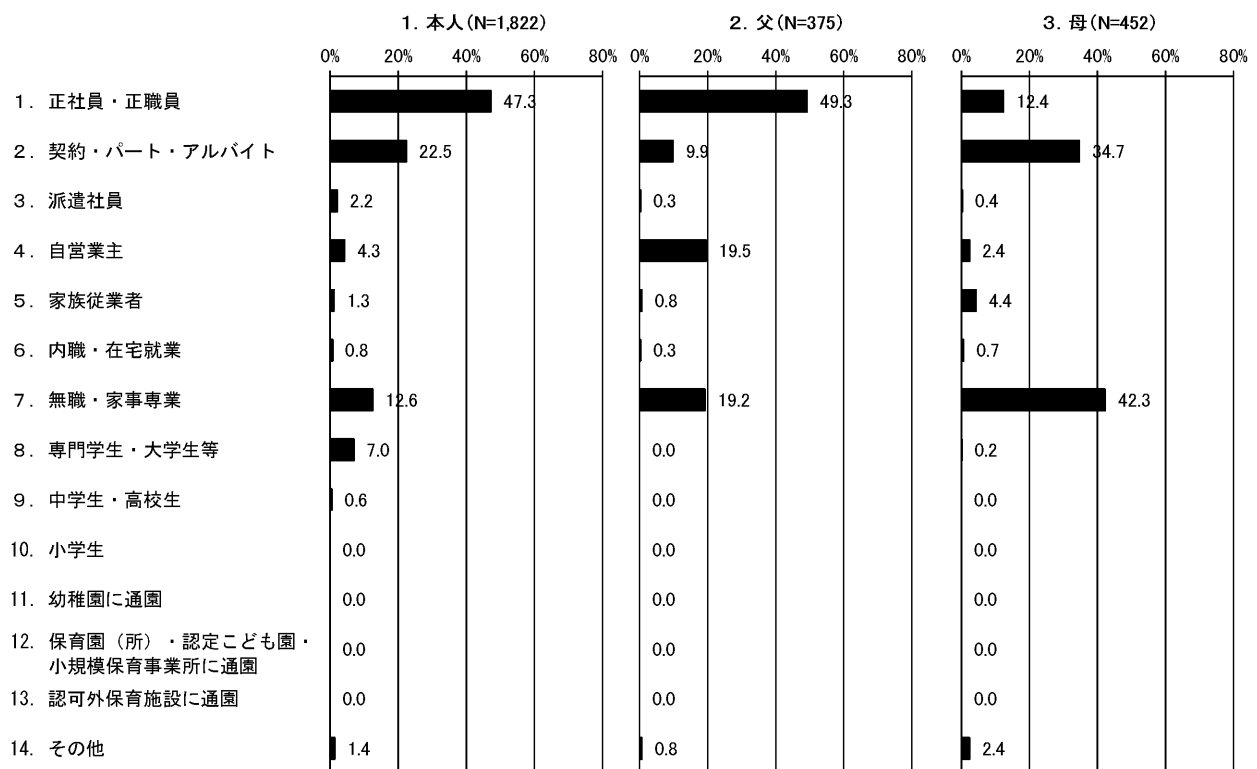
『1. 本人』『2. 父』『6. 兄1人目』『7. 姉』『11. パートナー』は、「1. 正社員・正職員」がそれぞれ47.3%, 49.3%, 37.9%, 51.8%, 63.4%と最も高くなっています。

『3. 母』『4. 祖父』『5. 祖母』は、「7. 無職・家事専業」がそれぞれ42.3%, 70.0%, 79.6%と最も高くなっています。

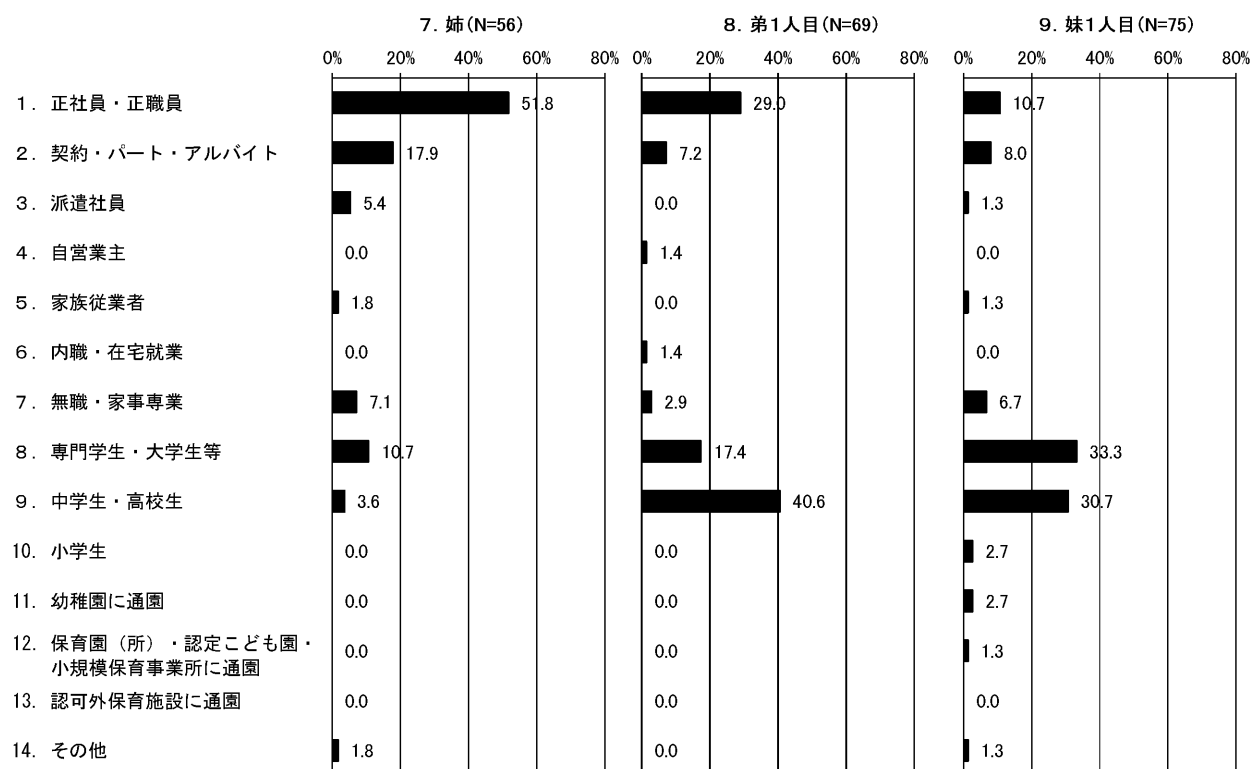
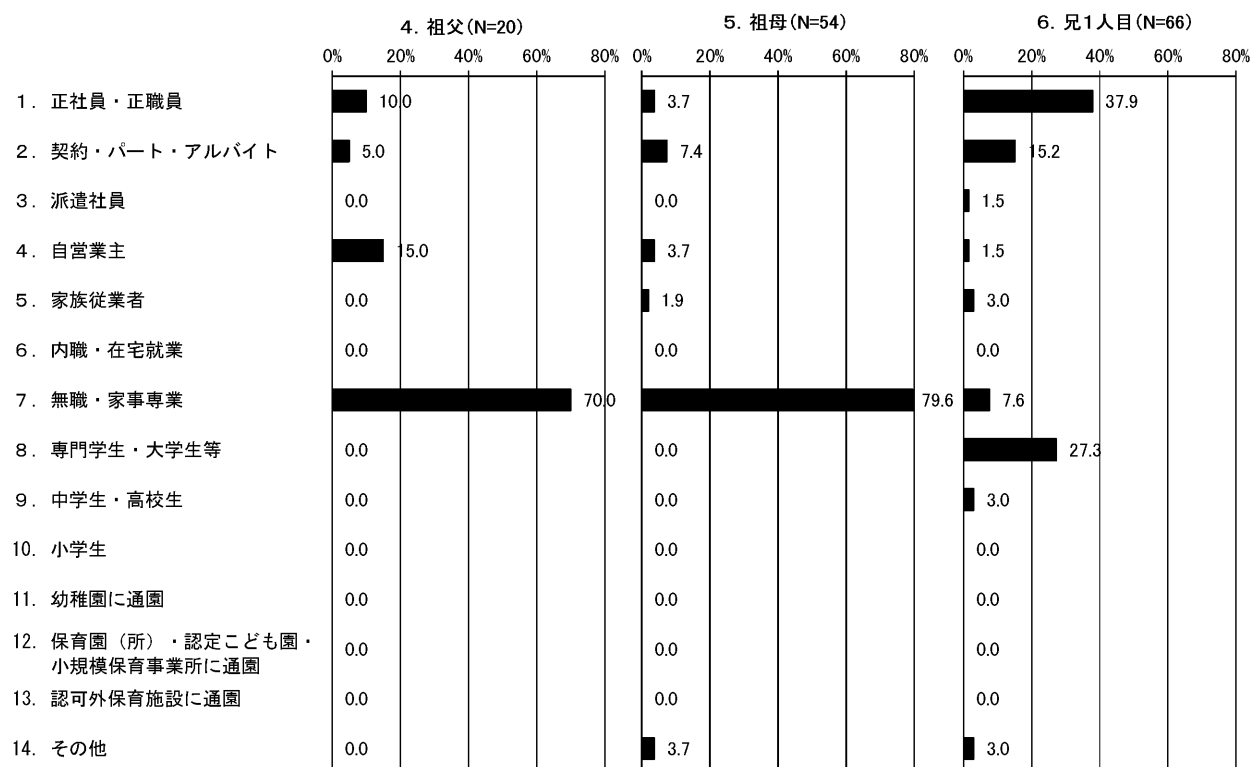
『8. 弟1人目』は、「9. 中学生・高校生」が40.6%と最も高くなっています。

『9. 妹1人目』は、「8. 専門学生・大学生等」が33.3%と最も高くなっています。

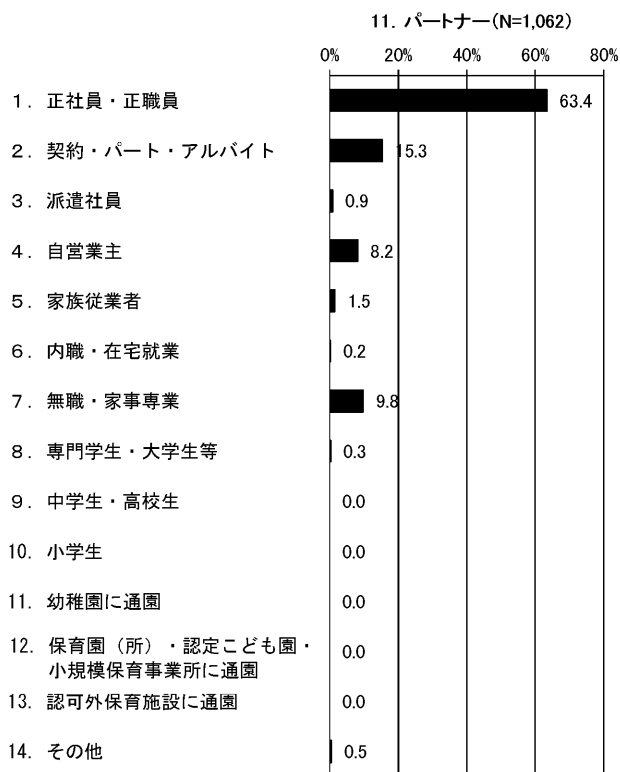
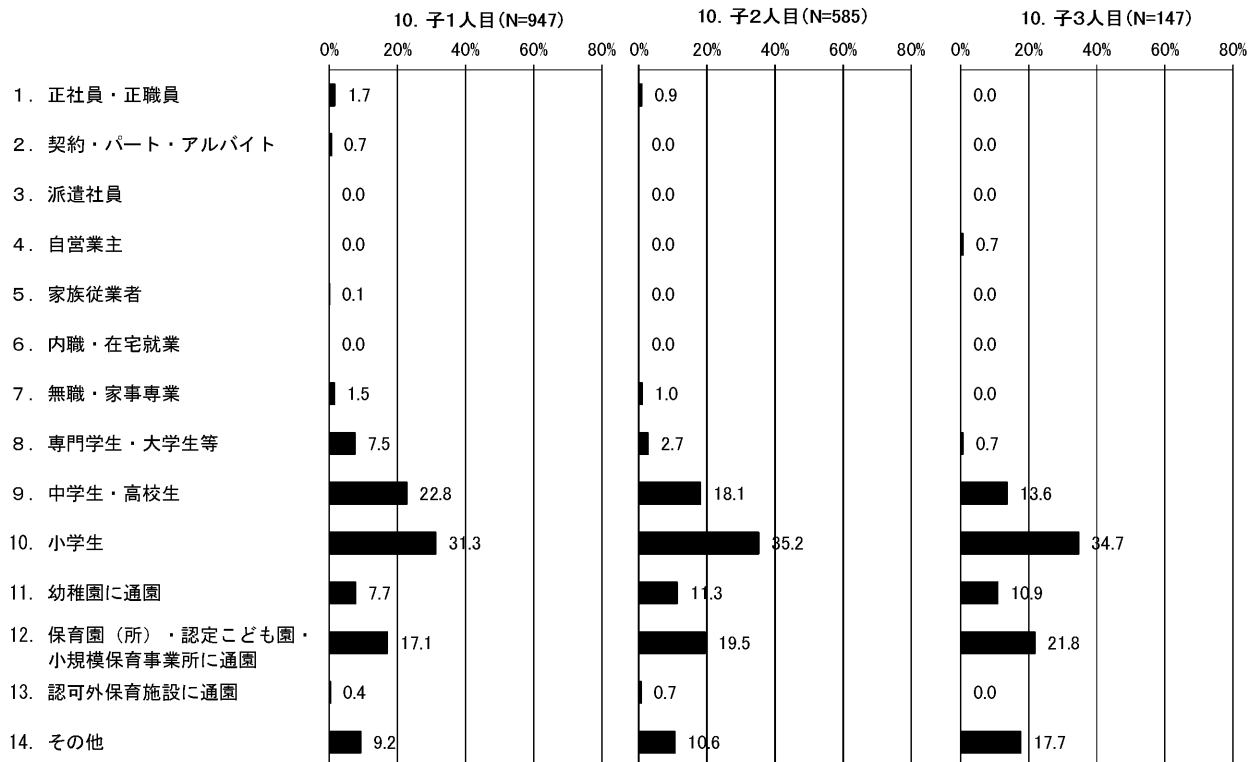
『10. 子1人目』『10. 子2人目』『10. 子3人目』は、「10. 小学生」がそれぞれ31.3%, 35.2%, 34.7%と最も高くなっています。



※不明・無回答除く



※不明・無回答除く



※不明・無回答除く

6. 兄2人目 (N=2)	正社員・正職員(1人), その他(1人)
8. 弟2人目 (N=8)	契約・パート・アルバイト(1人), 専門学生・大学生等(1人), 中学生・高校生(4人), 小学生(2人)
9. 妹2人目 (N=6)	契約・パート・アルバイト(1人), 専門学生・大学生等(1人), 中学生・高校生(3人), 小学生(1人)
10. 子4人目 (N=21)	中学生・高校生(1人), 小学生(4人), 幼稚園に通園(4人), 保育園(所)・認定こども園・小規模保育事業所に通園(8人), その他(4人)
10. 子5人目 (N=2)	認可外保育施設に通園(1人), その他(1人)
12. その他1人目 (N=24)	正社員・正職員(4人), 契約・パート・アルバイト(4人), 自営業主(4人), 無職・家事専業(9人), 専門学生・大学生等(1人), その他(2人)
12. その他2人目 (N=9)	自営業主(1人), 無職・家事専業(3人), 専門学生・大学生等(2人), 小学生(3人)
12. その他3人目 (N=3)	専門学生・大学生等(1人), 小学生(1人), 幼稚園に通園(1人)
12. その他4人目 (N=2)	正社員・正職員(1人), 保育園(所)・認定こども園・小規模保育事業所に通園(1人)

◆年齢

『1. 本人』は、「7. 45～49歳」が22.5%と最も高く、次いで「6. 40～44歳」が20.1%、「5. 35～39歳」が18.3%となっています。

『2. 父』『3. 母』は、「6. 50歳代」がそれぞれ37.3%、37.6%と最も高くなっています。

『4. 祖父』『5. 祖母』は、「9. 80歳以上」がそれぞれ57.9%、63.0%と最も高くなっています。

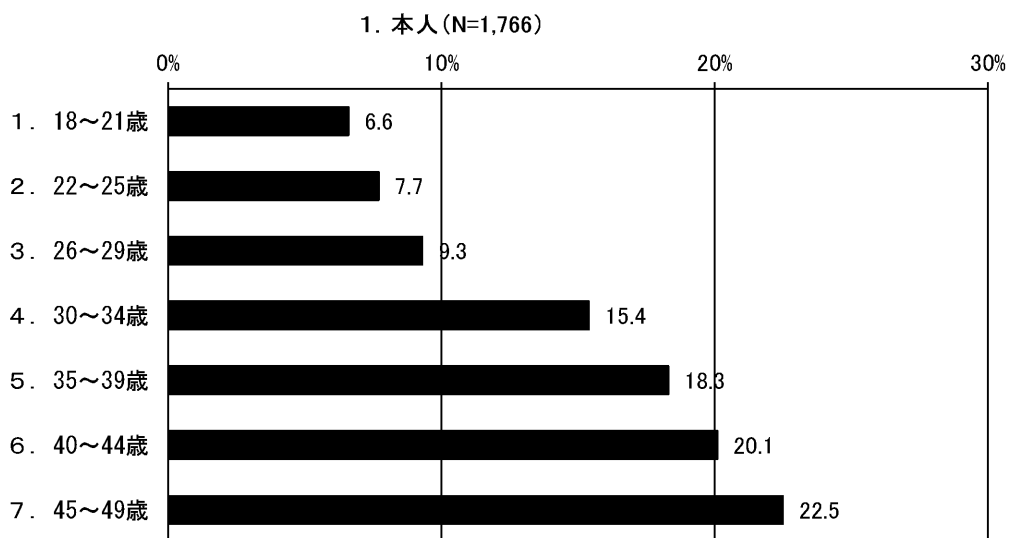
『6. 兄1人目』『7. 姉』は、「3. 20歳代」がそれぞれ60.0%、72.5%と最も高くなっています。

『8. 弟1人目』は、「2. 10歳代」が50.0%と最も高くなっています。

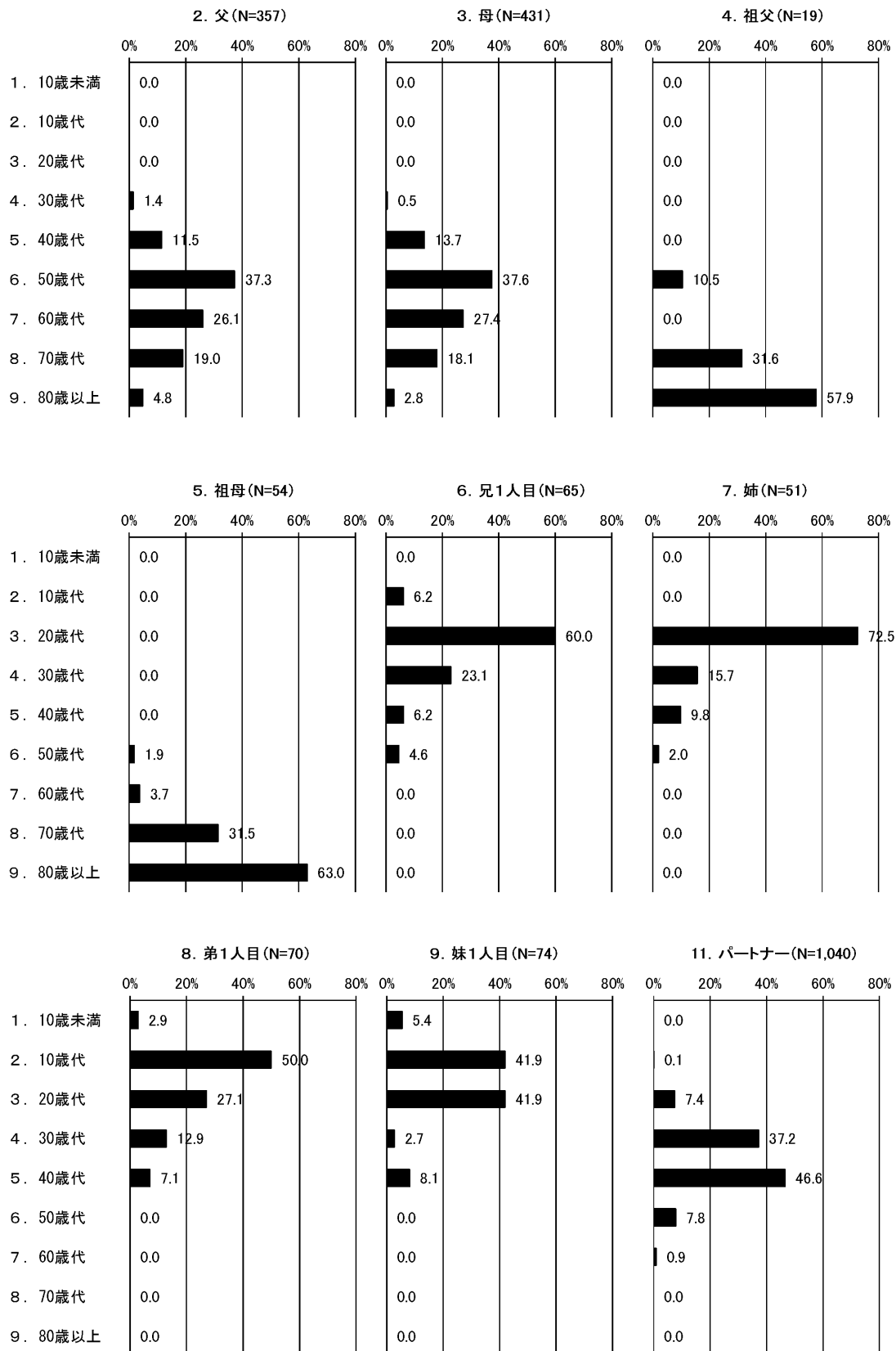
『9. 妹1人目』は、「2. 10歳代」と「3. 20歳代」がともに41.9%と最も高くなっています。

『11. パートナー』は、「5. 40歳代」が46.6%と最も高くなっています。

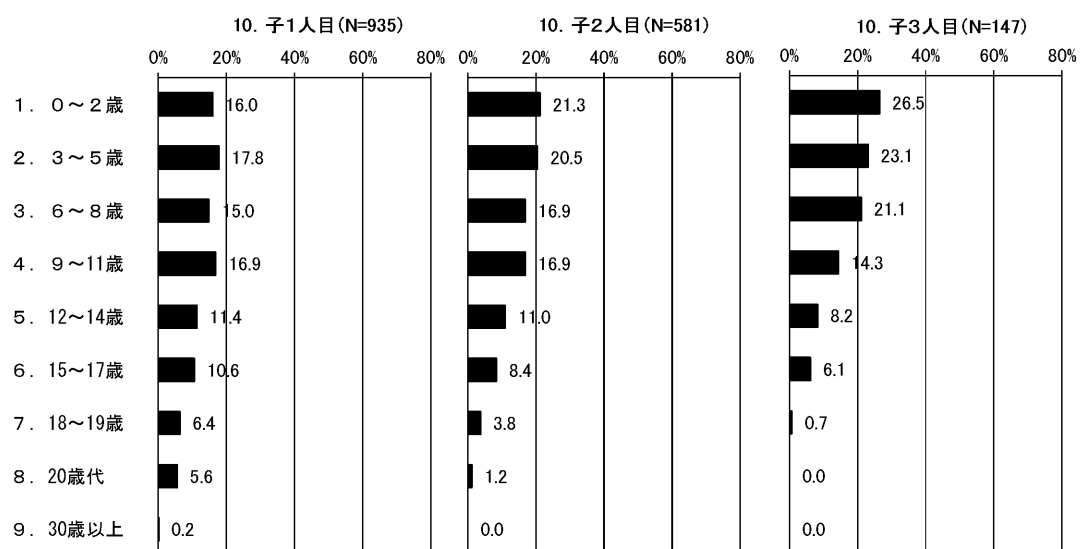
『10. 子1人目』は、「2. 3～5歳」が17.8%、『10. 子2人目』『10. 子3人目』は、「1. 0～2歳」がそれぞれ21.3%、26.5%と最も高くなっています。



※不明・無回答除く



※不明・無回答除く



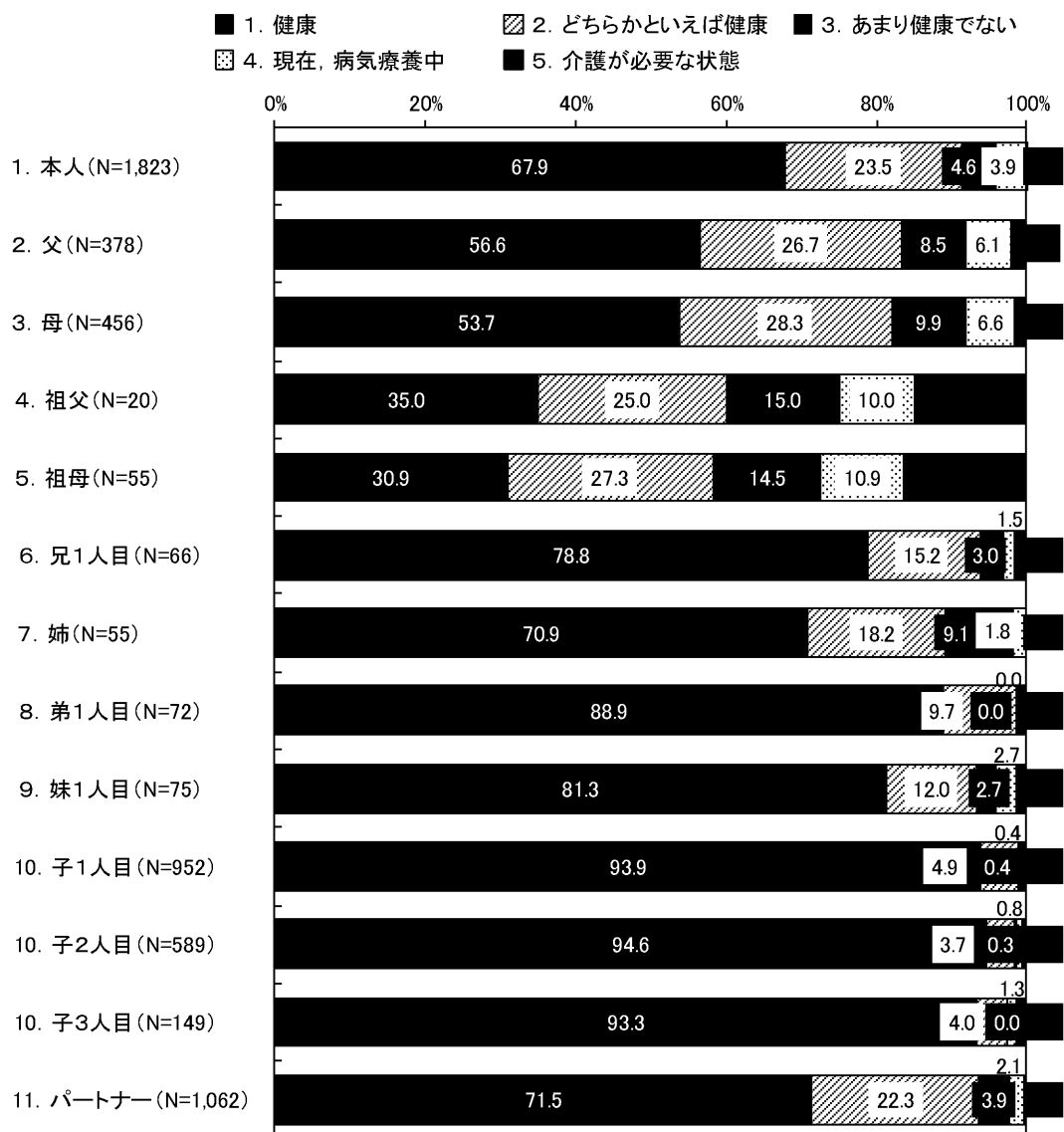
6. 兄2人目 (N=2)	20歳代(1人), 30歳代(1人)
8. 弟2人目 (N=7)	10歳未満(1人), 10歳代(5人), 20歳代(1人)
9. 妹2人目 (N=6)	10歳代(5人), 20歳代(1人)
10. 子4人目 (N=21)	0～2歳(7人), 3～5歳(6人), 6～8歳(5人), 9～11歳(1人), 12～14歳(2人)
10. 子5人目 (N=2)	0～2歳(1人), 3～5歳(1人)
12. その他1人目 (N=23)	10歳未満(2人), 20歳代(2人), 30歳代(4人), 40歳代(6人), 50歳代(9人)
12. その他2人目 (N=9)	10歳未満(1人), 10歳代(2人), 20歳代(2人), 50歳代(4人)
12. その他3人目 (N=3)	10歳未満(2人), 10歳代(1人)
12. その他4人目 (N=2)	10歳未満(1人), 50歳代(1人)

※不明・無回答除く

◆健康状態

すべてにおいて「1. 健康」が最も高くなっています。

また、「5. 介護が必要な状態」は、『5. 祖母』が16.4%と最も高く、次いで『4. 祖父』が15.0%となっています。



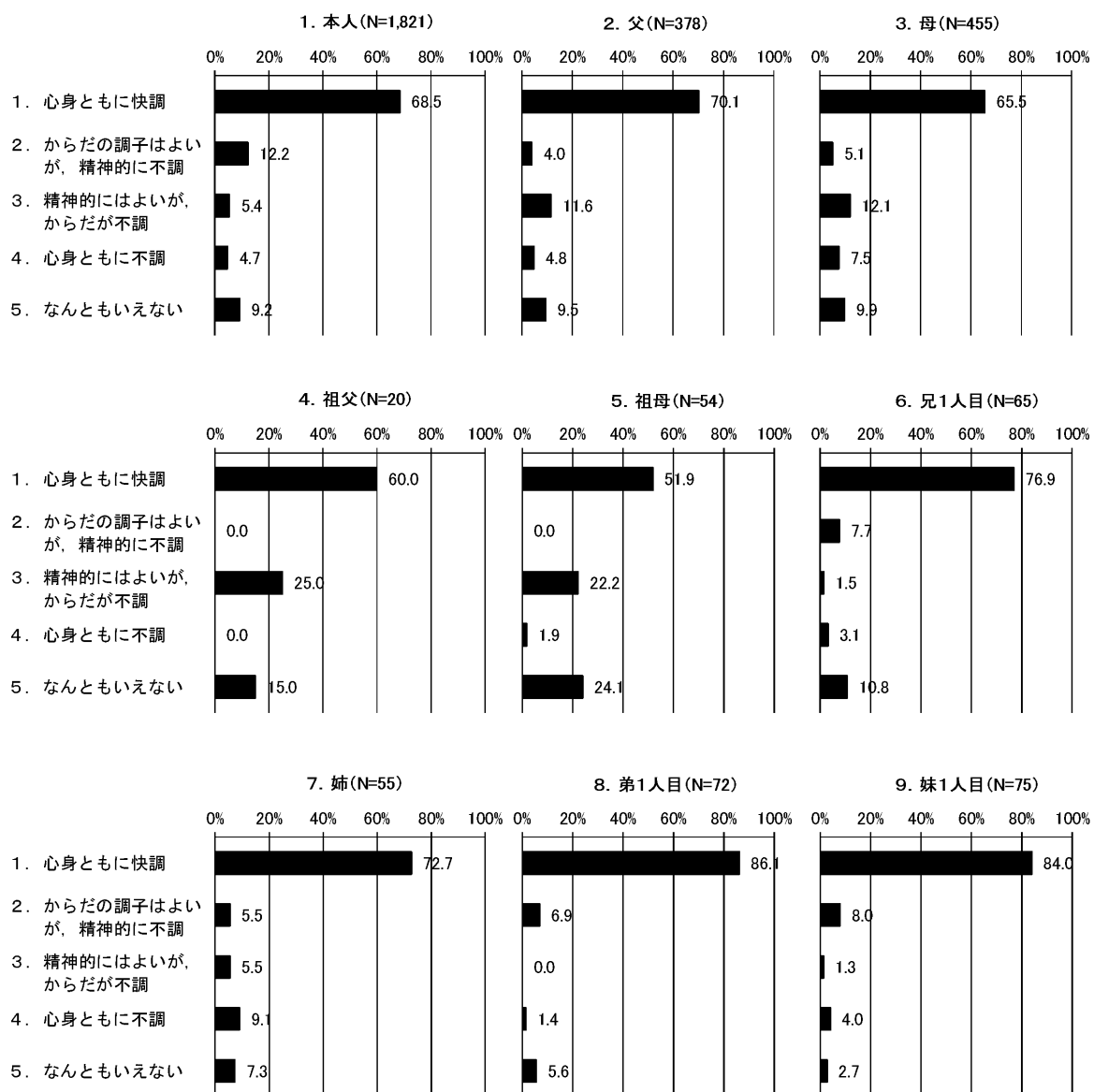
6. 兄2人目 (N=2)	健康(2人)
8. 弟2人目 (N=8)	健康(8人)
9. 妹2人目 (N=6)	健康(5人), どちらかといえば健康(1人)
10. 子4人目 (N=21)	健康(20人), どちらかといえば健康(1人)
10. 子5人目 (N=2)	健康(2人)
12. その他1人目 (N=24)	健康(14人), どちらかといえば健康(6人), 現在、病気療養中(2人), 介護が必要な状態(2人)
12. その他2人目 (N=9)	健康(6人), どちらかといえば健康(1人), 現在、病気療養中(1人), 介護が必要な状態(1人)
12. その他3人目 (N=3)	健康(3人)
12. その他4人目 (N=2)	健康(2人)

※不明・無回答除く

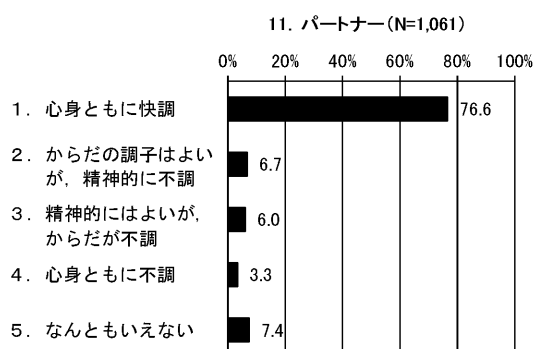
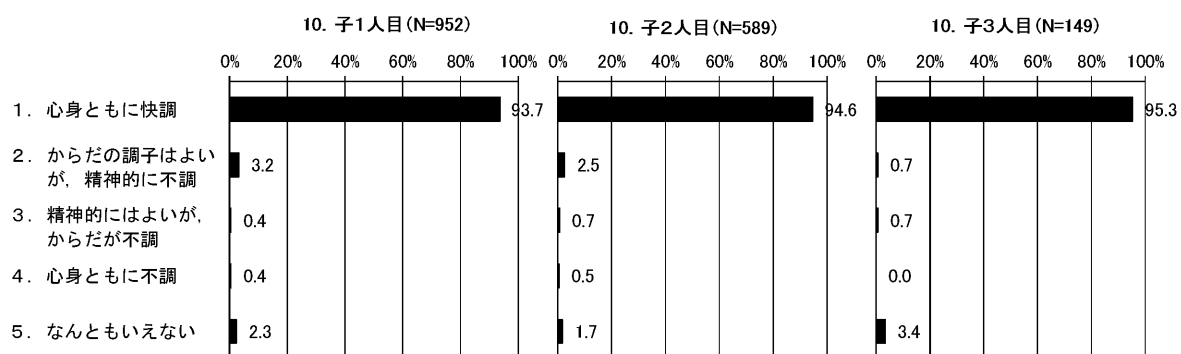
◆心身の状況

すべてにおいて「1. 心身ともに快調」が最も高くなっています。

また、「3. 精神的にはよいが、からだが不調」は、『4. 祖父』が25.0%と最も高く、次いで『5. 祖母』が22.2%となっています。



※不明・無回答除く



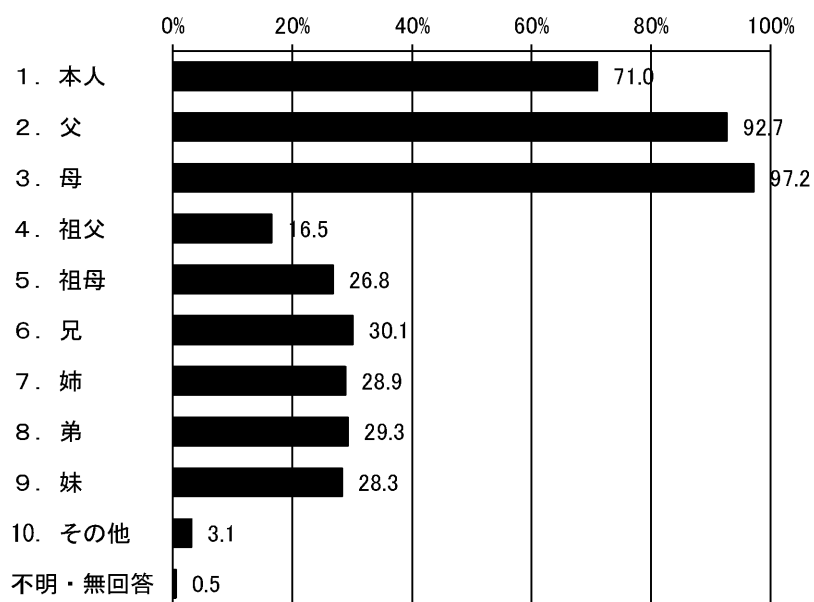
6. 兄 2 人目 (N=2)	心身ともに快調(2人)
8. 弟 2 人目 (N=8)	心身ともに快調(8人)
9. 妹 2 人目 (N=6)	心身ともに快調(6人)
10. 子 4 人目 (N=21)	心身ともに快調(20人), なんともいえない(1人)
10. 子 5 人目 (N=2)	心身ともに快調(2人)
12. その他 1 人目 (N=24)	心身ともに快調(18人), からだの調子はいいが、精神的に不調(1人), 精神的にはよいが、からだの不調(2人), 心身ともに不調(1人), なんともいえない(2人)
12. その他 2 人目 (N=9)	心身ともに快調(6人), 精神的にはよいが、からだの不調(1人), 心身ともに不調(1人), なんともいえない(1人)
12. その他 3 人目 (N=3)	心身ともに快調(2人), なんともいえない(1人)
12. その他 4 人目 (N=2)	心身ともに快調(2人)

※不明・無回答除く

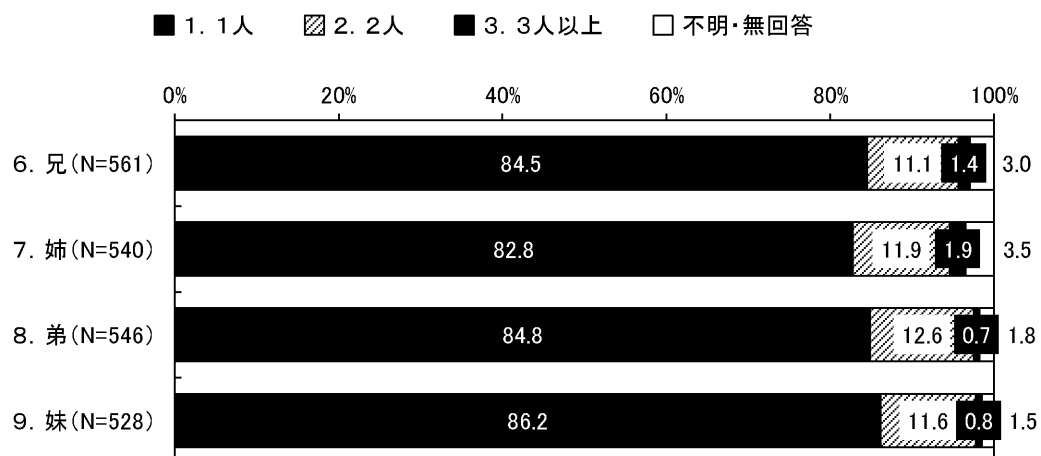
問8 あなたが小学6年生（12歳）の頃、どなたと同居されていましたか。（〇はいくつでも）
また、兄弟姉妹については（ ）に人数もご記入ください。

「3. 母」が97.2%と最も高く、次いで「2. 父」が92.7%, 「1. 本人」が71.0%となっています。兄弟姉妹の人数は、すべての項目で「1. 1人」が最も高くなっています。

(N=1,866)

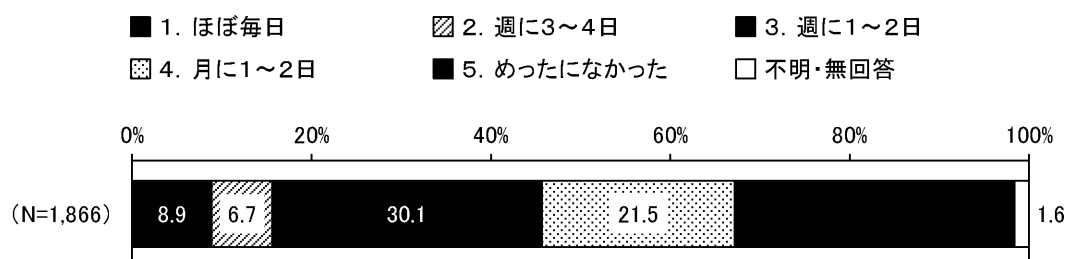


◆兄弟姉妹の人数



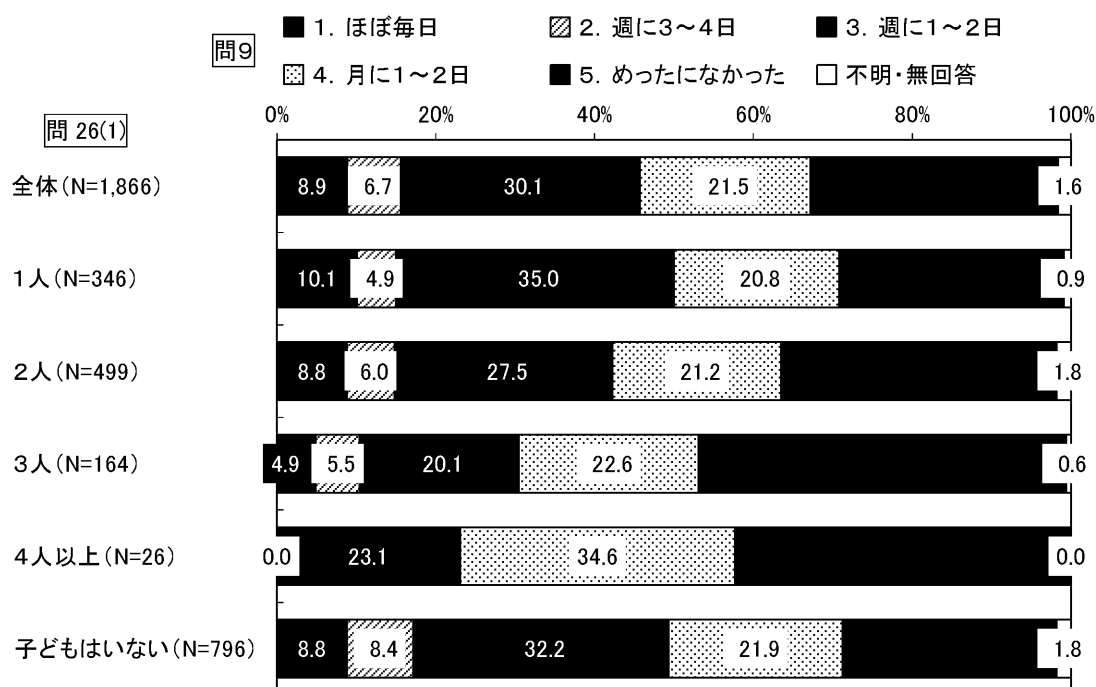
問9 あなたは、12歳の頃、親や保護者と遊ぶ機会は、どの程度ありましたか。(〇は1つ)

「5. めったになかった」が31.2%と最も高く、次いで「3. 週に1～2日」が30.1%, 「4. 月に1～2日」が21.5%となっています。



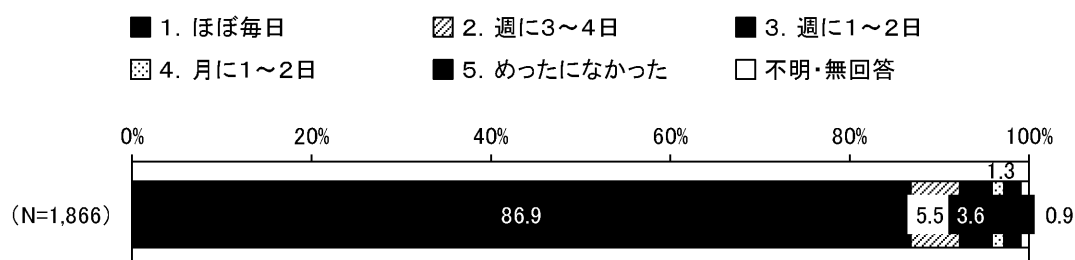
《問9 12歳の頃に親等と遊んだ頻度×問26(1)子どもの人数別》

『1人』『子どもはいない』では「3. 週に1～2日」、それ以外の区分では「5. めったになかった」の割合が最も高くなっています。



問10 あなたは、12歳の頃、親や保護者と一緒に食事をする機会は、どの程度ありましたか。(〇は1つ)

「1. ほぼ毎日」が86.9%と最も高く、次いで「2. 週に3～4日」が5.5%, 「3. 週に1～2日」が3.6%となっています。

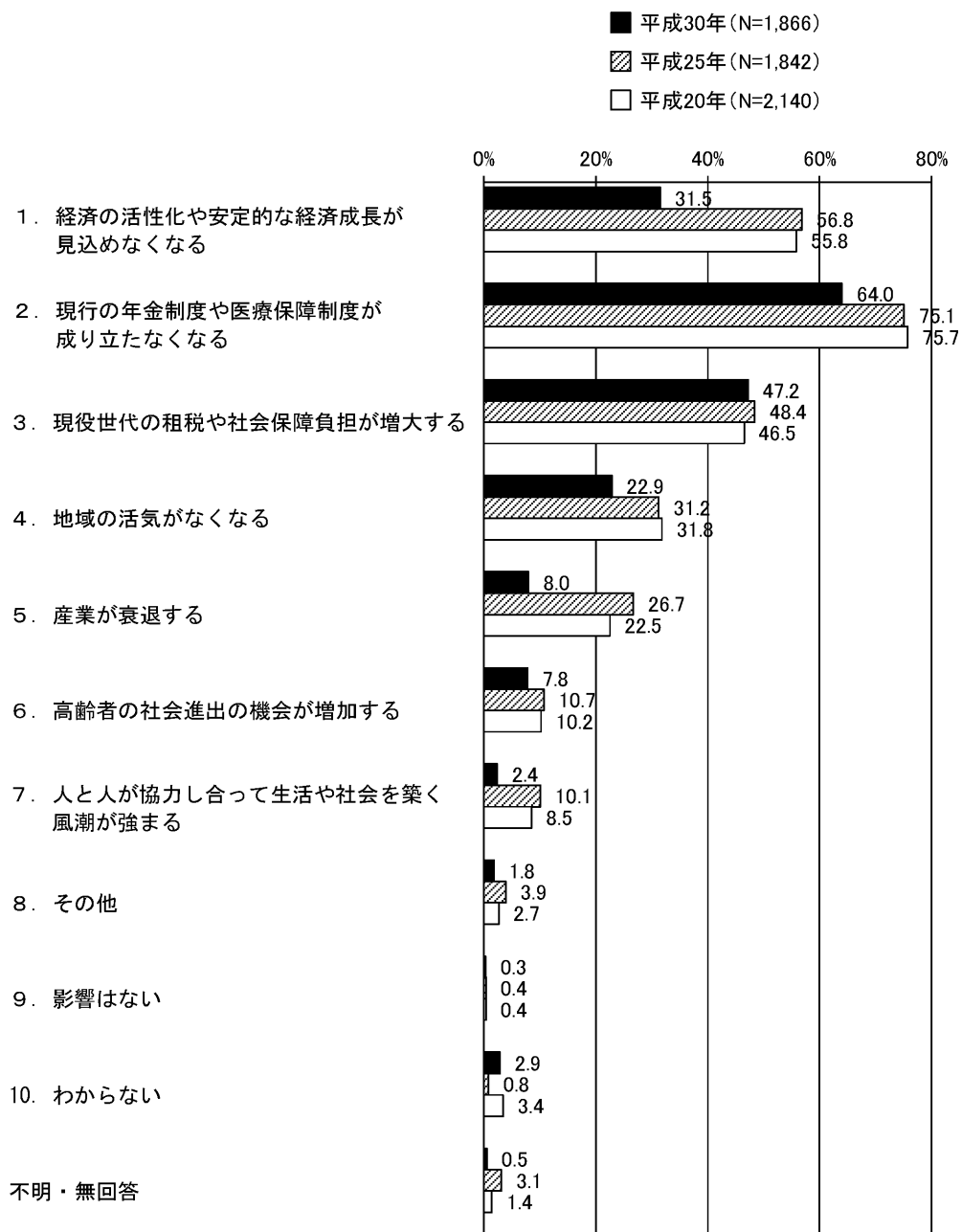


2 少子化について

問 11 少子化は社会にどのような影響を与えますか。(〇は2つまで)

「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」が 64.0%と最も高く、次いで「3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大する」が 47.2%、「1. 経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」が 31.5%となっています。

過去調査と比較すると、「1. 経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」が平成 25 年より 25.3 ポイント、平成 20 年より 24.3 ポイント、「5. 産業が衰退する」が平成 25 年より 18.7 ポイント、平成 20 年より 14.5 ポイント低くなっています。



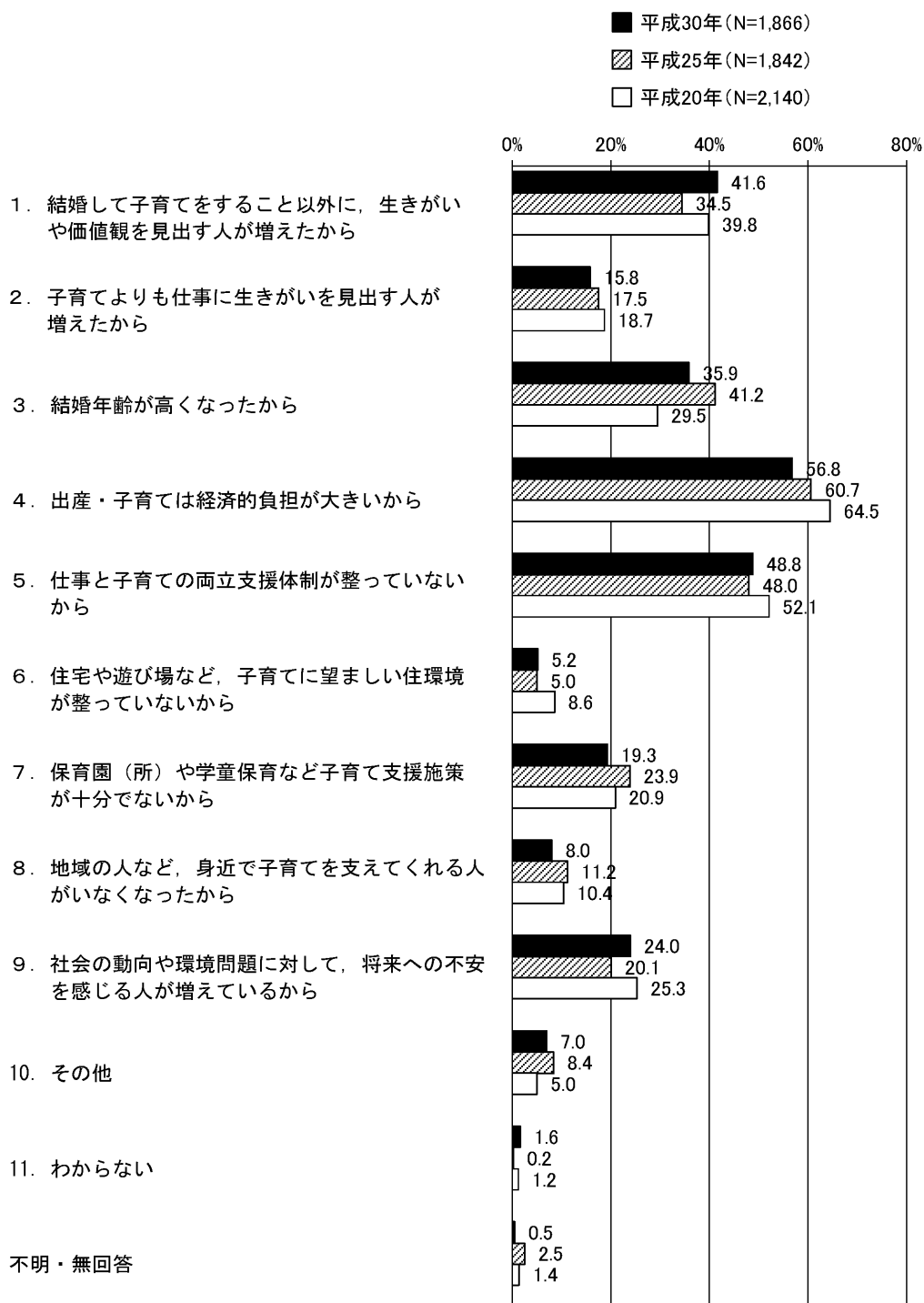
※「6. 高齢者の社会進出の機会が増加する」は、平成 25 年、平成 20 年では「就労人口が減少し、女性や高齢者の社会進出の機会が増加する」

※「7. 人と人が協力し合って生活や社会を築く風潮が強まる」は、平成 25 年、平成 20 年では「女性の就労が促進され、男女が協力し合って生活や社会を築く風潮が強まる」

問 12 出生率（総人口に対する，１年間に生まれた子どもの数の割合）が低い主な原因は何だと思えますか。（〇は３つまで）

「４．出産・子育ては経済的負担が大きいから」が 56.8%と最も高く，次いで「５．仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」が 48.8%，「１．結婚して子育てをすること以外に，生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が 41.6%となっています。

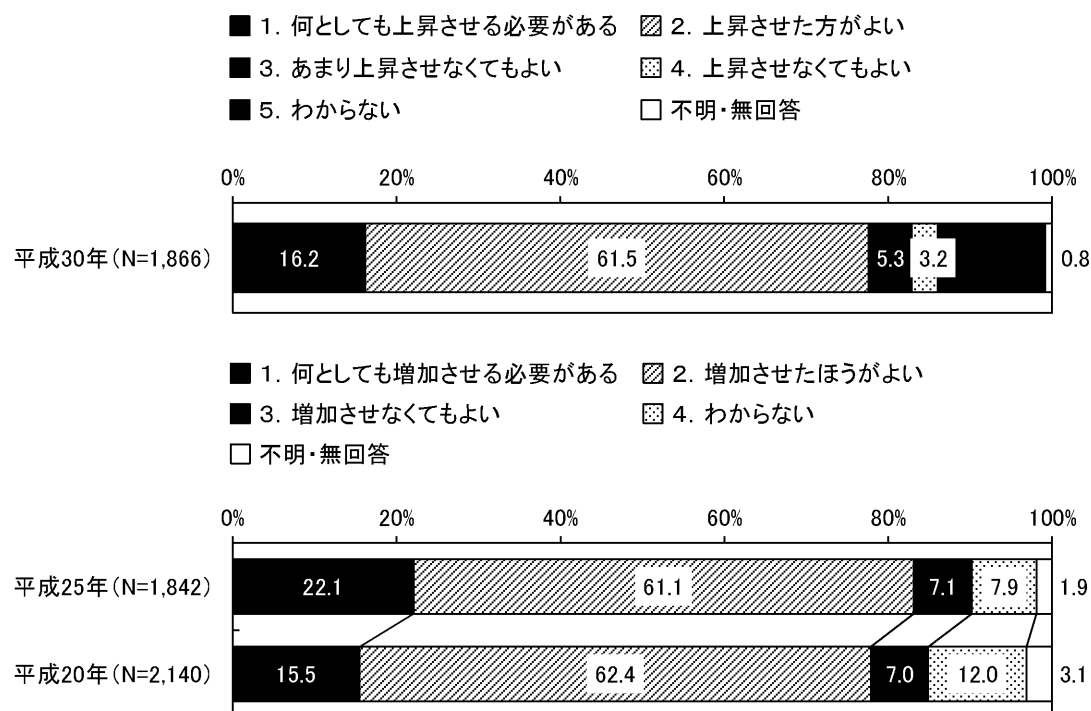
平成 25 年と比較すると，「１．結婚して子育てをすること以外に，生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が 7.1 ポイント高く，「３．結婚年齢が高くなったから」が 5.3 ポイント低く，平成 20 年と比較すると，「４．出産・子育ては経済的負担が大きいから」が 7.7 ポイント低く，「３．結婚年齢が高くなったから」が 6.4 ポイント高くなっています。



問 13 あなたは、出生率の上昇が必要だと思いますか。(〇は1つ)

「2. 上昇させた方がよい」が61.5%と最も高く、次いで「1. 何としても上昇させる必要がある」が16.2%, 「5. わからない」が13.1%となっています。

平成25年と比較すると, 「1. 何としても上昇させる必要がある」(平成25年では「1. 何としても増加させる必要がある」)が5.9ポイント低くなっています。

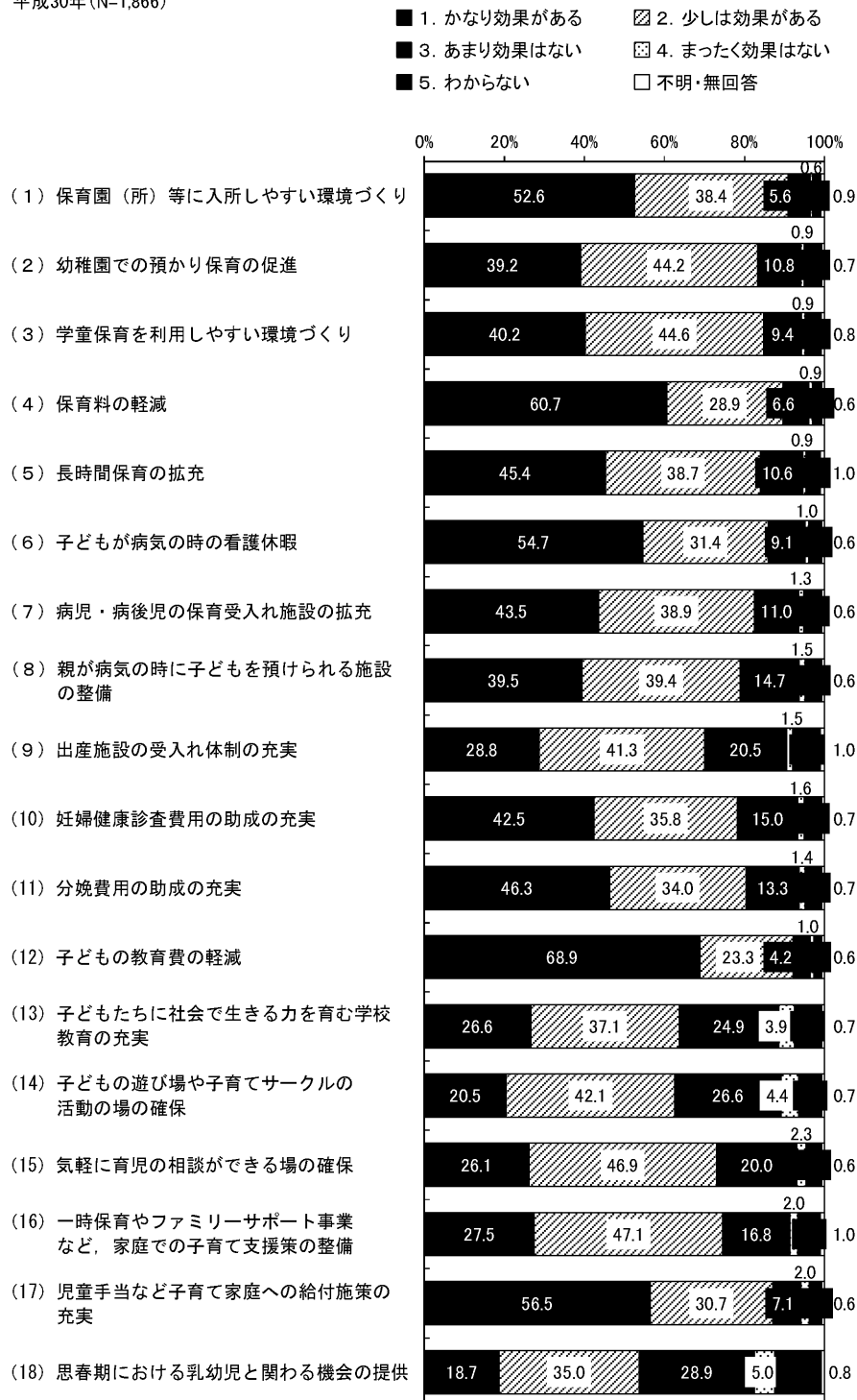


問 14(1) 以下のそれぞれの取組・施策について、少子化対策として効果があると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

『効果がある(「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計)』は、[(12) 子どもの教育費の軽減]が92.2%と最も高く、次いで[(1) 保育園(所)等に入所しやすい環境づくり]が91.0%、[(4) 保育料の軽減]が89.6%となっています。

『効果はない(「3. あまり効果はない」と「4. まったく効果はない」の合計)』は、[(18) 思春期における乳幼児と関わる機会の提供]が33.9%と最も高く、次いで[(14) 子どもの遊び場や子育てサークルの活動の場の確保]が31.0%となっています。

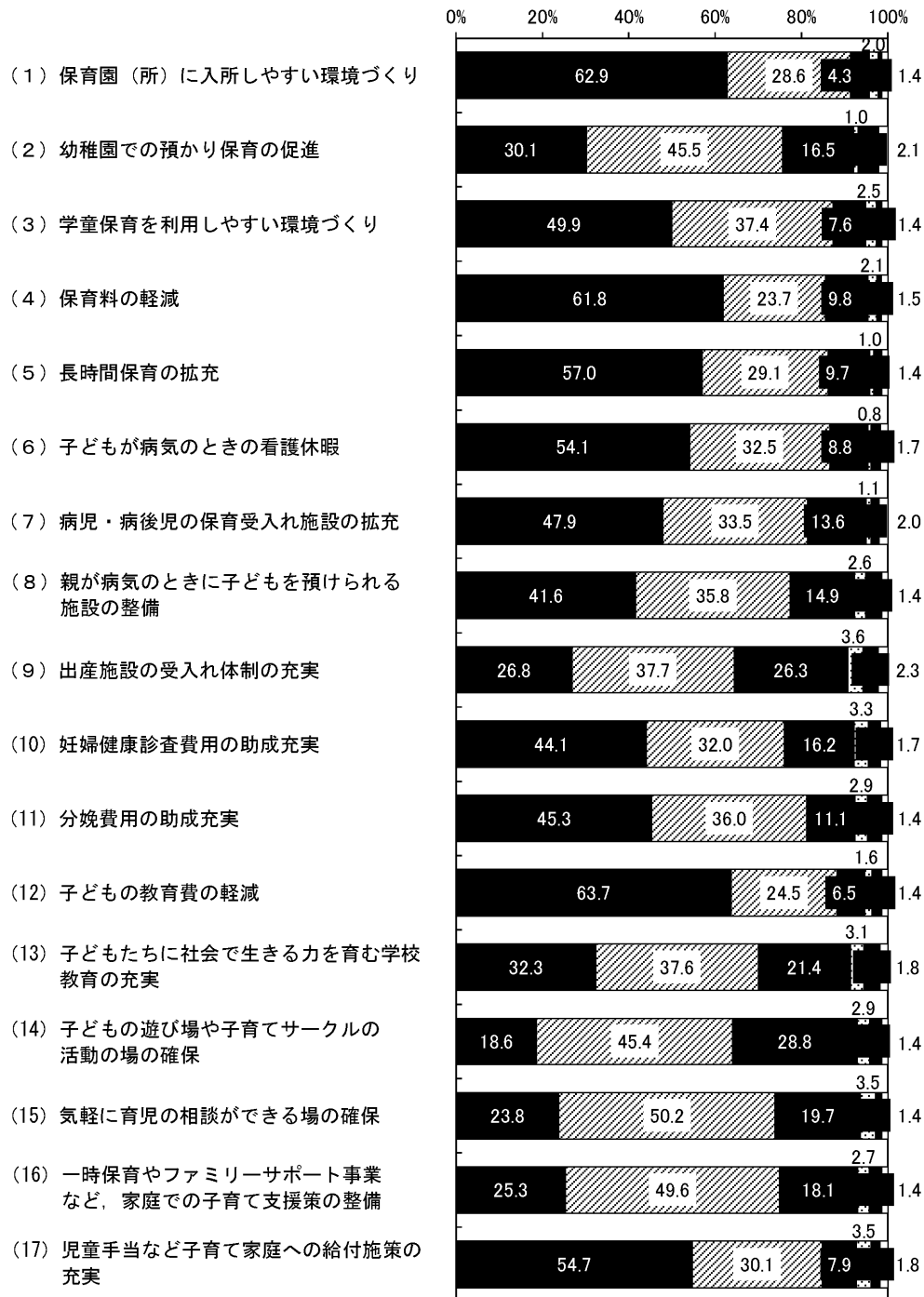
平成30年(N=1,866)



平成25年と比較すると、『効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）』では，[(2) 幼稚園での預かり保育の促進] が7.8ポイント高く，[(13) 子どもたちに社会で生きる力を育む学校教育の充実] が6.2ポイント低くなっています。

平成25年(N=1,842)

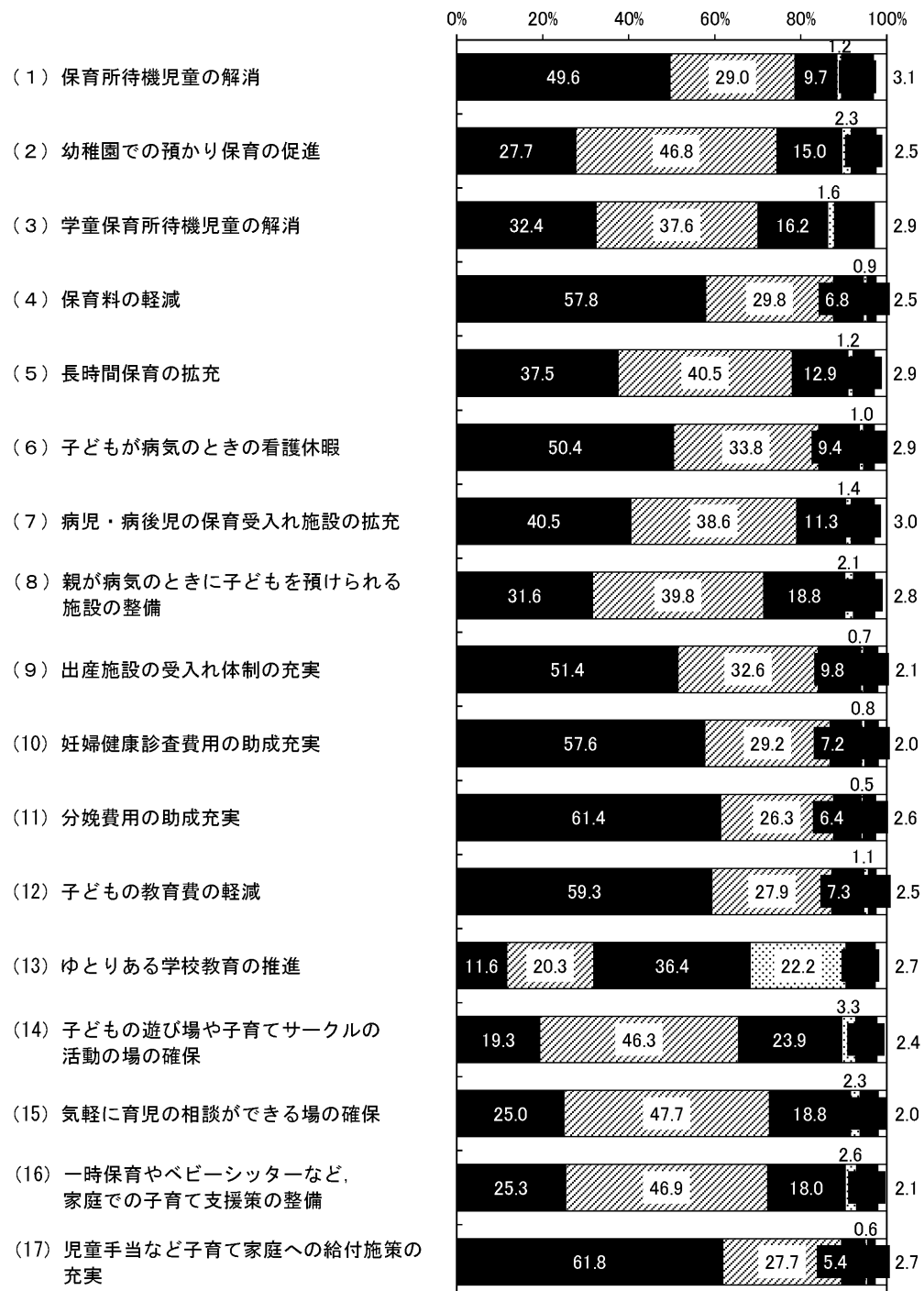
■ 1. かなり効果がある ▨ 2. 少しは効果がある
 ■ 3. あまり効果はない ▩ 4. 全く効果はない
 ■ 5. わからない □ 不明・無回答



※参考（平成 20 年）

平成20年(N=2,140)

- 1. かなり効果がある ▨ 2. 少しは効果がある
 ■ 3. あまり効果はない ▩ 4. 全く効果はない
 ■ 5. わからない □ 不明・無回答



問 14(2) 以下のそれぞれの取組について、少子化対策として効果があると思いますか。

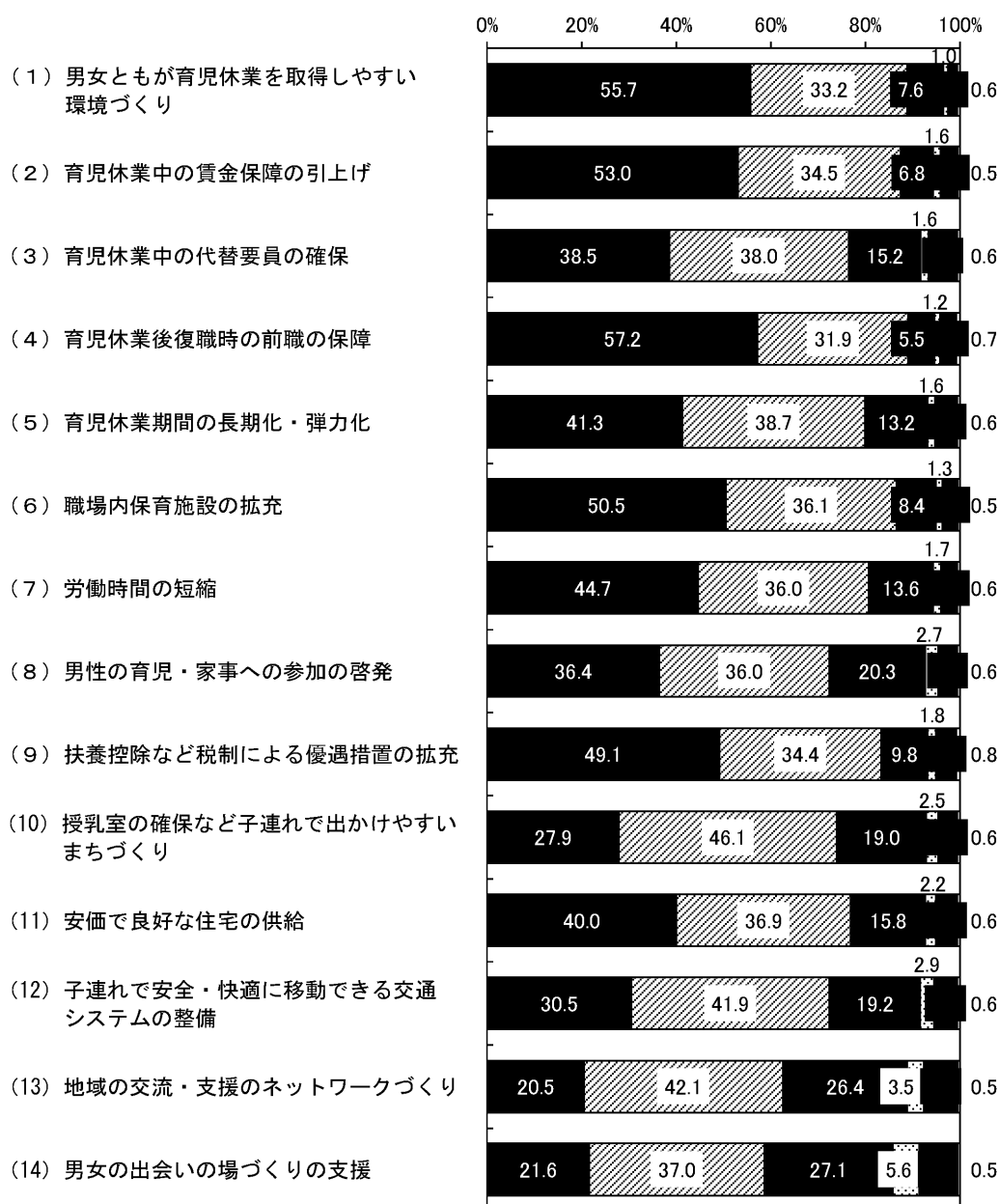
(○はそれぞれ1つずつ)

『効果がある(「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計)』は、[(4) 育児休業後復職時の前職の保障]が89.1%と最も高く、次いで[(1) 男女ともが育児休業を取得しやすい環境づくり]が88.9%, [(2) 育児休業中の賃金保障の引上げ]が87.5%となっています。

『効果はない(「3. あまり効果はない」と「4. まったく効果はない」の合計)』は、[(14) 男女の出会いの場づくりの支援]が32.7%と最も高く、次いで[(13) 地域の交流・支援のネットワークづくり]が29.9%となっています。

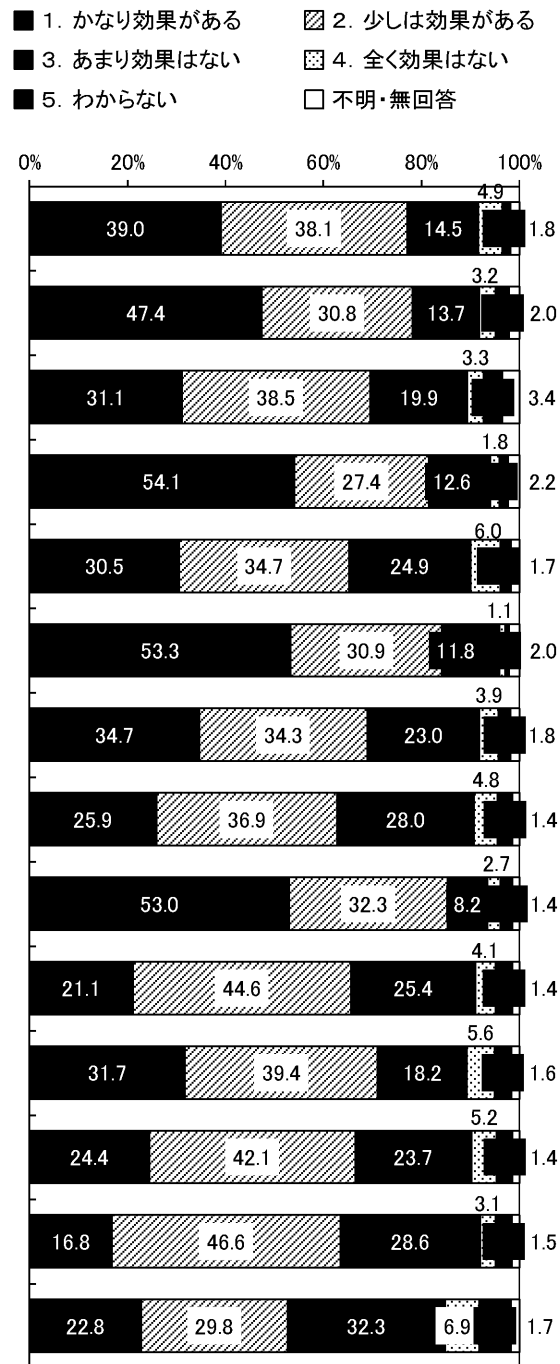
平成30年(N=1,866)

■ 1. かなり効果がある ▨ 2. 少しは効果がある
■ 3. あまり効果はない ▨ 4. まったく効果はない
■ 5. わからない □ 不明・無回答



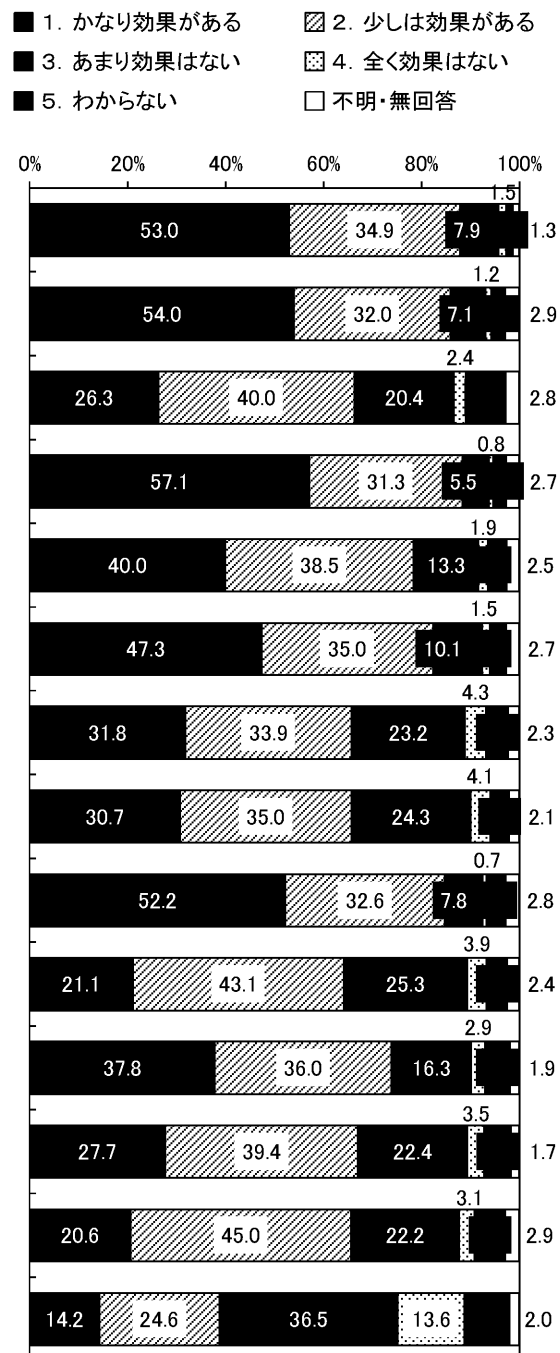
平成25年と比較すると、『効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）』では，〔（5）育児休業期間の長期化・弾力化〕が14.8ポイント，〔（1）男女ともが育児休業を取得しやすい環境づくり〕が11.8ポイント，〔（7）労働時間の短縮〕が11.7ポイント高くなっています。

平成25年(N=1,842)



平成 20 年と比較すると、『効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）』では，〔(14) 男女の出会いの場づくりの支援〕が 19.8 ポイント，〔(7) 労働時間の短縮〕が 15.0 ポイント，〔(3) 育児休業中の代替要員の確保〕が 10.2 ポイント高くなっています。

平成20年(N=2,140)

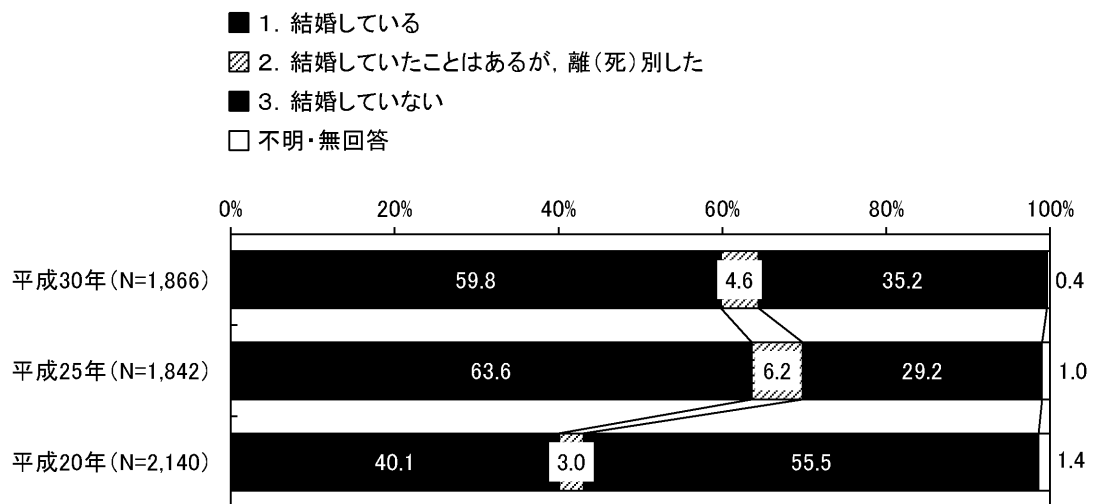


3 結婚について

問 15(1) あなたは結婚(入籍していないいわゆる事実婚も含みます)していますか。(○は1つ)

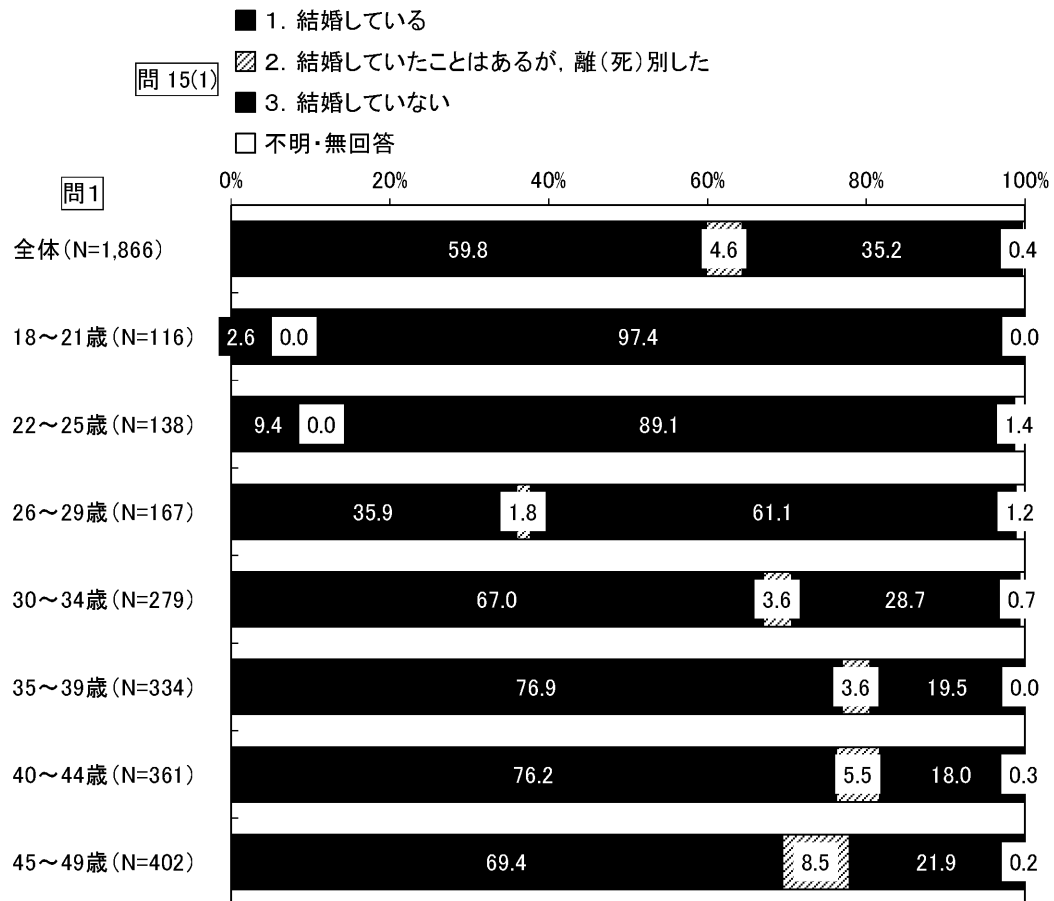
「1. 結婚している」が59.8%と最も高く、次いで「3. 結婚していない」が35.2%となっています。

過去調査と比較すると、「1. 結婚している」が平成25年より3.8ポイント低く、平成20年より19.7ポイント高くなっています。



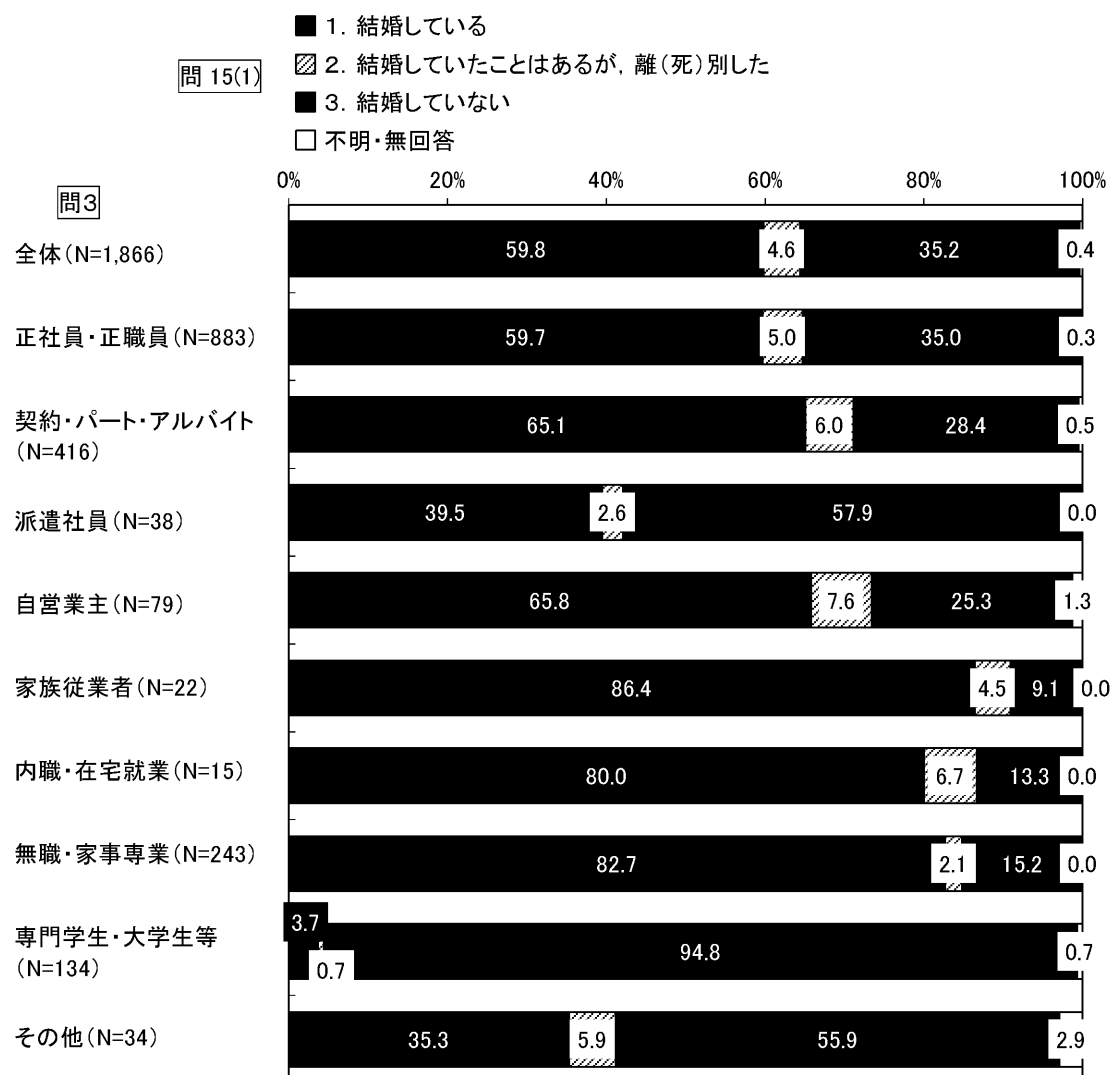
《問 15(1)結婚の有無×問 1 年齢別》

18～29 歳では「3. 結婚していない」、30 歳以上では「1. 結婚している」の割合が最も高くなっています。



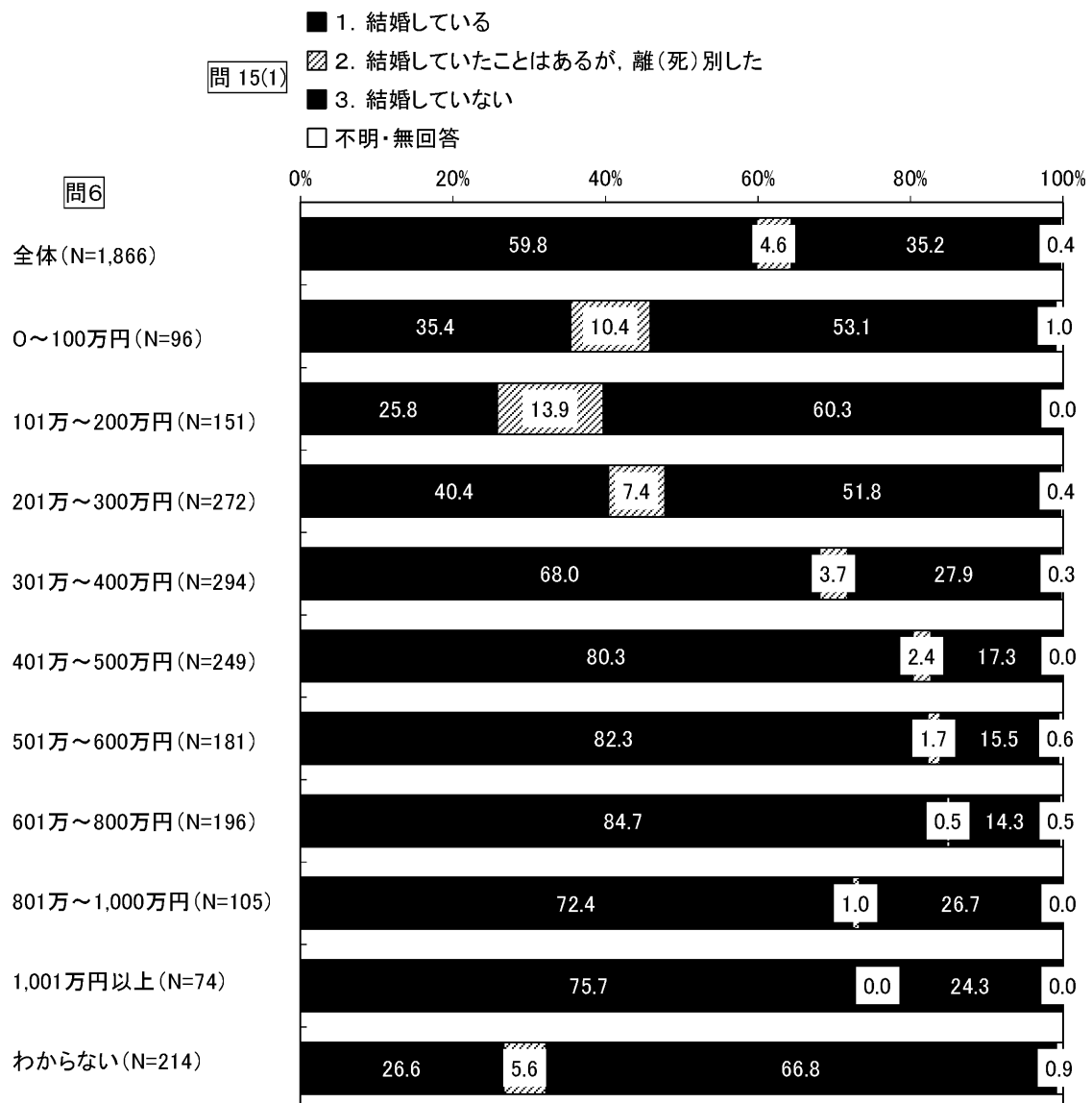
《問 15(1)結婚の有無×問 3 就労形態別》

『正社員・正職員』『契約・パート・アルバイト』『自営業主』『家族従業者』『内職・在宅就業』『無職・家事専業』では「1. 結婚している」,『派遣社員』『専門学生・大学生等』『その他』では「3. 結婚していない」の割合が最も高くなっています。



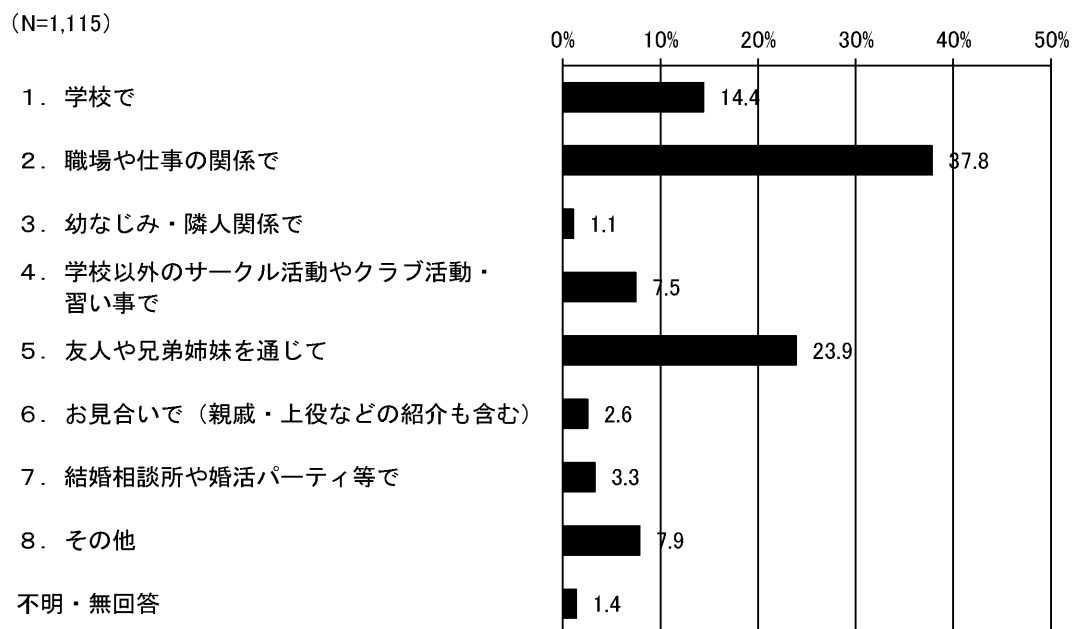
《問 15(1)結婚の有無×問 6 昨年 1 年間の可処分所得別》

『0～100 万円』『101 万～200 万円』『201 万～300 万円』『わからない』では「3. 結婚していない」、それ以外の区分では「1. 結婚している」の割合が最も高くなっています。



問 15(2) 結婚相手とはどのように知り合いましたか。(○は1つ)

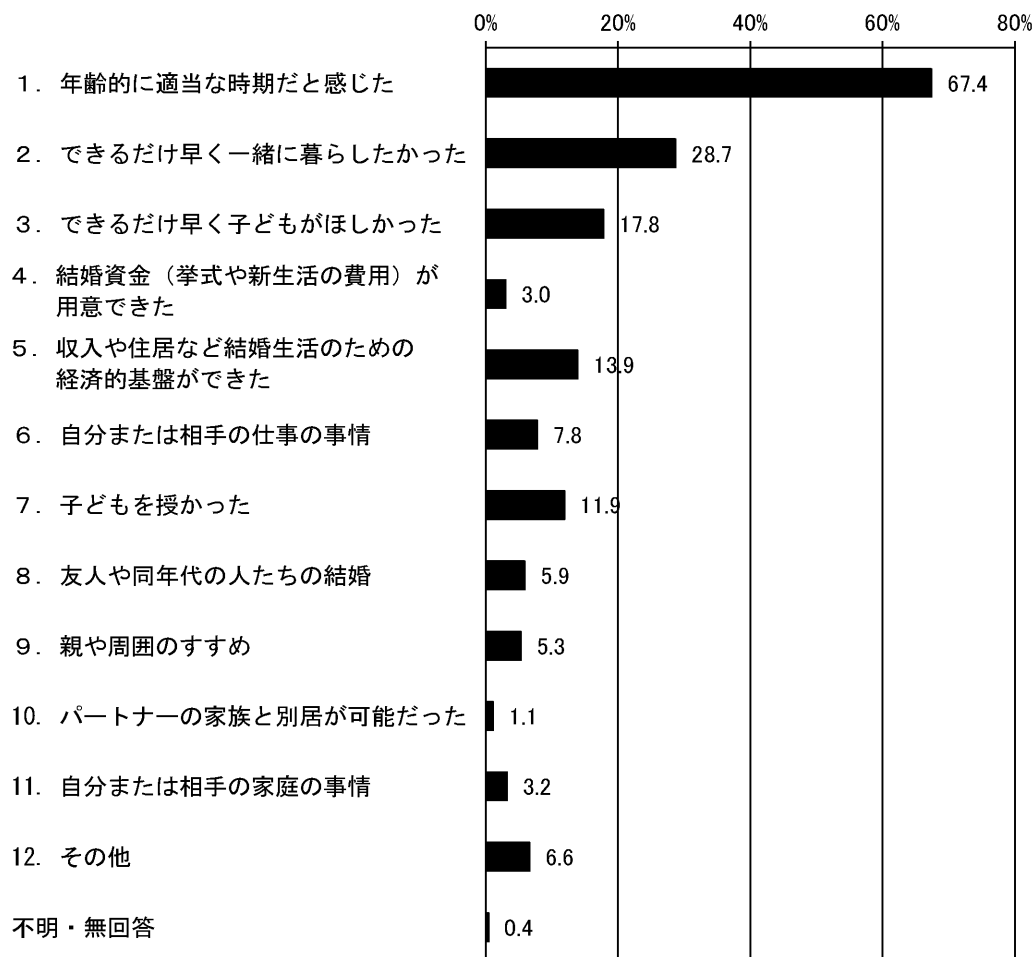
「2. 職場や仕事の関係で」が37.8%と最も高く、次いで「5. 友人や兄弟姉妹を通じて」が23.9%, 「1. 学校で」が14.4%となっています。



問 15(3) 最終的に結婚を決めた時の直接のきっかけは何ですか。(〇は3つまで)

「1. 年齢的に適当な時期だと感じた」が67.4%と最も高く、次いで「2. できるだけ早く一緒に暮らしたかった」が28.7%, 「3. できるだけ早く子どもがほしかった」が17.8%となっています。

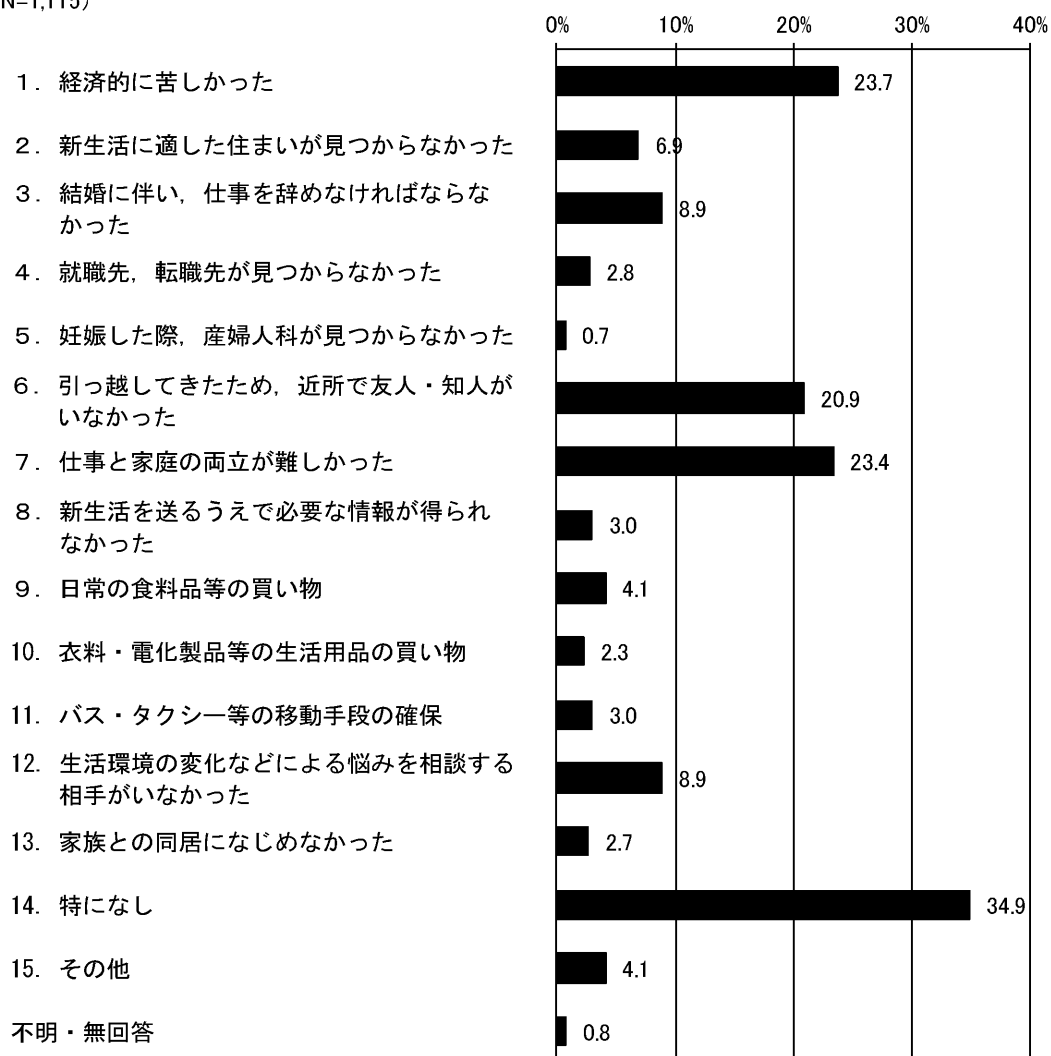
(N=1,115)



問 15(4) 結婚した後の新生活で困ったことはありませんでしたか。(〇は3つまで)

「14. 特になし」が34.9%と最も高く、次いで「1. 経済的に苦しかった」が23.7%, 「7. 仕事と家庭の両立が難しかった」が23.4%となっています。

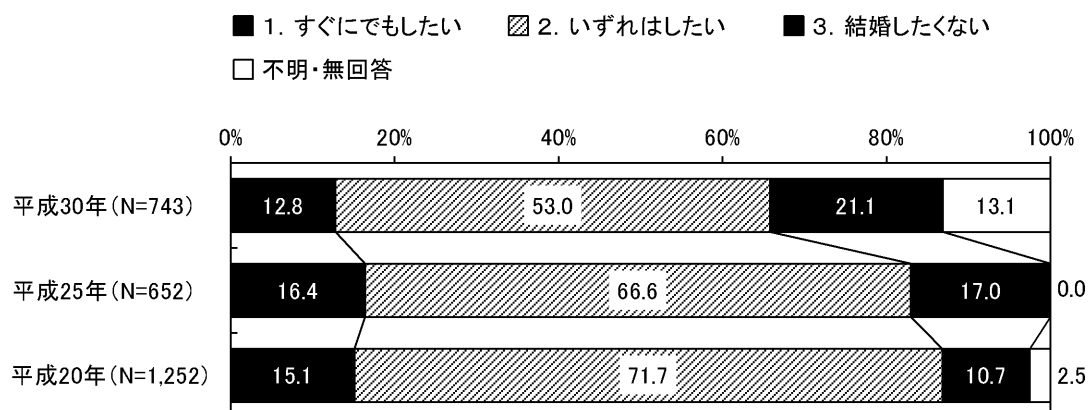
(N=1,115)



問 15(5) 将来、結婚したいと思いますか。(〇は1つ)

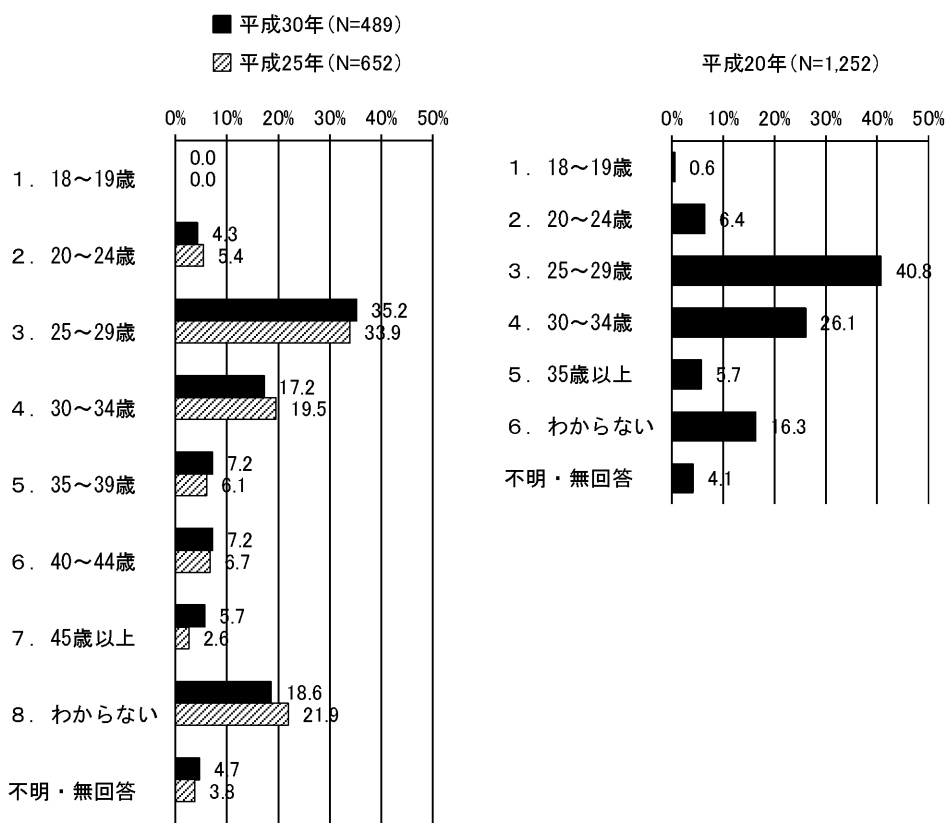
「2. いずれはしたい」が53.0%と最も高く、次いで「3. 結婚したくない」が21.1%となっています。

過去調査と比較すると、「3. 結婚したくない」が平成25年より4.1ポイント、平成20年より10.4ポイント高くなっています。



問 15(6) あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。(〇は1つ)

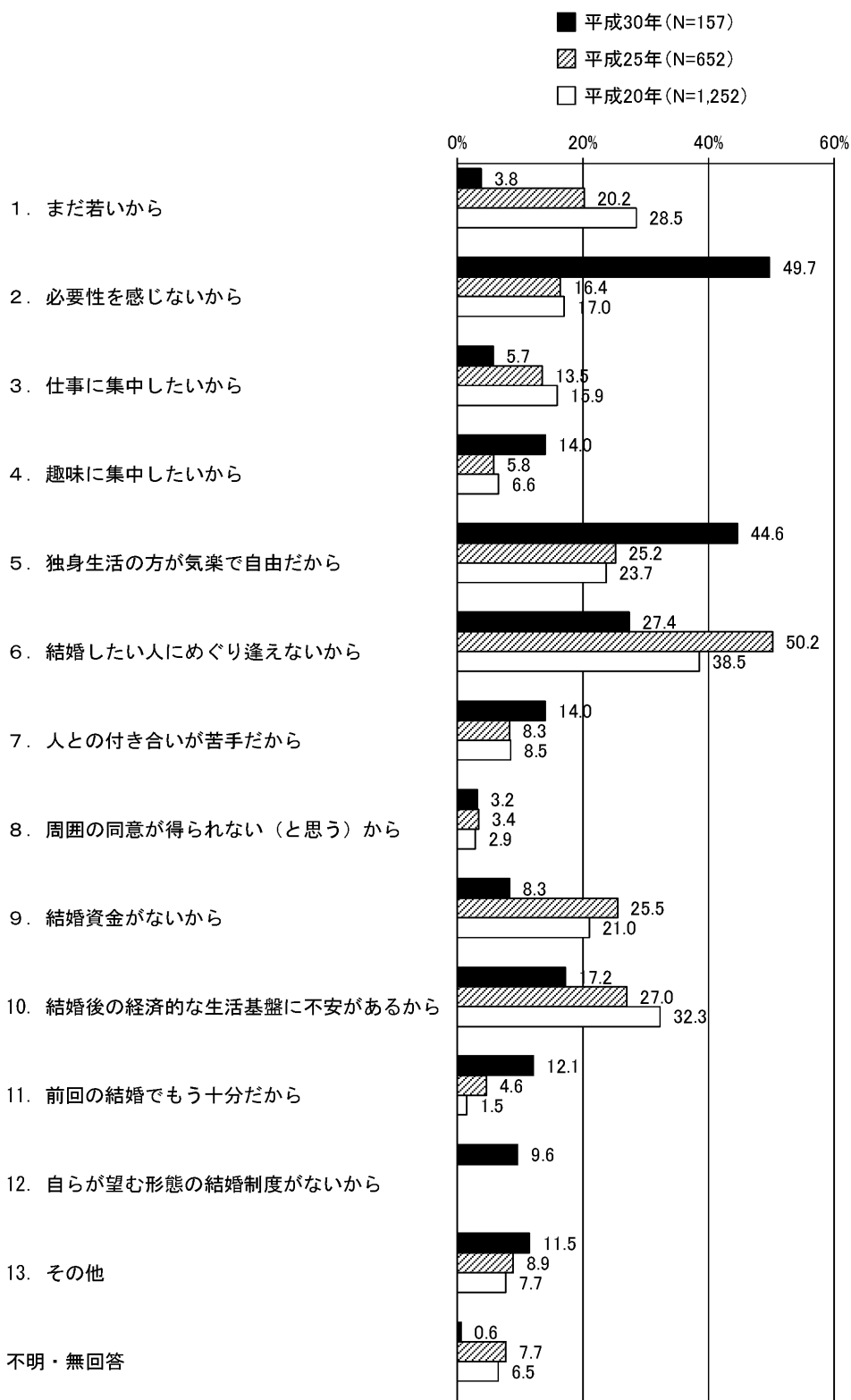
「3. 25～29 歳」が35.2%と最も高く、次いで「8. わからない」が18.6%、「4. 30～34 歳」が17.2%となっています。



※平成30年は限定設問のため、サンプル数が異なる

問 15(7) 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「2. 必要性を感じないから」が49.7%と最も高く、次いで「5. 独身生活の方が気楽で自由だから」が44.6%、「6. 結婚したい人にめぐり逢えないから」が27.4%となっています。

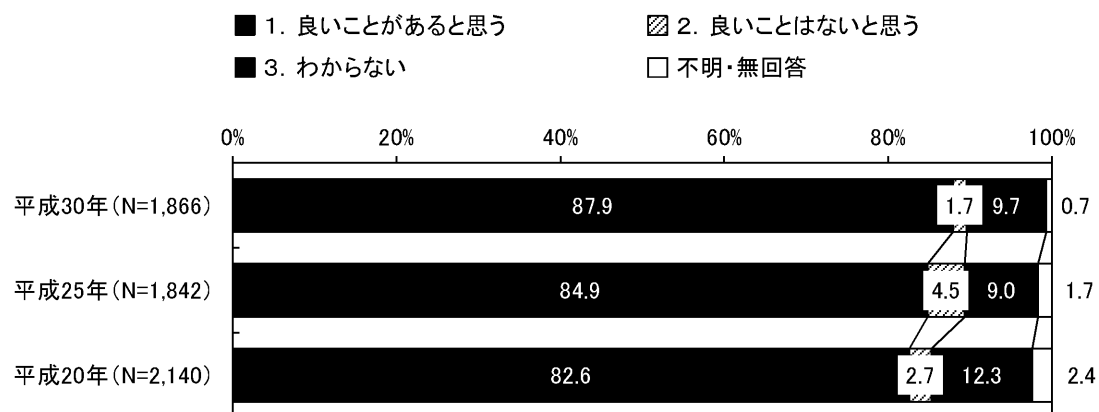


※「12. 自らが望む形態の結婚制度がないから」は平成30年のみの選択肢
 ※平成30年は限定設問のため、サンプル数が異なる

問 16(1) 結婚生活には、独身生活にはない「良いこと」があると思いますか。(〇は1つ)

「1. 良いことがあると思う」が87.9%と最も高く、次いで「3. わからない」が9.7%となっています。

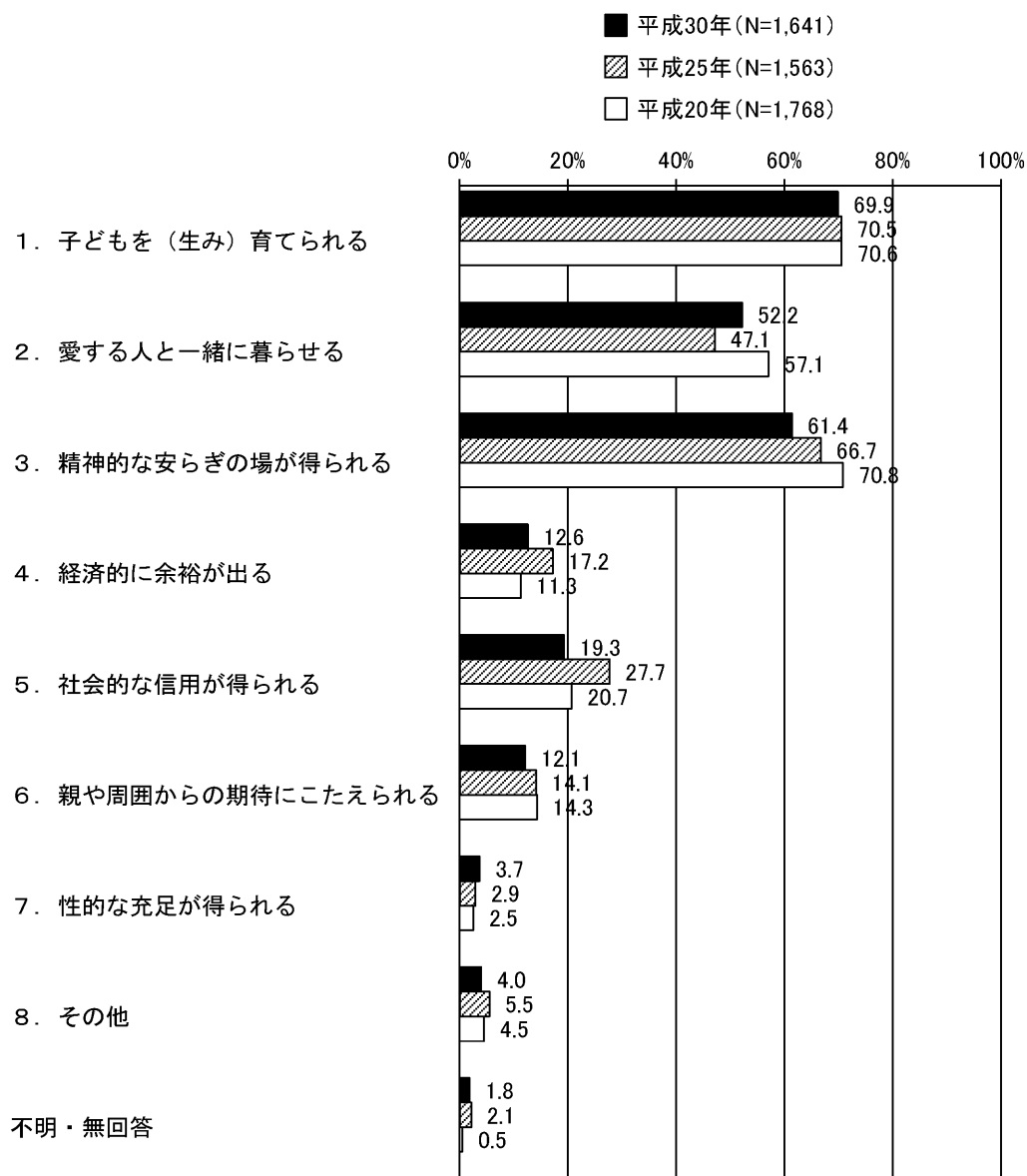
過去調査と比較すると、「1. 良いことがあると思う」が平成25年より3.0ポイント、平成20年より5.3ポイント高くなっています。



問 16(2) 具体的な「良いこと」はどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

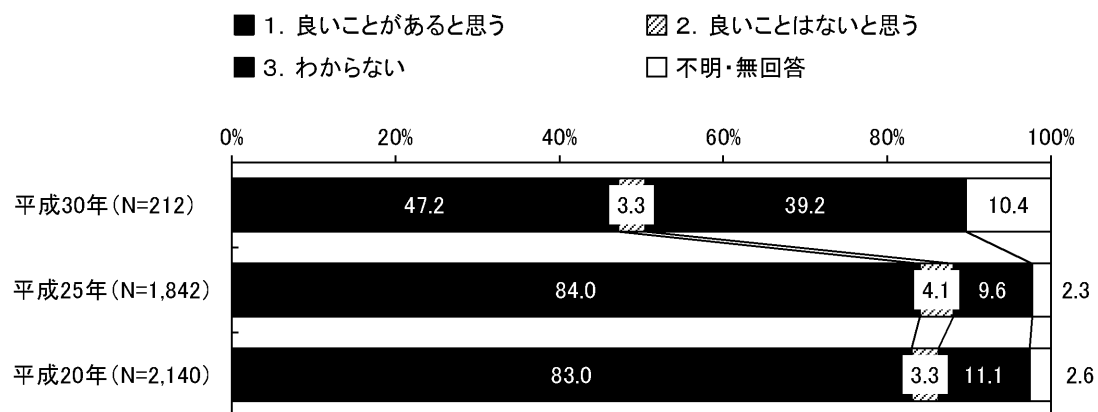
「1. 子どもを（生み）育てられる」が69.9%と最も高く、次いで「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が61.4%, 「2. 愛する人と一緒に暮らせる」が52.2%となっています。

平成25年と比較すると, 「5. 社会的な信用が得られる」が8.4ポイント, 「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が5.3ポイント低く, 平成20年と比較すると, 「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が9.4ポイント低くなっています。



問 17(1) 独身生活には、結婚生活にはない「良いこと」があると思いますか。(○は1つ)

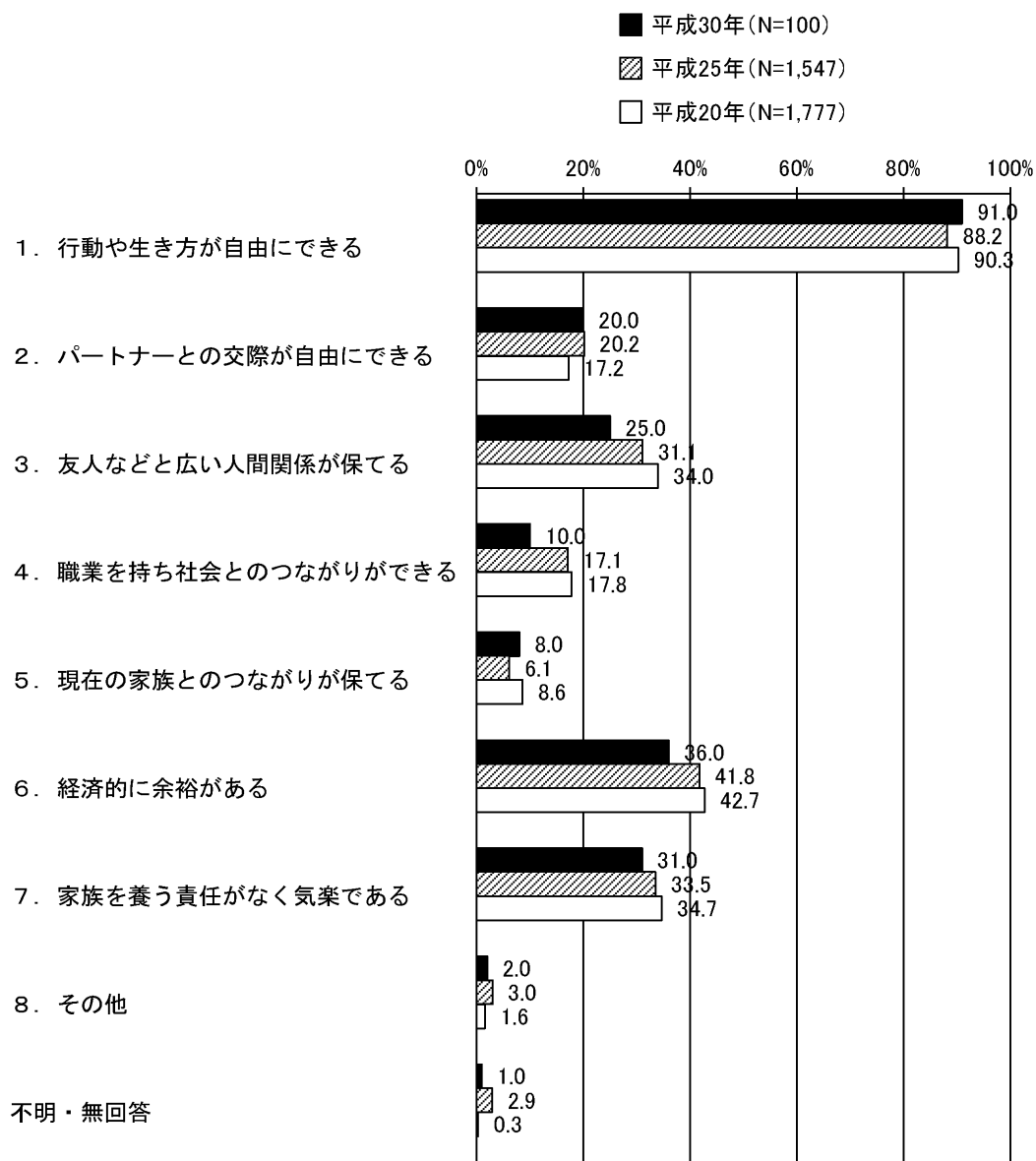
「1. 良いことがあると思う」が47.2%と最も高く、次いで「3. わからない」が39.2%となっています。



※平成30年は限定設問のため、サンプル数が異なる

問 17(2) 具体的な「良いこと」はどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

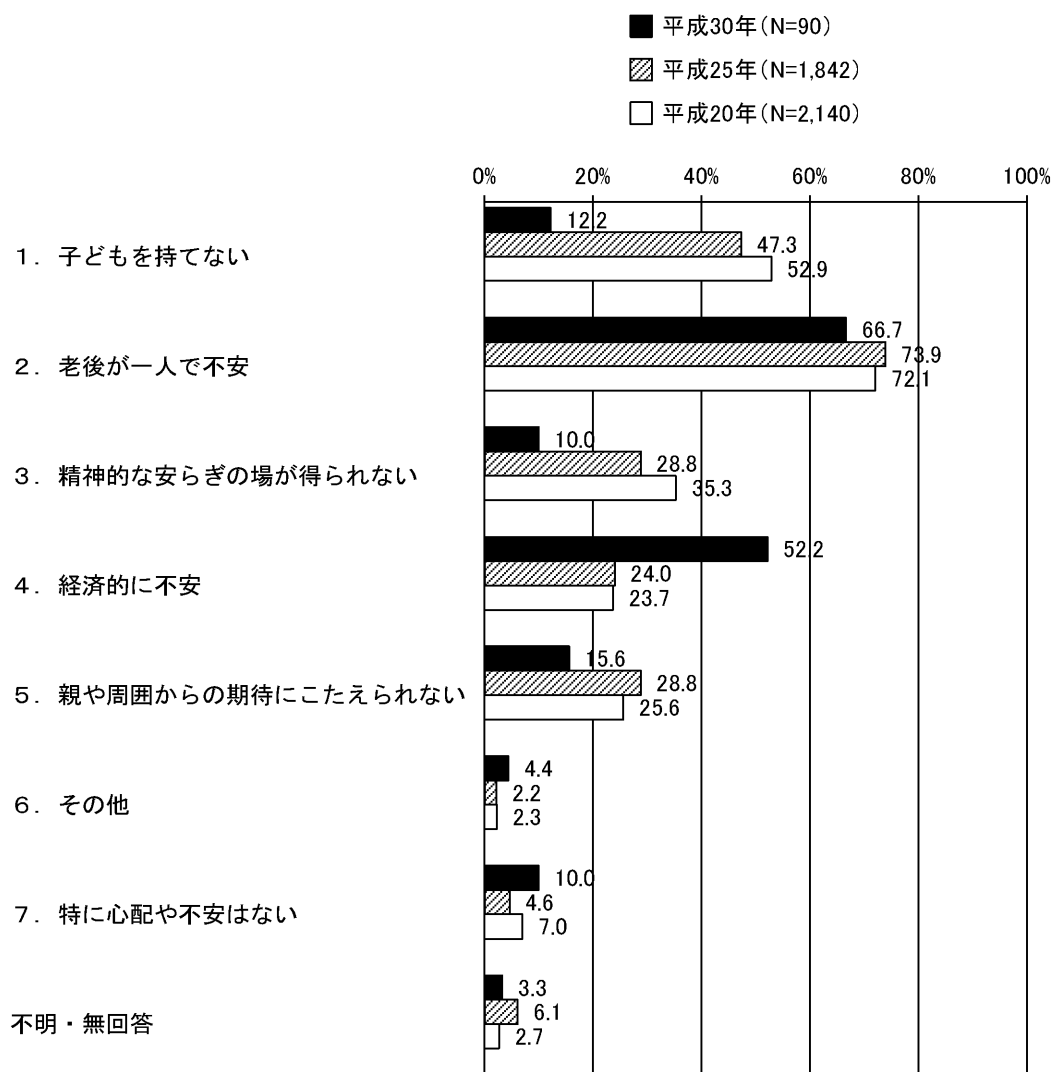
「1. 行動や生き方が自由にできる」が91.0%と最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」が36.0%、「7. 家族を養う責任がなく気楽である」が31.0%となっています。



※平成30年は限定設問のため、サンプル数が異なる

問 18 独身生活を続けるとした場合、どのような心配や不安がありますか。(〇は3つまで)

「2. 老後が一人で不安」が 66.7%と最も高く、次いで「4. 経済的に不安」が 52.2%, 「5. 親や周囲からの期待にこたえられない」が 15.6%となっています。

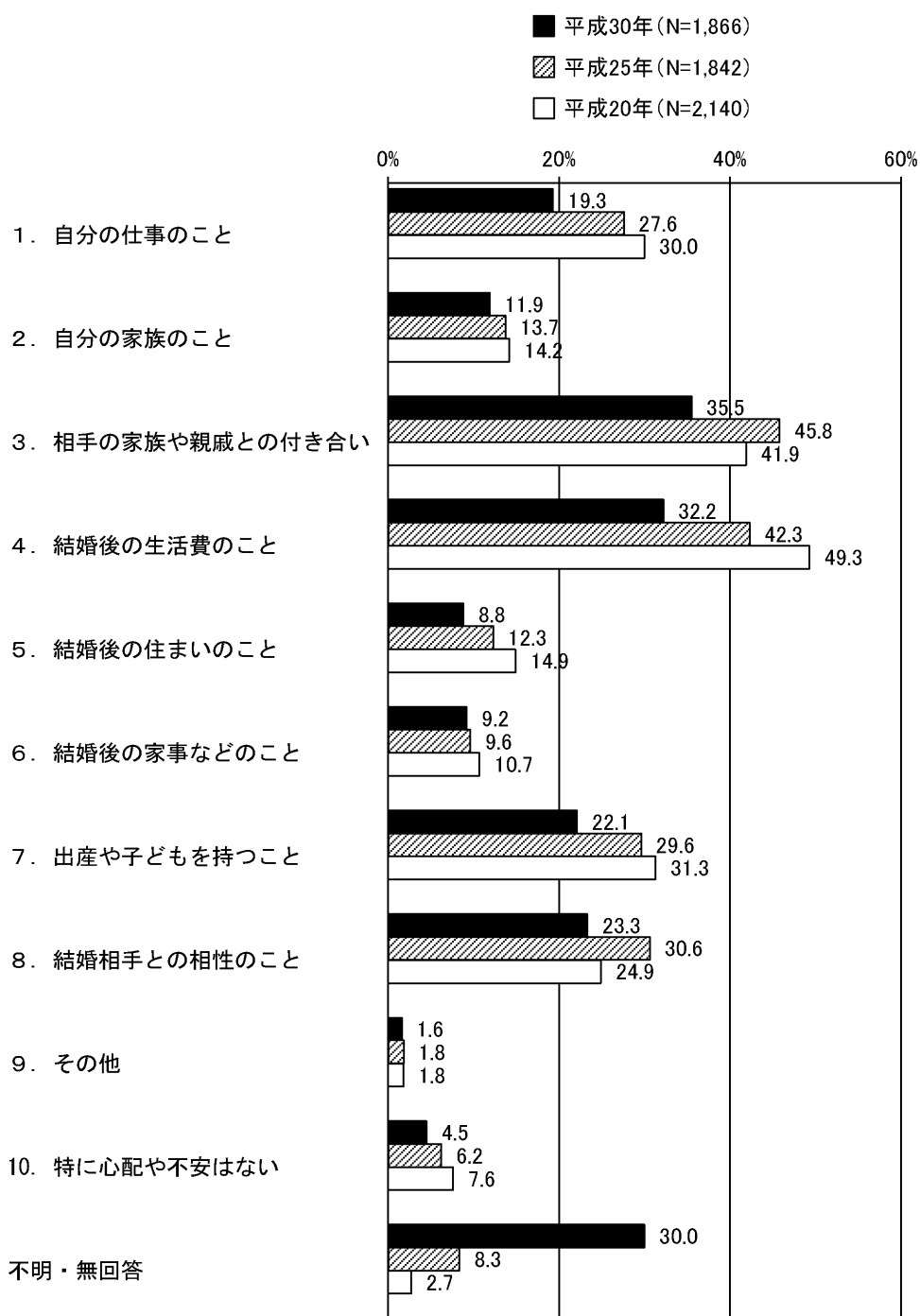


※平成 30 年は限定設問のため、サンプル数が異なる

問 19 結婚を考える場合、どのような心配や不安がありますか。(〇は3つまで)

「3. 相手の家族や親戚との付き合い」が35.5%と最も高く、次いで「4. 結婚後の生活費のこと」が32.2%、「8. 結婚相手との相性のこと」が23.3%となっています。

平成25年と比較すると、「3. 相手の家族や親戚との付き合い」が10.3ポイント、「4. 結婚後の生活費のこと」が10.1ポイント低く、平成20年と比較すると、「4. 結婚後の生活費のこと」が17.1ポイント、「1. 自分の仕事のこと」が10.7ポイント低くなっています。



《問 19 結婚にあたっての心配や不安×問 15(6)あなたが結婚したいと思う年齢別》

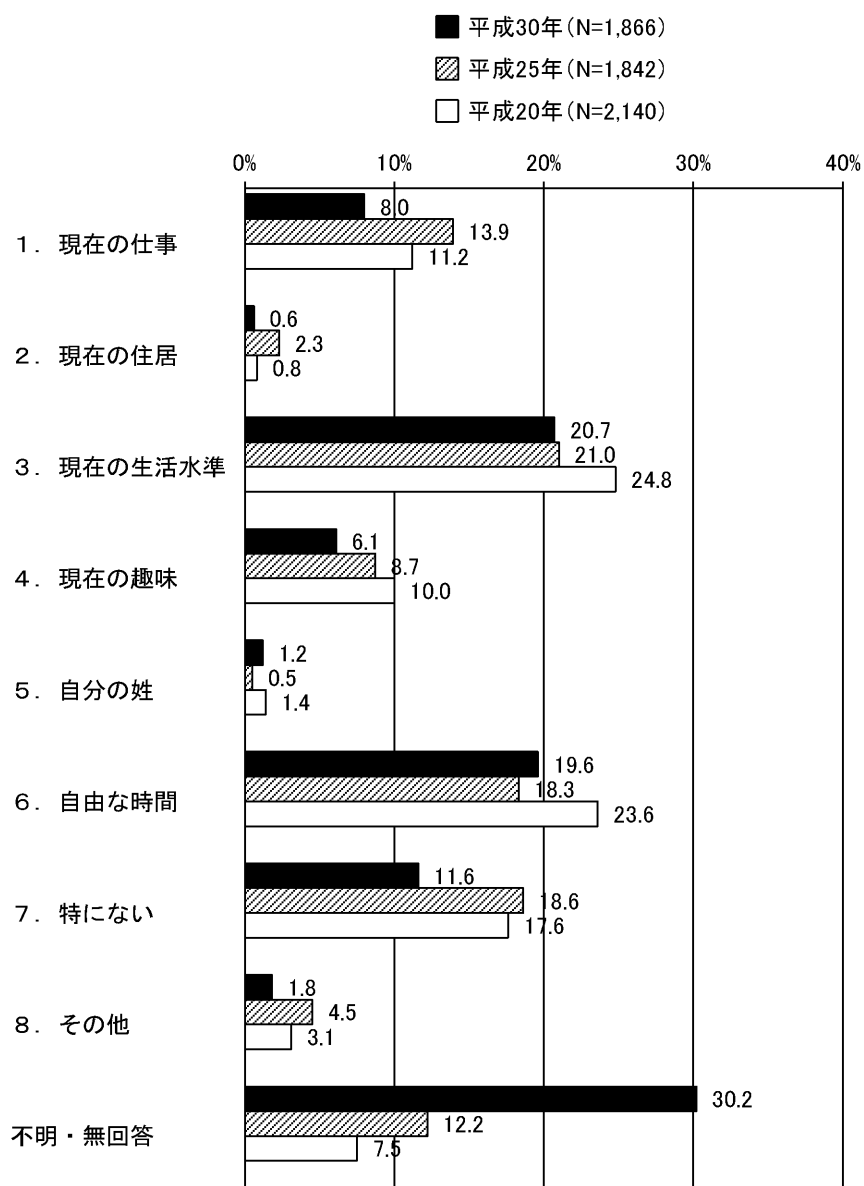
『20～24 歳』『25～29 歳』『30～34 歳』では「結婚後の生活費のこと」、『35～39 歳』『45 歳以上』『わからない』では「結婚相手との相性のこと」、『40～44 歳』では「相手の家族や親戚との付き合い」の割合が最も高くなっています。

489	147	85	200	214	67	56	149	175	9	24	33	
100.0	30.1	17.4	40.9	43.8	13.7	11.5	30.5	35.8	1.8	4.9	6.7	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
21	8	3	8	10	2	2	4	2	0	5	1	
100.0	38.1	14.3	38.1	47.6	9.5	9.5	19.0	9.5	0.0	23.8	4.8	
172	69	26	73	77	22	30	60	54	1	4	12	
100.0	40.1	15.1	42.4	44.8	12.8	17.4	34.9	31.4	0.6	2.3	7.0	
84	19	7	30	52	19	8	30	25	2	1	9	
100.0	22.6	8.3	35.7	61.9	22.6	9.5	35.7	29.8	2.4	1.2	10.7	
35	14	7	17	10	3	3	8	18	0	0	3	
100.0	40.0	20.0	48.6	28.6	8.6	8.6	22.9	51.4	0.0	0.0	8.6	
35	8	6	17	14	7	1	6	11	2	3	2	
100.0	22.9	17.1	48.6	40.0	20.0	2.9	17.1	31.4	5.7	8.6	5.7	
28	3	6	12	11	2	2	9	15	0	3	1	
100.0	10.7	21.4	42.9	39.3	7.1	7.1	32.1	53.6	0.0	10.7	3.6	
91	16	27	36	33	9	9	23	40	2	7	5	
100.0	17.6	29.7	39.6	36.3	9.9	9.9	25.3	44.0	2.2	7.7	5.5	

問 20 結婚生活を始めるとした場合、最も失いたくないものは何ですか。(〇は1つ)

「3. 現在の生活水準」が20.7%と最も高く、次いで「6. 自由な時間」が19.6%、「7. 特
にない」が11.6%となっています。

平成25年と比較すると、「7. 特にない」が7.0ポイント、「1. 現在の仕事」が5.9ポイント
低く、平成20年と比較すると、「7. 特にない」が6.0ポイント低くなっています。



《問 20 結婚生活で最も失いたくないもの×問 15(6)あなたが結婚したいと思う年齢別》

『20～24 歳』では「現在の生活水準」, 『25～29 歳』『30～34 歳』『35～39 歳』『わからない』では「自由な時間」, 『40～44 歳』では「現在の生活水準」と「特にない」, 『45 歳以上』では「特にない」の割合が最も高くなっています。

	489	58	6	117	52	8	144	61	10	33
	100.0	11.9	1.2	23.9	10.6	1.6	29.4	12.5	2.0	6.7
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	21	1	0	8	3	0	6	2	0	1
	100.0	4.8	0.0	38.1	14.3	0.0	28.6	9.5	0.0	4.8
	172	28	0	44	19	2	45	17	5	12
	100.0	16.3	0.0	25.6	11.0	1.2	26.2	9.9	2.9	7.0
	84	7	2	18	11	2	25	9	1	9
	100.0	8.3	2.4	21.4	13.1	2.4	29.8	10.7	1.2	10.7
	35	3	1	7	3	0	11	6	0	4
	100.0	8.6	2.9	20.0	8.6	0.0	31.4	17.1	0.0	11.4
	35	7	1	8	2	0	7	8	0	2
	100.0	20.0	2.9	22.9	5.7	0.0	20.0	22.9	0.0	5.7
	28	3	0	6	3	0	5	8	2	1
	100.0	10.7	0.0	21.4	10.7	0.0	17.9	28.6	7.1	3.6
	91	7	1	23	7	4	34	9	2	4
	100.0	7.7	1.1	25.3	7.7	4.4	37.4	9.9	2.2	4.4

問 21 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。

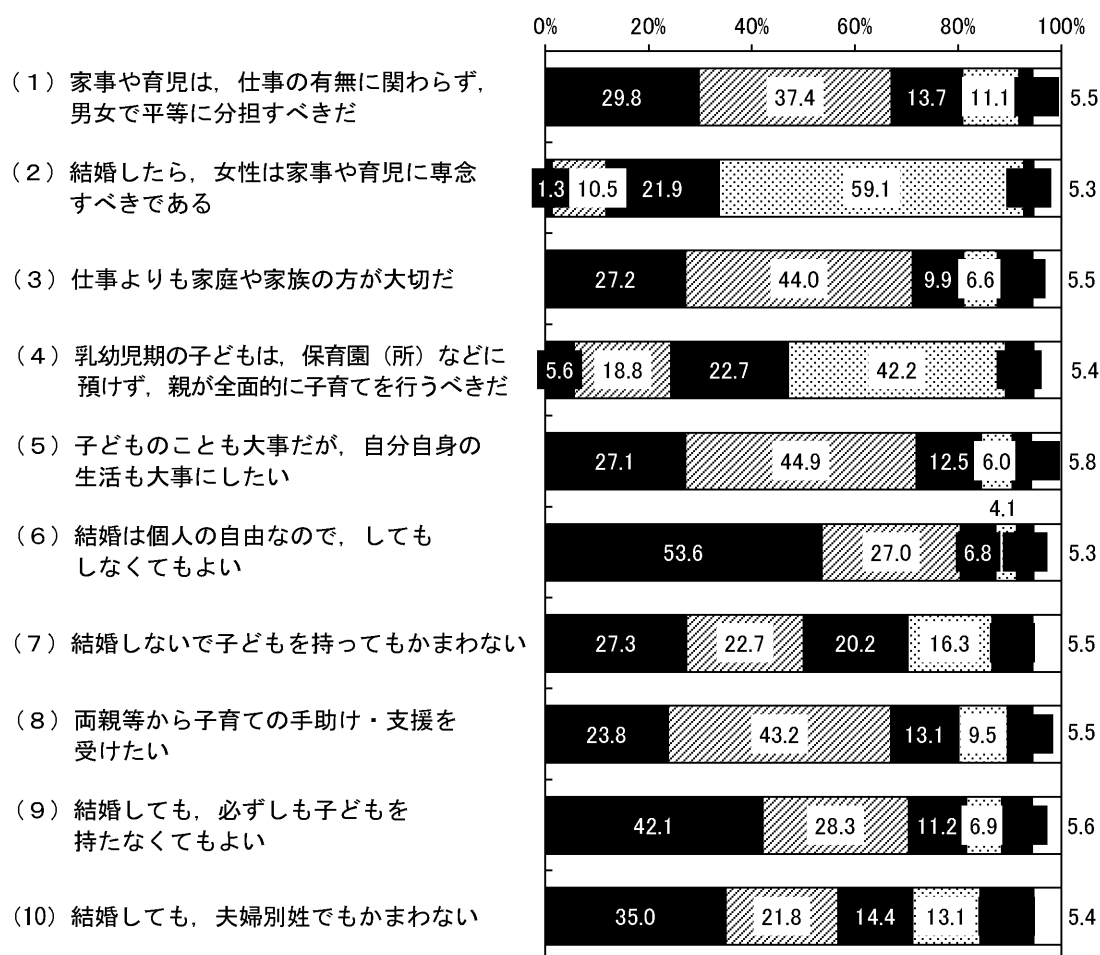
(○はそれぞれ1つずつ)

『そう思う(「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計)』は、[(6) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい]が80.6%と最も高く、次いで[(5) 子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい]が72.0%、[(3) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ]が71.2%となっています。

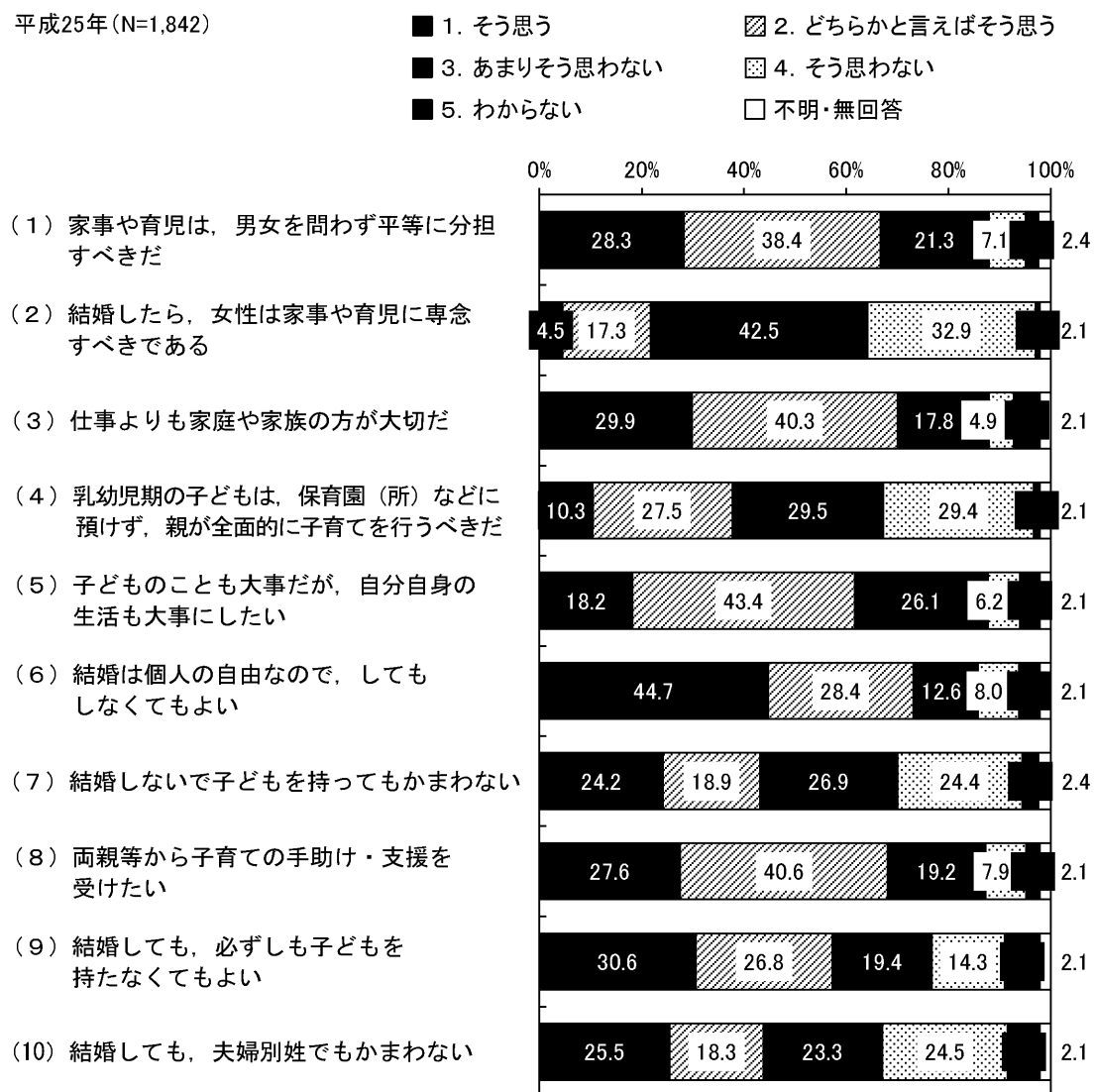
『そう思わない(「3. どちらかといえばそう思わない」と「4. そう思わない」の合計)』は、[(2) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである]が81.0%と最も高く、次いで[(4) 乳幼児期の子どもは、保育園(所)などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ]が64.9%となっています。

平成30年(N=1,866)

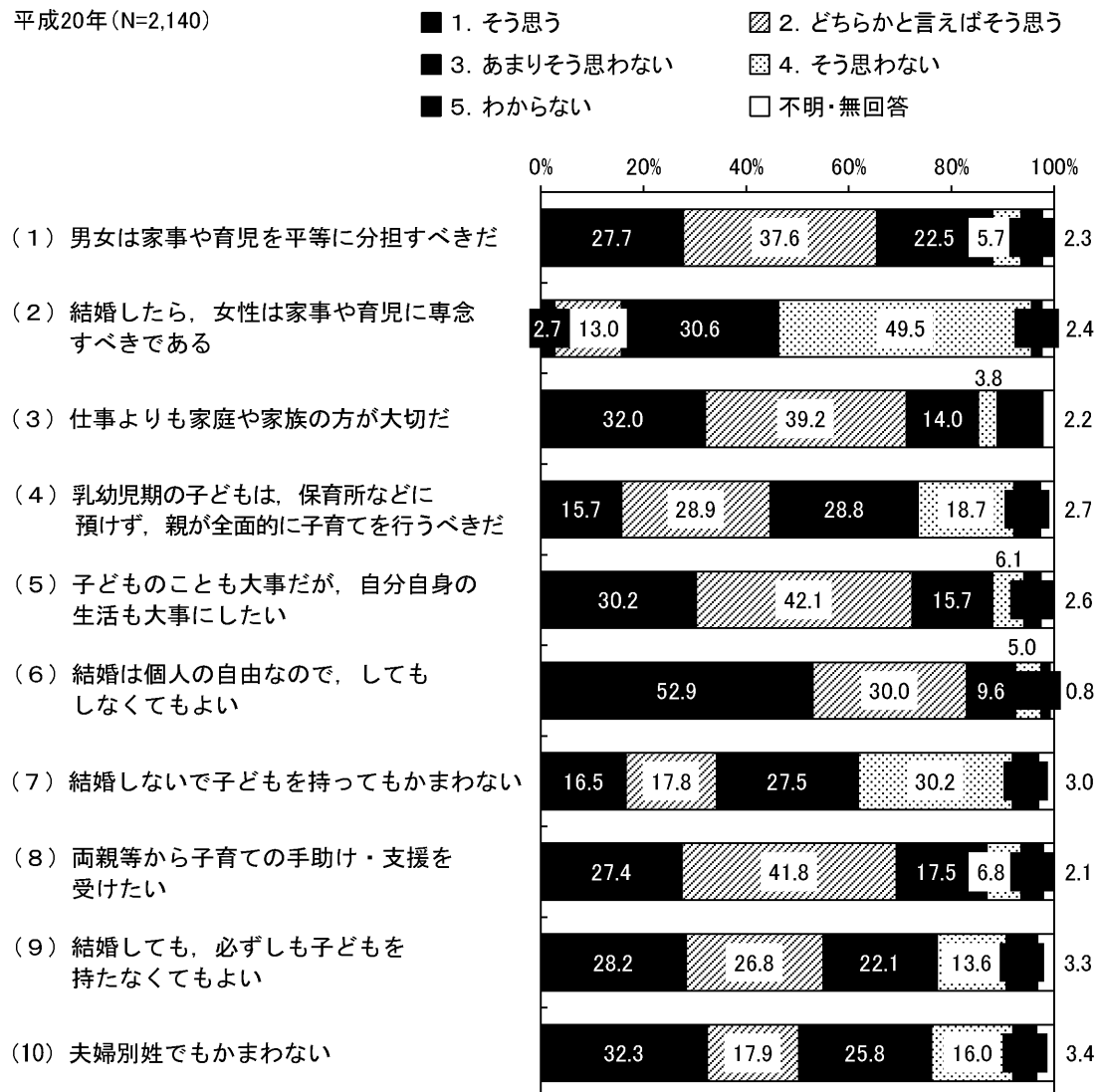
■ 1. そう思う
■ 2. どちらかといえばそう思う
■ 3. どちらかといえばそう思わない
■ 4. そう思わない
■ 5. わからない
□ 不明・無回答



平成25年と比較すると、『そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）』では、（4）乳幼児期の子どもは、保育園（所）などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ]が13.4ポイント低く、[(9) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい] [(10) 結婚しても、夫婦別姓でもかまわない] がともに13.0ポイント高くなっています。



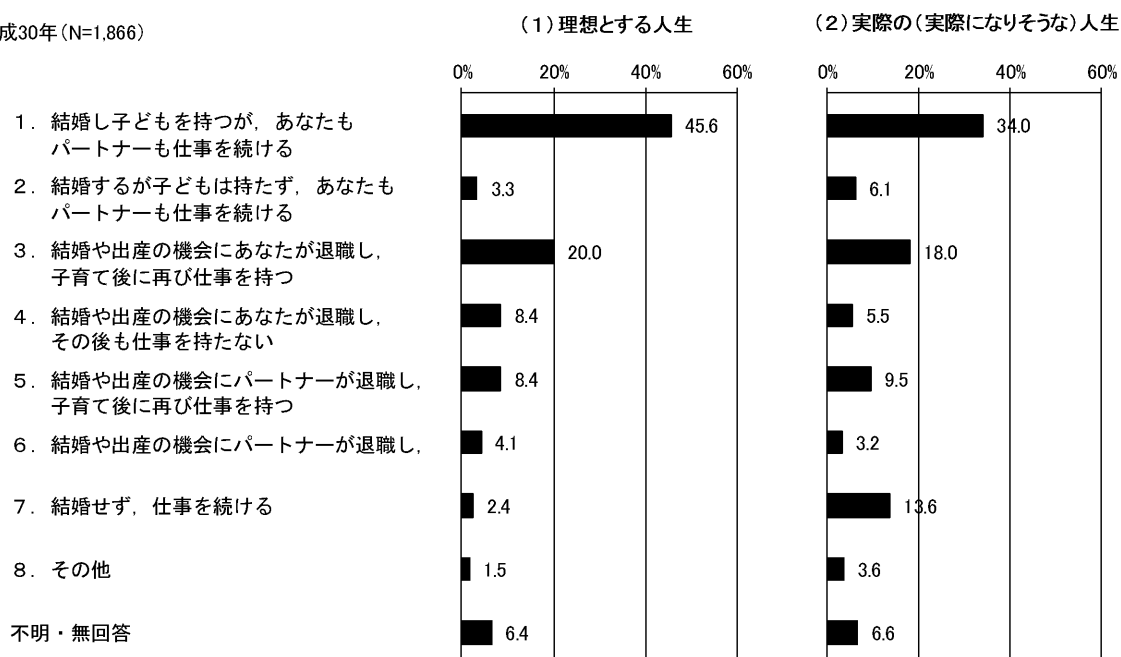
平成 20 年と比較すると、『そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）』では、[(4) 乳幼児期の子どもは、保育園（所）などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ] が 20.2 ポイント低く、[(7) 結婚しないで子どもを持ってもかまわない] が 15.7 ポイント、[(9) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい] が 15.4 ポイント高くなっています。



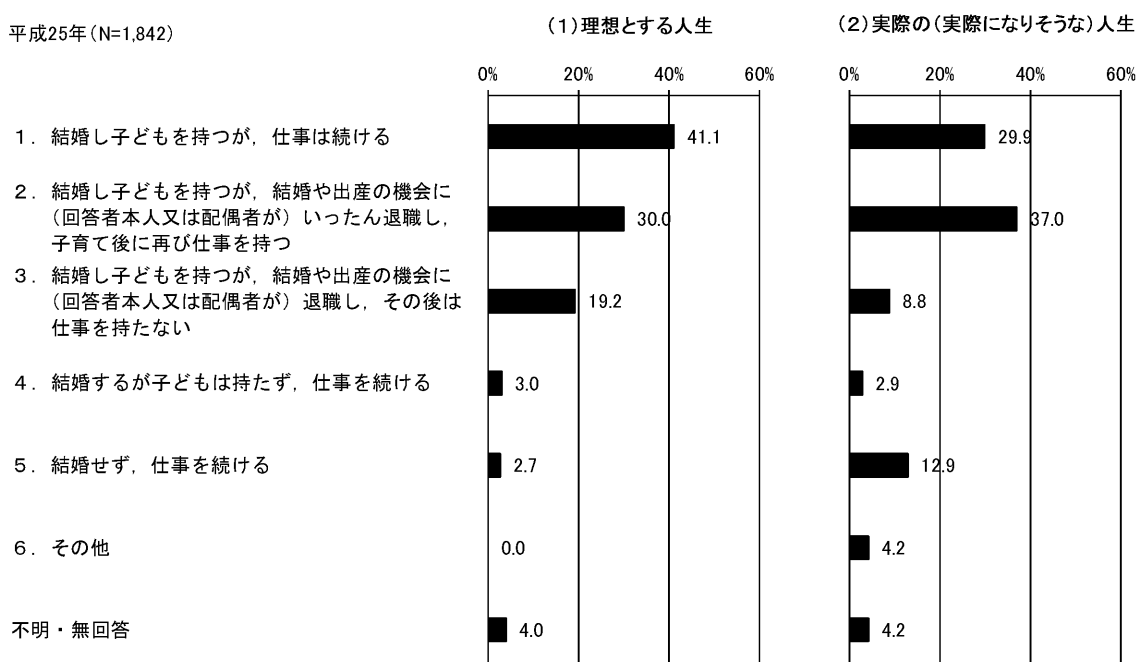
問 22 下の選択肢の中に生き方のタイプがいくつか示してあります。あなたのお考えに最も近いと思われるタイプの番号を選び、それぞれの回答欄にご記入ください。（選択肢はそれぞれ1つつ）

『(1) 理想とする人生』、『(2) 実際の(実際になりそうな)人生』ともに「1. 結婚し子どもを持つが、あなたもパートナーも仕事を続ける」がそれぞれ 45.6%, 34.0%と最も高く、次いで「3. 結婚や出産の機会にあなたが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」がそれぞれ 20.0%, 18.0%となっています。

平成30年(N=1,866)



平成25年(N=1,842)



《問 22(1)理想とする人生, (2) 実際の(実際になりそうな)人生×

問 35(5)子どもと過ごす時間が取れていない理由別》

(1) 理想とする人生の『仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから』『子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから』『その他』では「結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける」の割合が最も高くなっています。

(2) 実際の(実際になりそうな)人生の『仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから』『子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから』『その他』では「結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける」の割合が最も高くなっています。

◆問 22(1) 理想とする人生

	仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから	子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから	その他	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける
315	157	1	60	29	30	17	0	3	18	
100.0	49.8	0.3	19.0	9.2	9.5	5.4	0.0	1.0	5.7	
265	138	1	50	24	21	13	0	1	17	
100.0	52.1	0.4	18.9	9.1	7.9	4.9	0.0	0.4	6.4	
8	1	0	1	1	2	2	0	1	0	
100.0	12.5	0.0	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	12.5	0.0	
5	3	0	0	0	1	0	0	1	0	
100.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
37	15	0	9	4	6	2	0	0	1	
100.0	40.5	0.0	24.3	10.8	16.2	5.4	0.0	0.0	2.7	

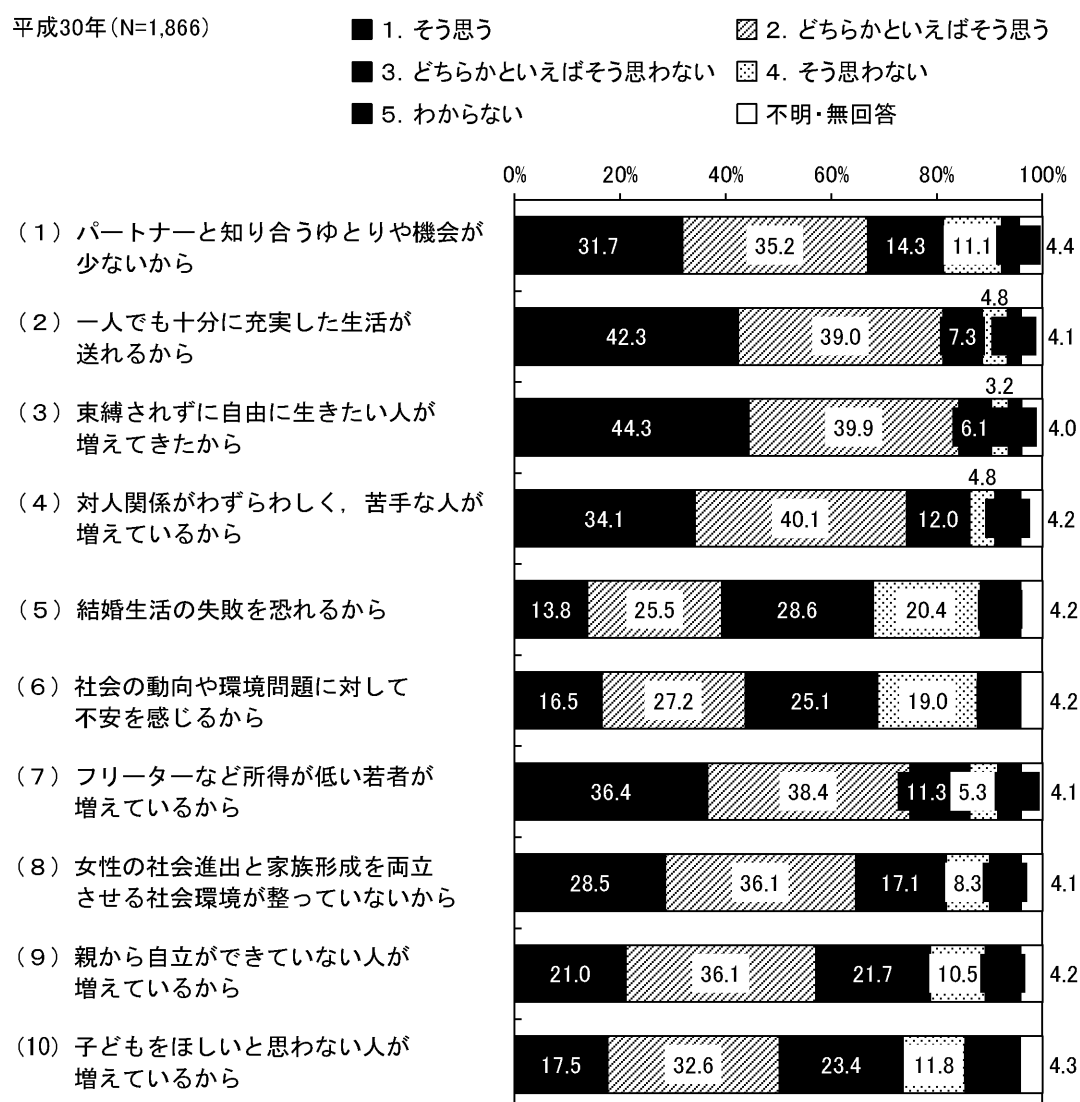
◆問 22(2) 実際の(実際になりそうな)人生

	仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから	子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから	その他	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける
315	171	2	57	12	34	11	2	7	19	
100.0	54.3	0.6	18.1	3.8	10.8	3.5	0.6	2.2	6.0	
265	154	1	43	7	25	11	2	5	17	
100.0	58.1	0.4	16.2	2.6	9.4	4.2	0.8	1.9	6.4	
8	4	0	1	0	2	0	0	1	0	
100.0	50.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	
5	1	0	2	0	1	0	0	0	1	
100.0	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
37	12	1	11	5	6	0	0	1	1	
100.0	32.4	2.7	29.7	13.5	16.2	0.0	0.0	2.7	2.7	

問 23 最近、結婚しない人や高年齢で結婚する人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられていますが、あなたはどのように思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

『そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）』は、〔（3）束縛されずに自由に生きたい人が増えてきたから〕が84.2%と最も高く、次いで〔（2）一人でも十分に充実した生活が送れるから〕が81.3%、〔（7）フリーターなど所得が低い若者が増えているから〕が74.8%となっています。

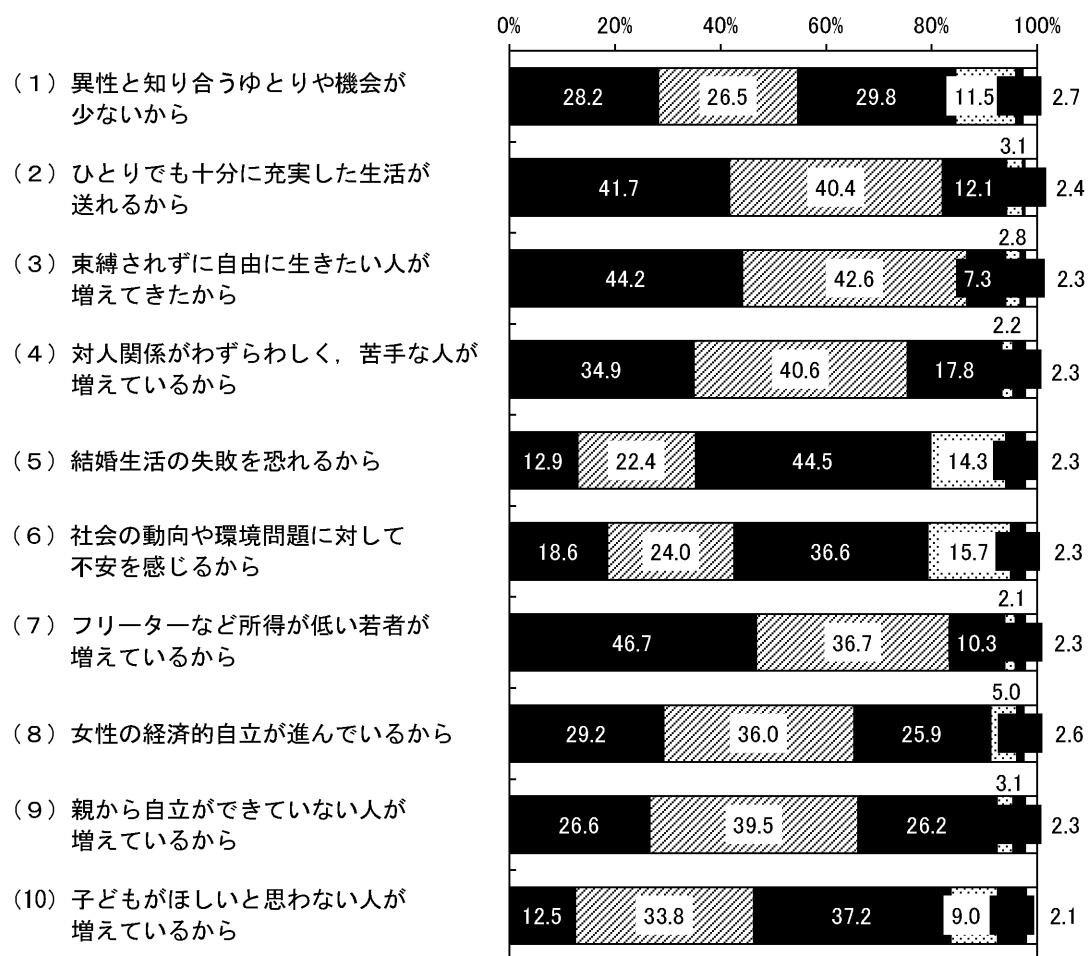
『そう思わない（「3. どちらかといえばそう思わない」と「4. そう思わない」の合計）』は、〔（5）結婚生活の失敗を恐れるから〕が49.0%と最も高く、次いで〔（6）社会の動向や環境問題に対して不安を感じるから〕が44.1%となっています。



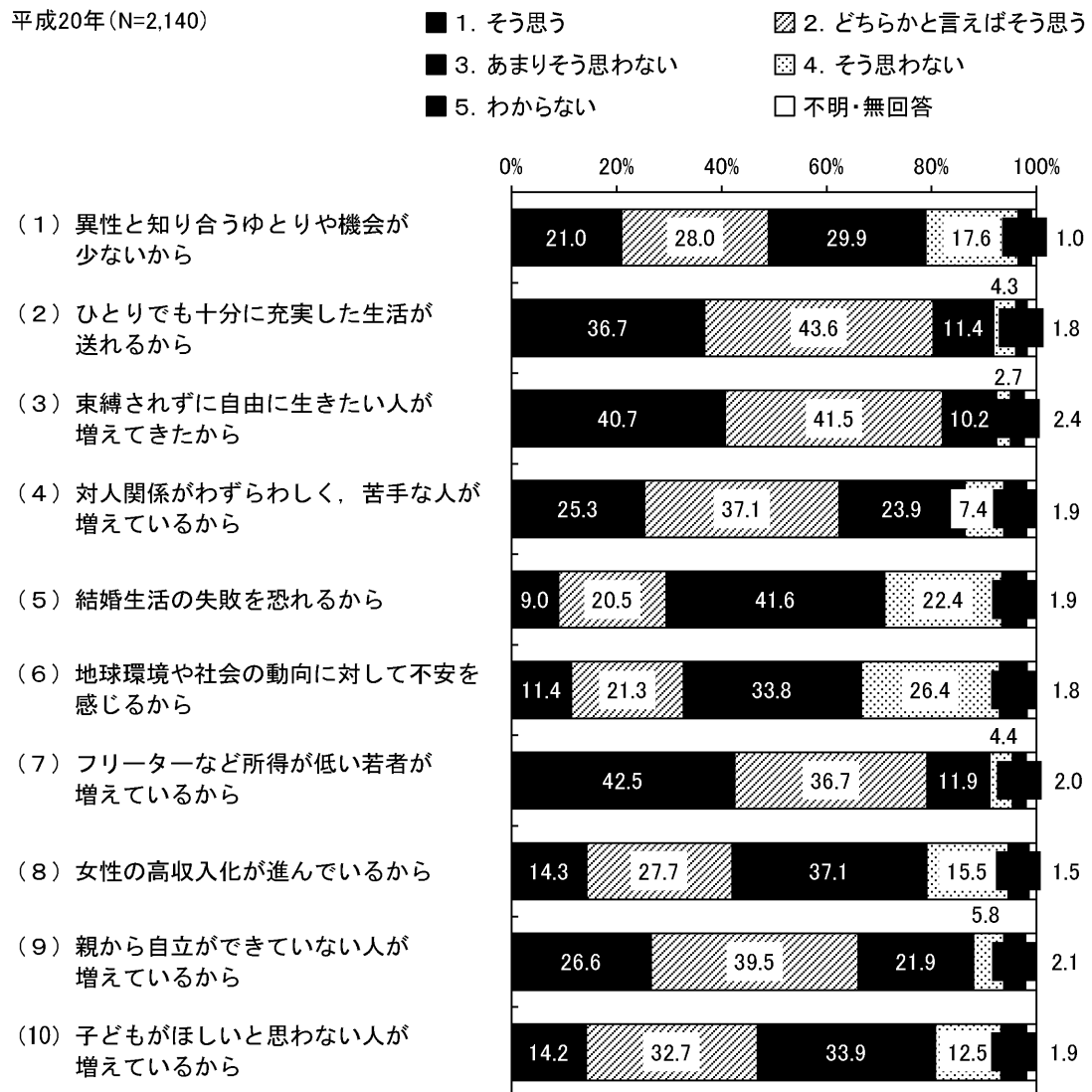
平成25年と比較すると、『そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）』では，[(1) パートナーと知り合うゆとりや機会が少ないから]（平成25年では「(1) 異性と知り合うゆとりや機会が少ないから」）が12.2ポイント高く，[(9) 親から自立ができていない人が増えているから]が9.0ポイント低くなっています。

平成25年(N=1,842)

- 1. そう思う
 ■ 2. どちらかといえばそう思う
 ■ 3. あまりそう思わない
 ■ 4. そう思わない
 ■ 5. わからない
 □ 不明・無回答



平成20年と比較すると、『そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）』では，[(1) パートナーと知り合うゆとりや機会が少ないから]（平成20年では「(1) 異性と知り合うゆとりや機会が少ないから」）が17.9ポイント，[(4) 対人関係がわずらわしく，苦手な人が増えているから]が11.8ポイント高くなっています。

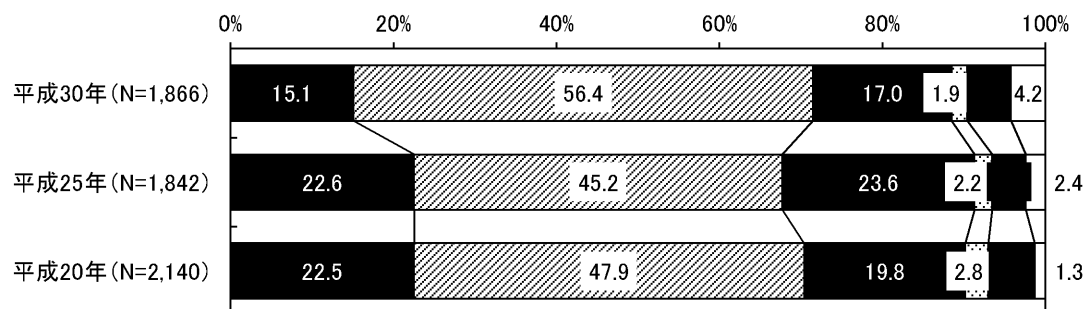


問 24 結婚の機会を増やすため、行政が支援する（関わる）ことについてどう思いますか。
（〇は1つ）

「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」が56.4%と最も高く、次いで「3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである」が17.0%、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」が15.1%となっています。

過去調査と比較すると、「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」が平成25年より11.2ポイント、平成20年より8.5ポイント高くなっています。

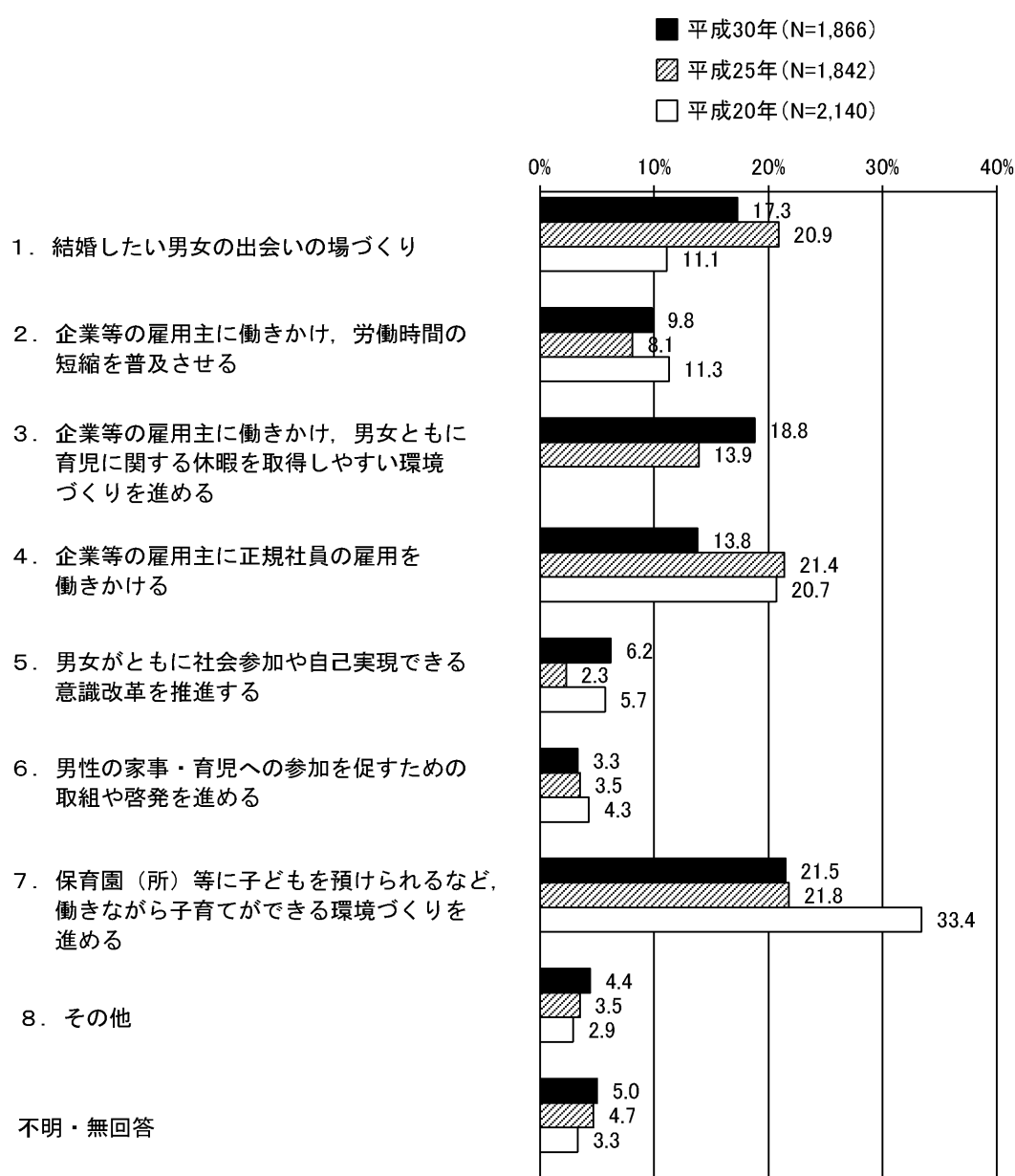
- 1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい
- ▨ 2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない
- 3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである
- ▤ 4. その他
- 5. わからない
- 不明・無回答



問 25 結婚の支援のため、行政が優先して行うべき取組は何ですか。(〇は1つ)

「7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」が21.5%と最も高く、次いで「3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」が18.8%, 「1. 結婚したい男女の出会いの場づくり」が17.3%となっています。

平成25年と比較すると、「4. 企業等の雇用主に正規社員の雇用を働きかける」が7.6ポイント、平成20年と比較すると、「7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」が11.9ポイント、「4. 企業等の雇用主に正規社員の雇用を働きかける」が6.9ポイント低くなっています。



※「3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」は平成30年、平成25年のみの選択肢

《問 25 行政が優先して行うべき結婚支援×問 1 性別》

『男性』では「結婚したい男女の出会いの場づくり」、『女性』では「保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」の割合が最も高くなっています。

	1,866	323	182	350	257	115	61	401	83	94
	100.0	17.3	9.8	18.8	13.8	6.2	3.3	21.5	4.4	5.0
	666	153	73	107	89	39	8	126	42	29
	100.0	23.0	11.0	16.1	13.4	5.9	1.2	18.9	6.3	4.4
	1,177	168	106	241	165	73	52	270	37	65
	100.0	14.3	9.0	20.5	14.0	6.2	4.4	22.9	3.1	5.5
	16	1	1	2	3	2	1	3	3	0
	100.0	6.3	6.3	12.5	18.8	12.5	6.3	18.8	18.8	0.0

《問 25 行政が優先して行うべき結婚支援×問 15(1)結婚の有無別》

『結婚している』では「保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」、『結婚していたことはあるが、離（死）別した』では「結婚したい男女の出会いの場づくり」、『結婚していない』では「企業等の雇用主に働きかけ、男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」の割合が最も高くなっています。

	1,866	323	182	350	257	115	61	401	83	94
	100.0	17.3	9.8	18.8	13.8	6.2	3.3	21.5	4.4	5.0
	1,115	186	97	202	168	66	38	249	36	73
	100.0	16.7	8.7	18.1	15.1	5.9	3.4	22.3	3.2	6.5
	86	22	7	14	12	4	3	19	4	1
	100.0	25.6	8.1	16.3	14.0	4.7	3.5	22.1	4.7	1.2
	657	114	77	134	77	45	20	129	43	18
	100.0	17.4	11.7	20.4	11.7	6.8	3.0	19.6	6.5	2.7

《問 25 行政が優先して行うべき結婚支援×問 15(5)将来の結婚願望別》

『すぐにでもしたい』では「結婚したい男女の出会いの場づくり」,『いずれはしたい』では「企業等の雇用主に働きかけ,男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」,『結婚したくない』では「保育園（所）等に子どもを預けられるなど,働きながら子育てができる環境づくりを進める」の割合が最も高くなっています。

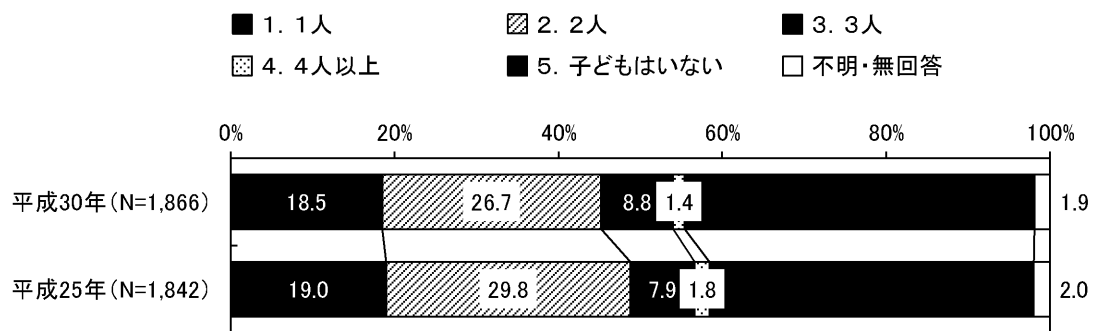
	743	136	84	148	89	49	23	148	47	19
	100.0	18.3	11.3	19.9	12.0	6.6	3.1	19.9	6.3	2.6
	95	26	17	15	11	1	0	21	4	0
	100.0	27.4	17.9	15.8	11.6	1.1	0.0	22.1	4.2	0.0
	394	74	37	97	43	28	12	76	19	8
	100.0	18.8	9.4	24.6	10.9	7.1	3.0	19.3	4.8	2.0
	157	23	14	22	26	14	8	30	15	5
	100.0	14.6	8.9	14.0	16.6	8.9	5.1	19.1	9.6	3.2

4 出産について

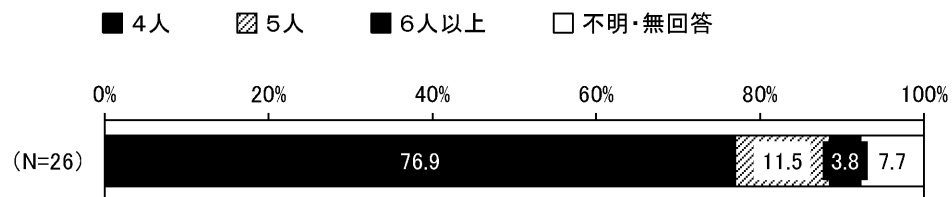
問 26(1) あなたは現在、妊娠中のお子さまも含めて何人のお子さまがいますか。4人以上の場合は（ ）内に具体的な人数をご記入ください。（〇は1つ）

「5. 子どもはいない」が42.7%と最も高く、次いで「2. 2人」が26.7%, 「1. 1人」が18.5%となっています。

平成25年と比較すると、特に大きな差はみられません。

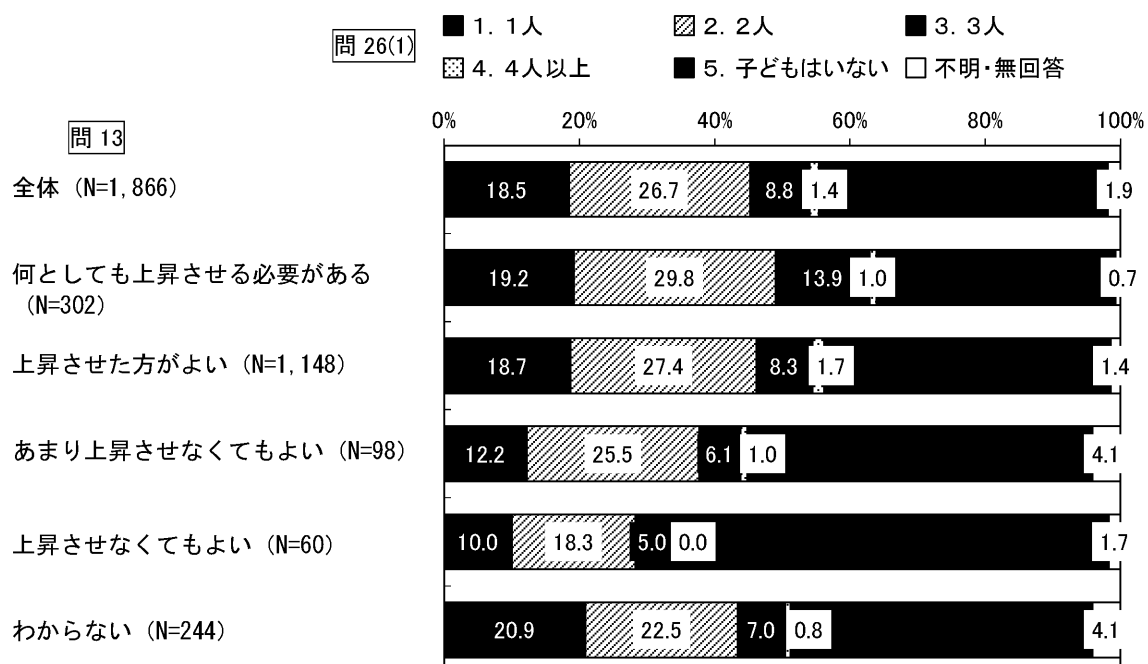


◆(4人以上の場合)具体的な人数



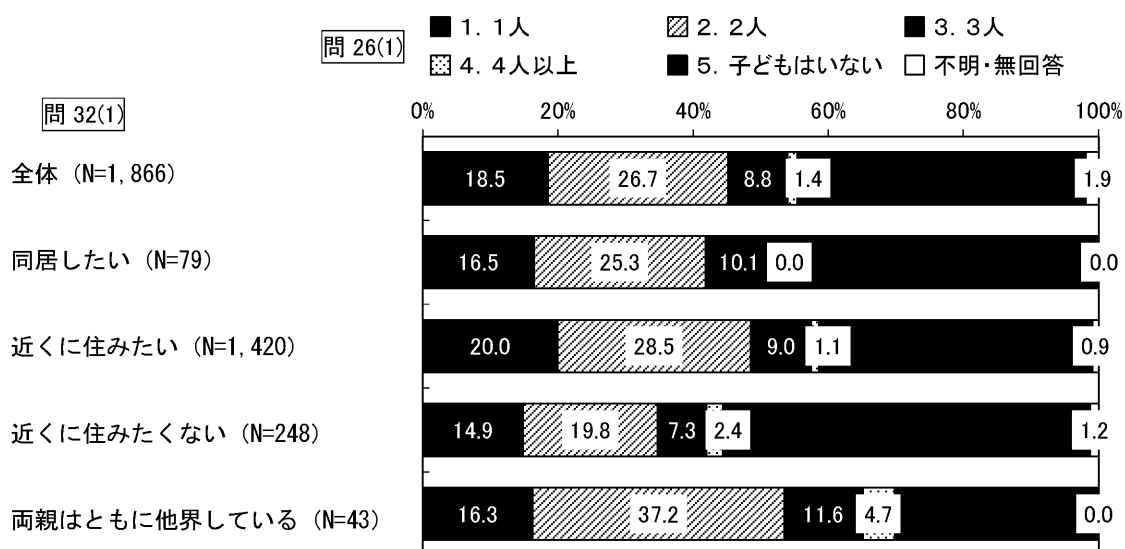
《問 26(1)実際の子どもの人数×問 13 出生率上昇の必要性別》

出生率の上昇が必要と思う人ほど、現在子どもがいる割合が高くなる傾向がみられます。



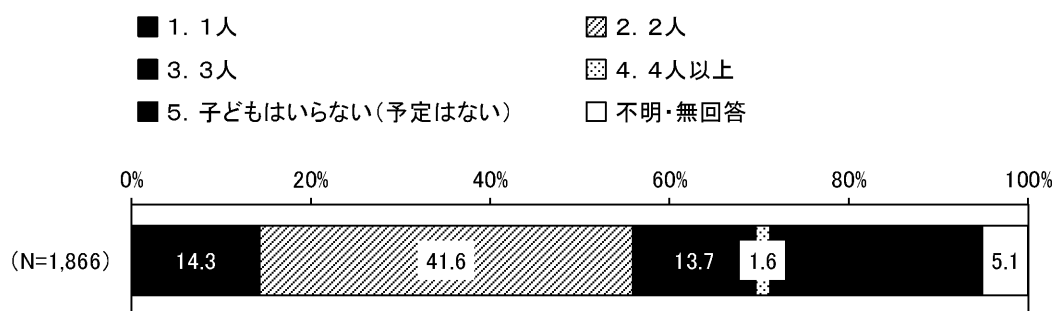
《問 26(1)実際の子ども的人数×問 32(1)実家との関わり方別》

『同居したい』『近くに住みたい』では現在子どものいる人、『近くに住みたくない』では「子どもはいない」の割合が最も高くなっています。

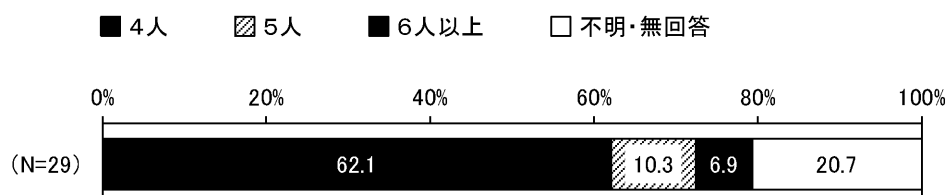


問 26(2) あなたは何人のお子さまを持つ予定ですか。4人以上の場合は（ ）内に具体的な人数をご記入ください。（〇は1つ）

「2. 2人」が41.6%と最も高く、次いで「5. 子どもはいらない(予定はない)」が23.7%, 「1. 1人」が14.3%となっています。



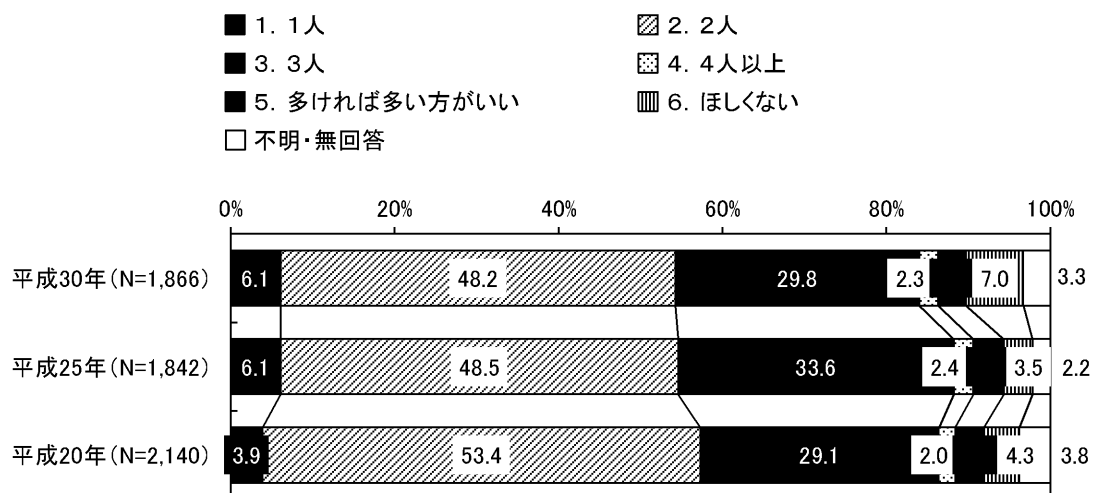
◆(4人以上の場合)具体的な人数



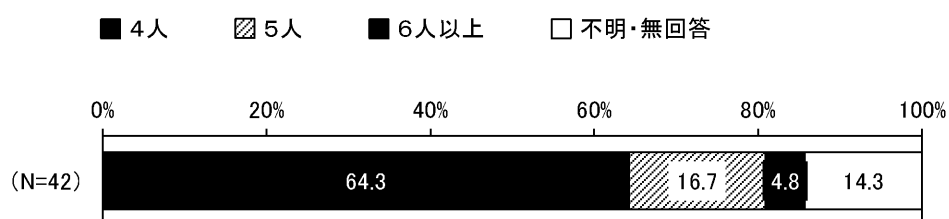
問 27 あなたが、できれば持ちたい「理想」の子どもの数は何人ですか。4人以上の場合は（ ）内に具体的な人数をご記入ください。（○は1つ）

「2. 2人」が48.2%と最も高く、次いで「3. 3人」が29.8%、「6. ほしくない」が7.0%となっています。

平成20年と比較すると、「2. 2人」が5.2ポイント低くなっています。

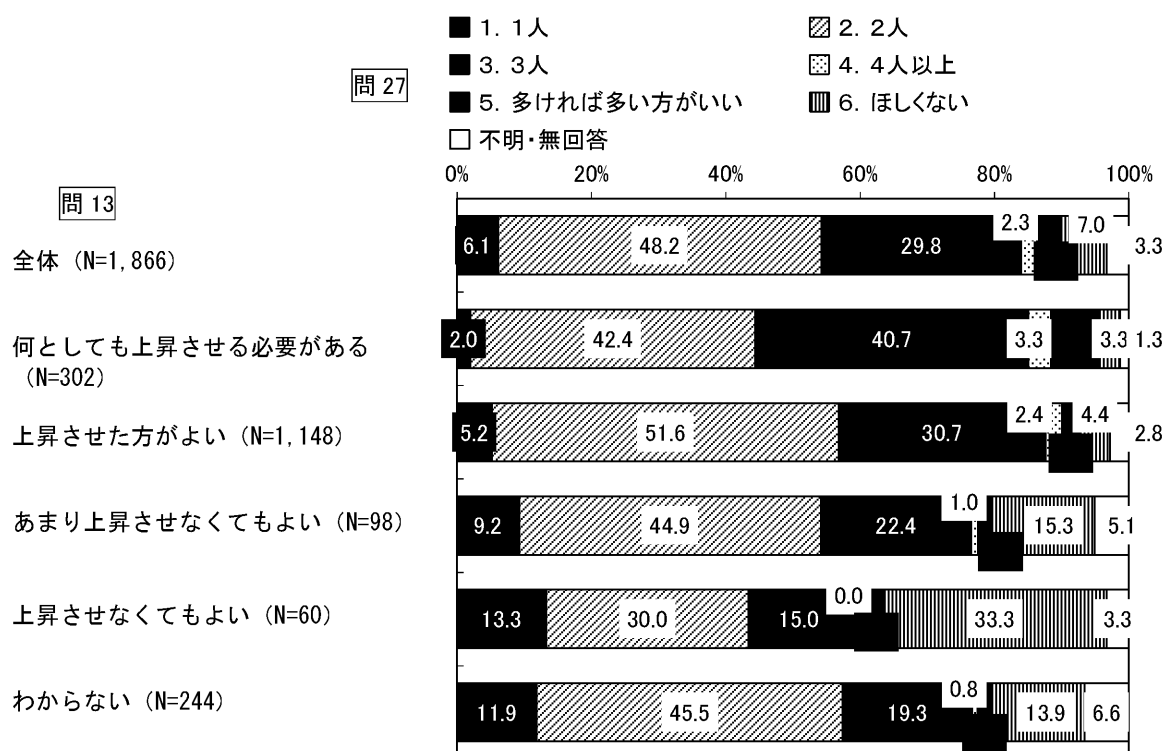


◆(4人以上の場合)具体的な人数



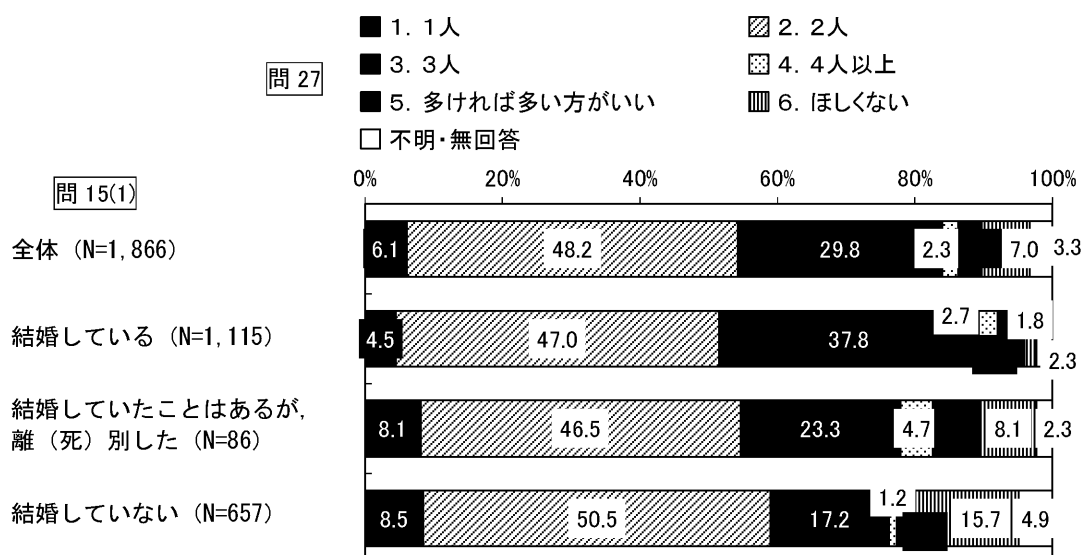
《問 27 理想の子どもの人数×問 13 出生率上昇の必要性別》

『上昇させなくてもよい』では「6. ほしくない」、それ以外の区分では「2. 2人」の割合が最も高くなっています。



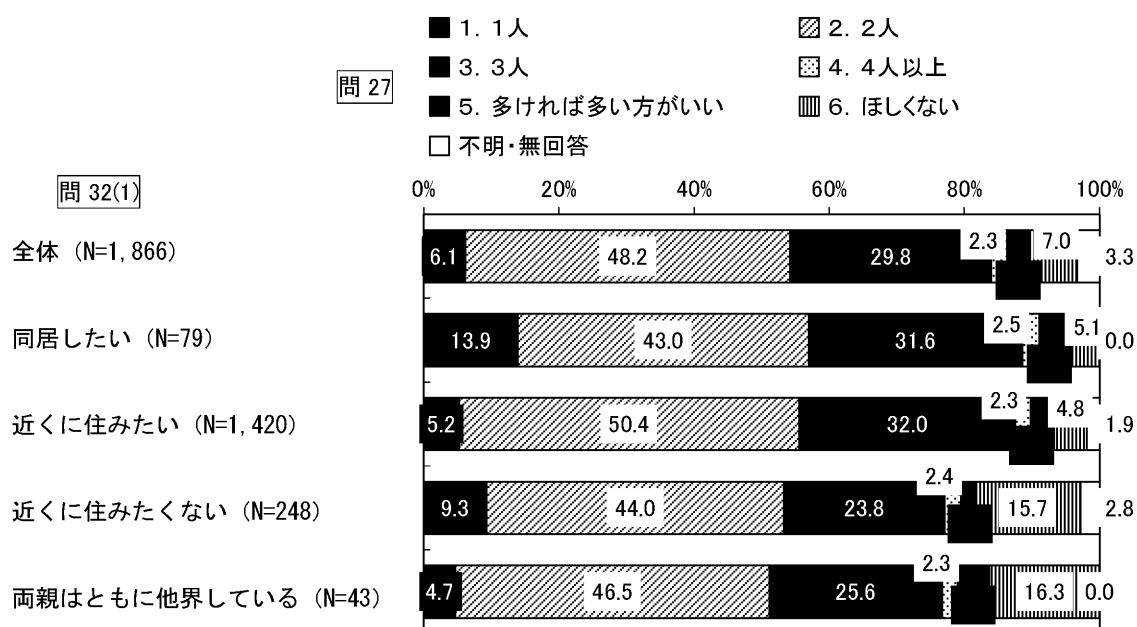
《問 27 理想の子どもの人数×問 15(1)結婚の有無別》

すべての区分で「2. 2人」の割合が最も高くなっています。



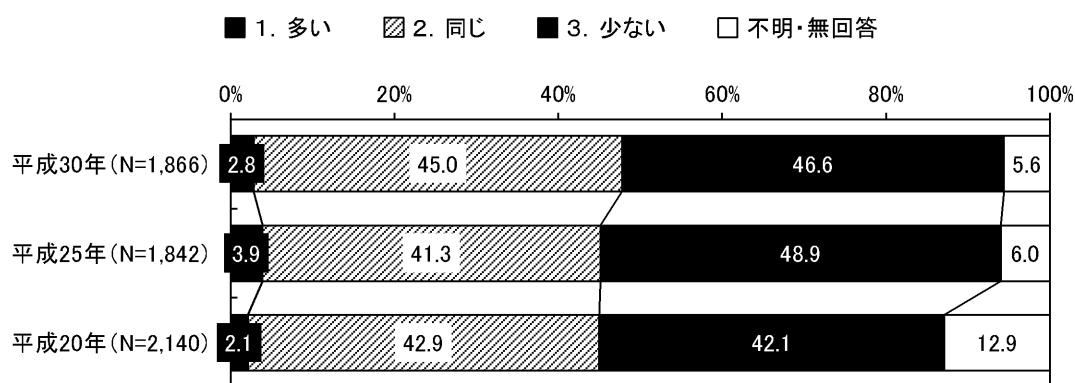
《問 27 理想の子どもの人数×問 32(1)実家との関わり方別》

『同居したい』『近くに住みたい』では、できれば持ちたい理想の子どもが「3人」以上、『近くに住みたくない』では「ほしくない」の割合が他の区分に比べて高くなる傾向がみられます。



問 28 現実にいる子どもの数, もしくは持とうと予定している子どもの数は理想と比べていかがですか。(〇は1つ)

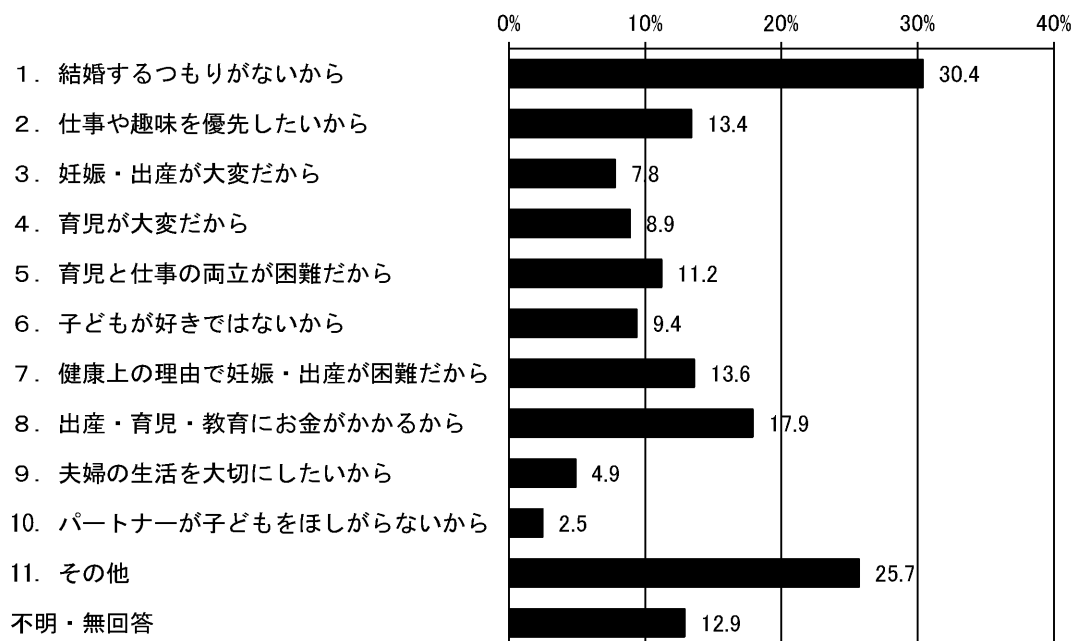
「3. 少ない」が46.6%と最も高く、次いで「2. 同じ」が45.0%となっています。
過去調査と比較すると、特に大きな差はみられません。



問 29(1) 子どもを持たない理由をお答えください。(〇は3つまで)

「その他」を除き,「1. 結婚するつもりがないから」が 30.4%と最も高く,次いで「8. 出産・育児・教育にお金がかかるから」が 17.9%,「7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」が 13.6%となっています。

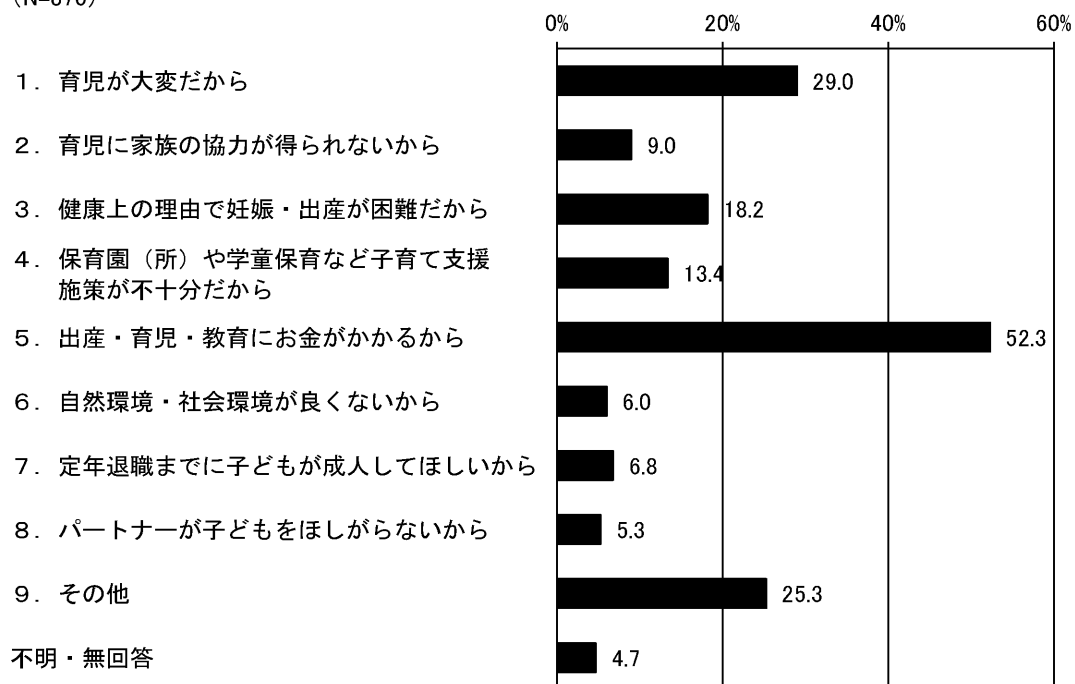
(N=448)



問 29(2) 子どもの人数が実際には理想より少なくなりそうな理由は何ですか。(〇は3つまで)

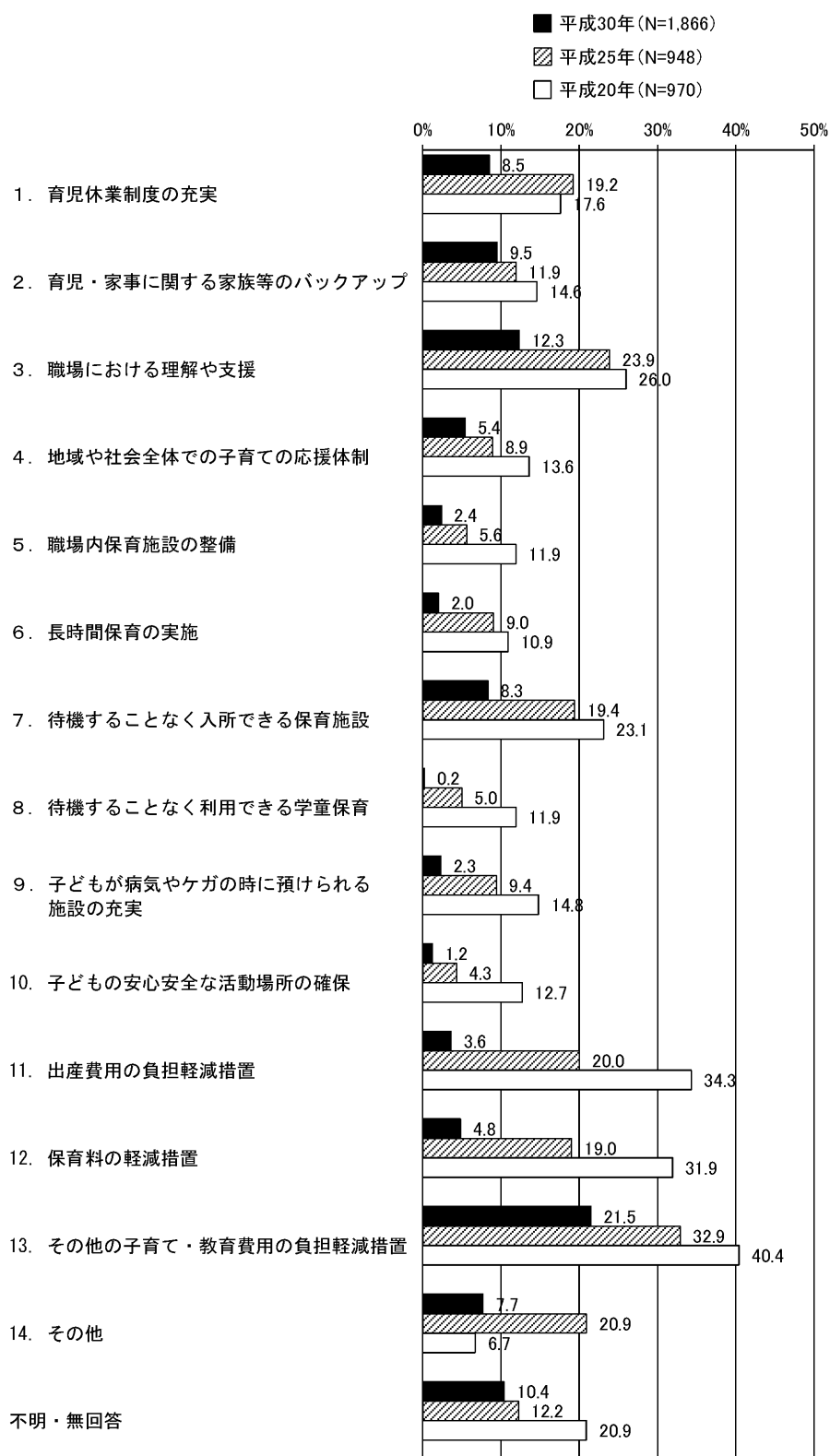
「その他」を除き、「5. 出産・育児・教育にお金がかかるから」が 52.3%と最も高く、次いで「1. 育児が大変だから」が 29.0%、「3. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」が 18.2%となっています。

(N=870)



問 30 子どもを持ったり、理想の子どもの数に近づけるために、これだけあればできるかもしれないと思う最低限必要なものをお答えください。(〇は1つ)

「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」が21.5%と最も高く、次いで「3. 職場における理解や支援」が12.3%, 「2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ」が9.5%となっています。

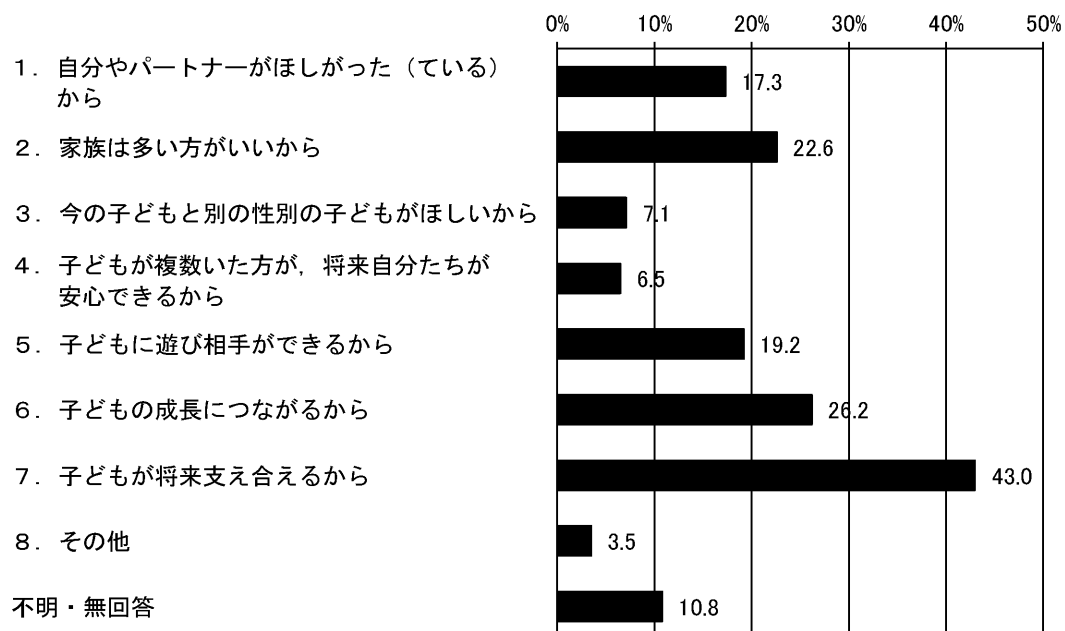


※平成 25 年, 平成 20 年は限定設問のため, サンプル数が異なる

問 31 理想とする子どもの数が2人以上の理由をお答えください。(〇は2つまで)

「7. 子どもが将来支え合えるから」が43.0%と最も高く、次いで「6. 子どもの成長につながるから」が26.2%, 「2. 家族は多い方がいいから」が22.6%となっています。

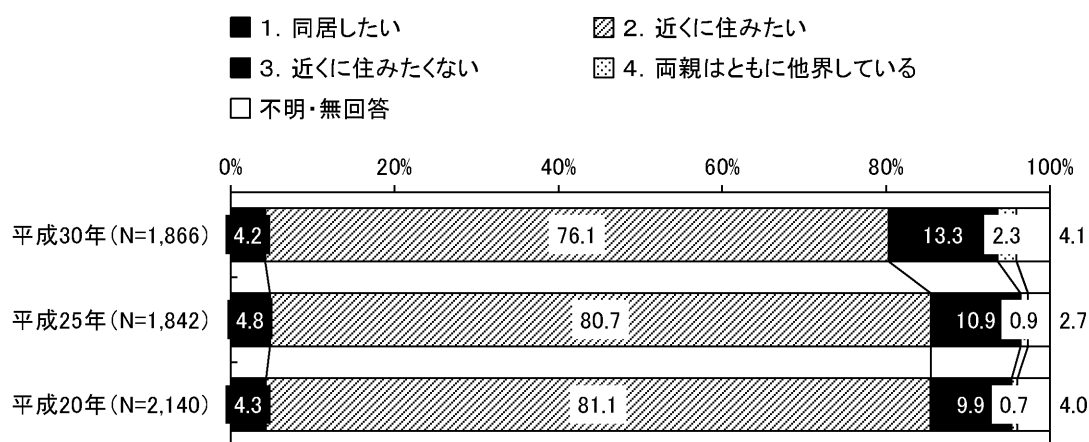
(N=1,560)



問 32(1) あなたは出産後の実家との関わり方についてどう思いますか。(〇は1つ)

「2. 近くに住みたい」が76.1%と最も高く、次いで「3. 近くに住みたくない」が13.3%, 「1. 同居したい」が4.2%となっています。

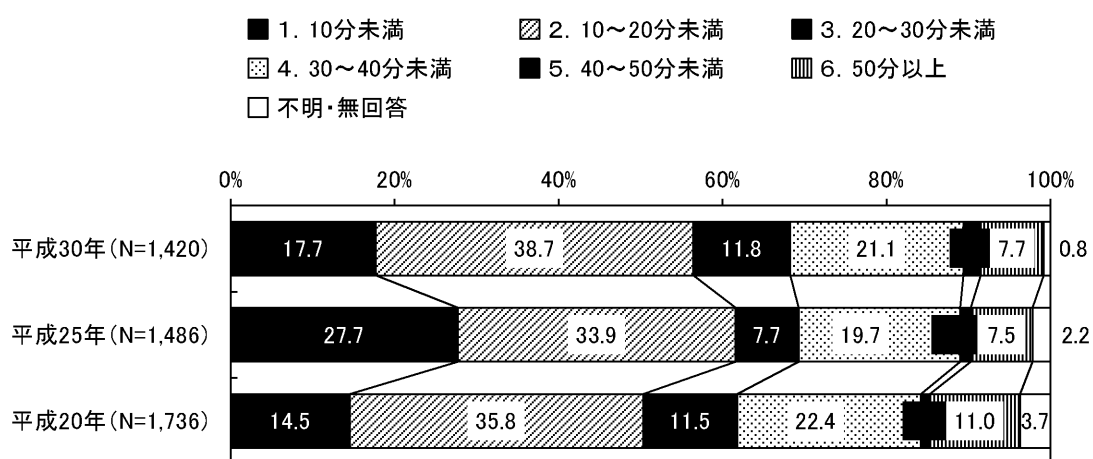
過去調査と比較すると、「2. 近くに住みたい」が平成25年より4.6ポイント、平成20年より5.0ポイント低くなっています。



問 32(2) 実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

「2. 10～20分未満」が38.7%と最も高く、次いで「4. 30～40分未満」が21.1%, 「1. 10分未満」が17.7%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 10分未満」が10.0ポイント低くなっています。

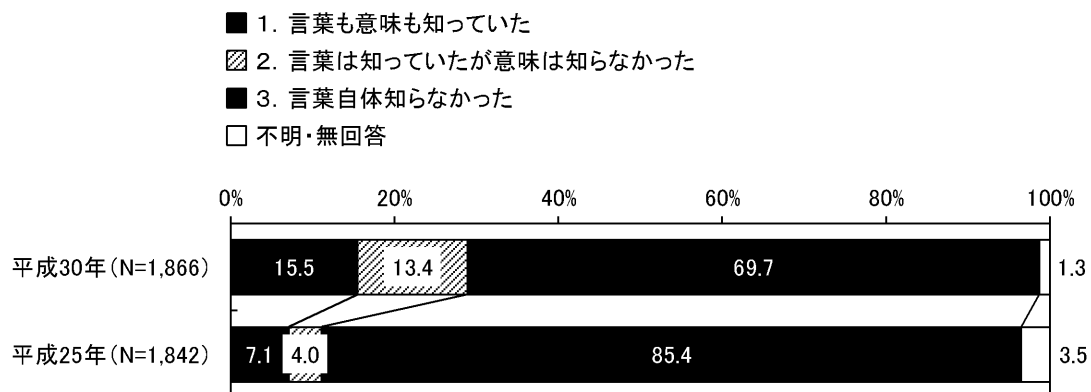


5 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について

問 33 あなたは、京都市が提案している「真のワーク・ライフ・バランス」について知っていましたか。(〇は1つ)

「3. 言葉自体知らなかった」が 69.7%と最も高く、次いで「1. 言葉も意味も知っていた」が 15.5%となっています。

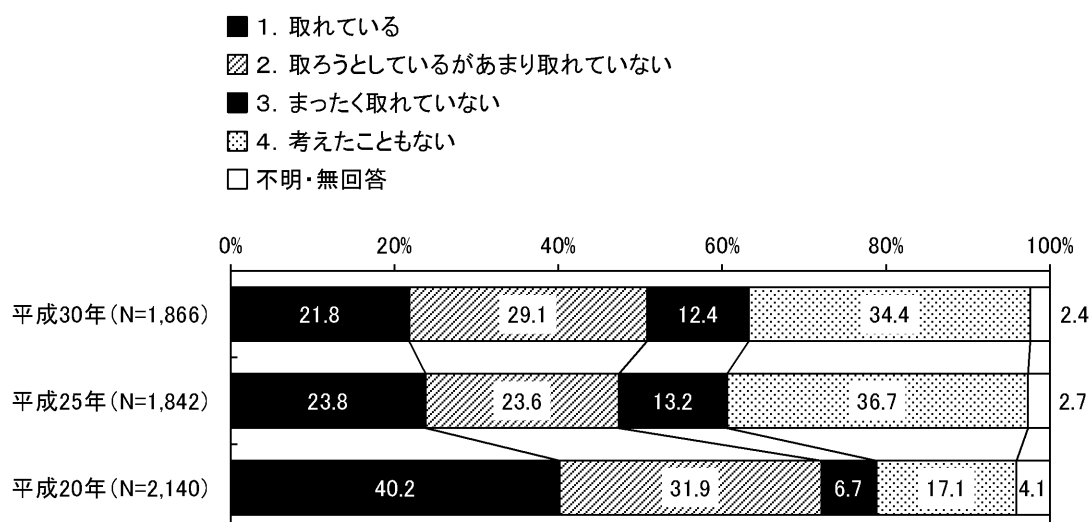
平成 25 年と比較すると、「3. 言葉自体知らなかった」(平成 25 年では「3. 言葉も知らない」)が 15.7 ポイント低くなっています。



問 34(1) あなたは、ご自身やご家族について、希望どおりに真のワーク・ライフ・バランスが取れていると思いますか。(〇は1つ)

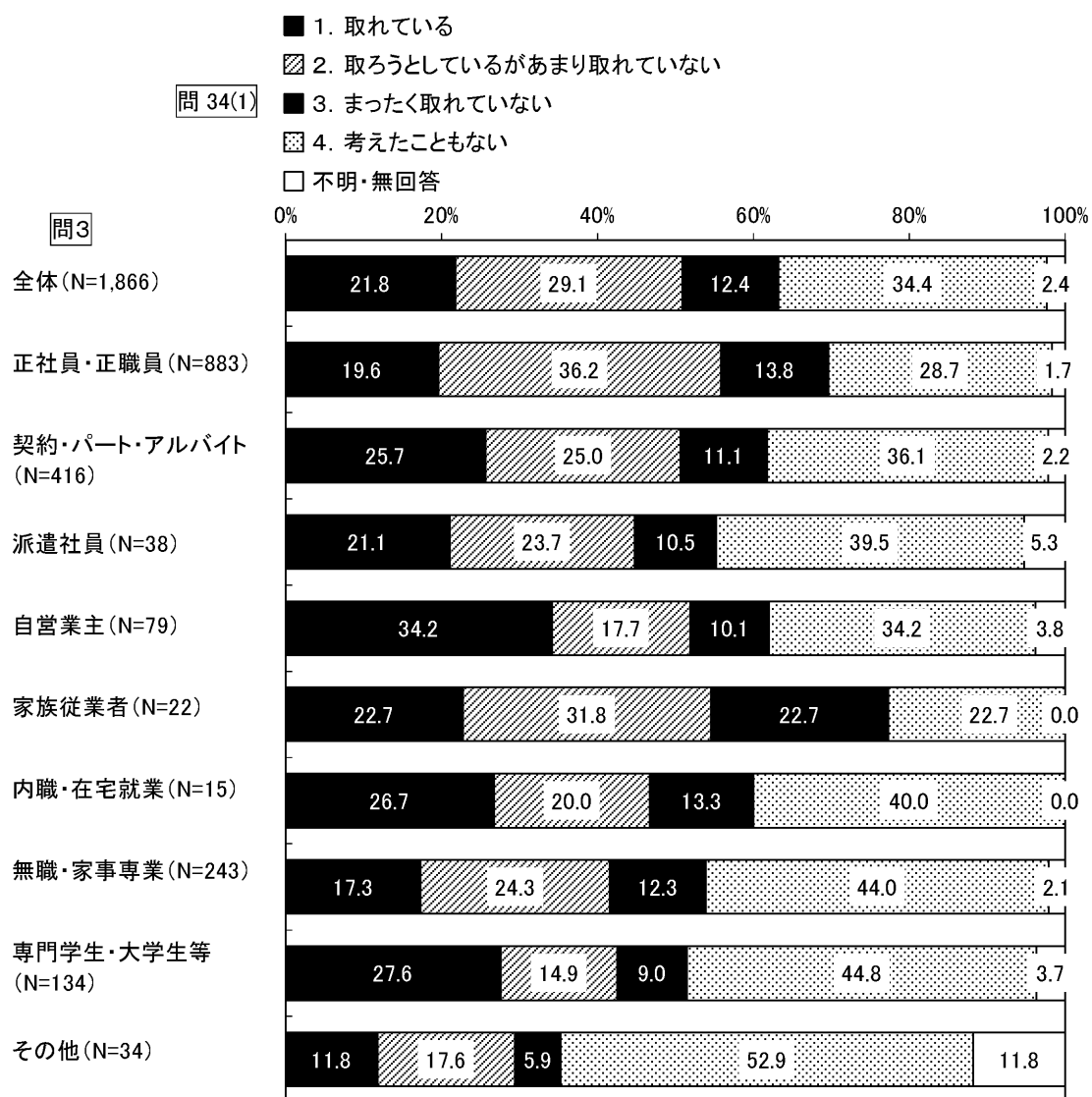
「4. 考えたこともない」が 34.4%と最も高く、次いで「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」が 29.1%、「1. 取れている」が 21.8%となっています。

平成 25 年と比較すると、「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」が 5.5 ポイント高く、平成 20 年と比較すると、「1. 取れている」が 18.4 ポイント低くなっています。



《問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」が取れているか×問3就労形態別》

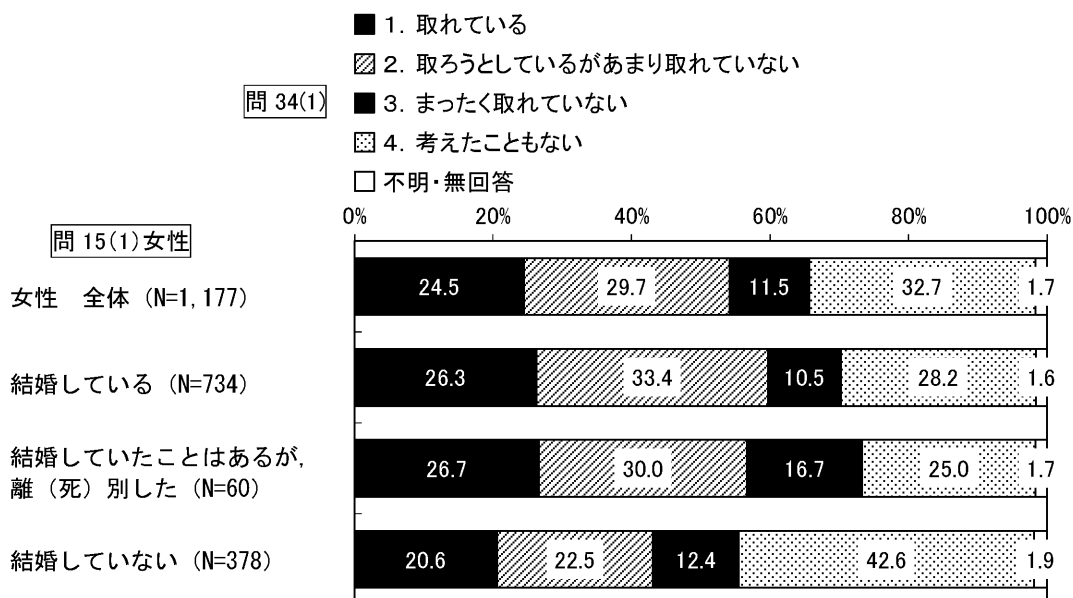
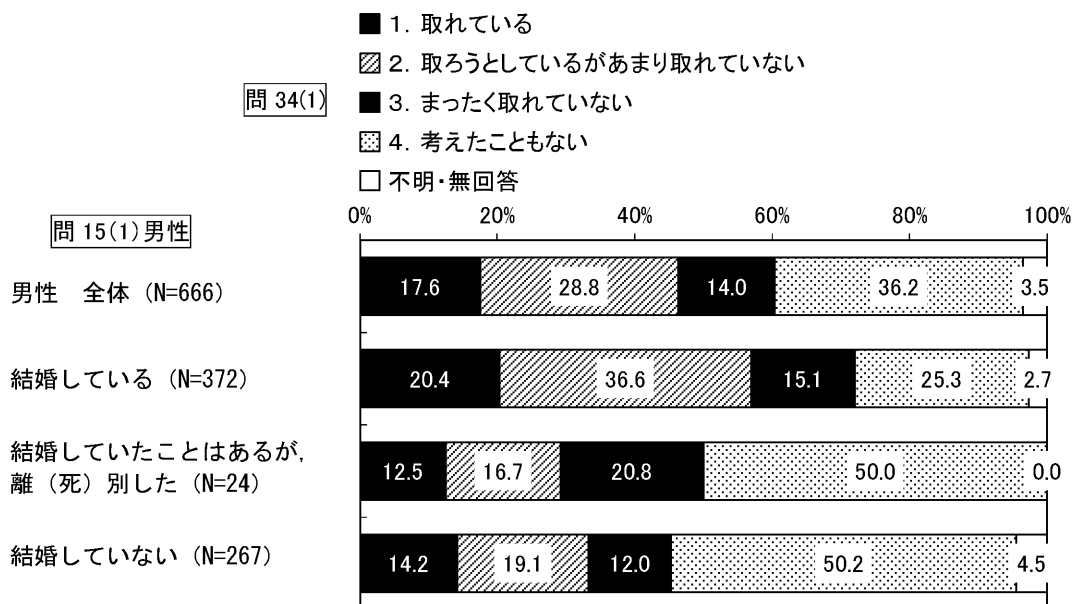
『正社員・正職員』『家族従業者』では「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」、『自営業主』では「1. 取れている」「4. 考えたこともない」、それ以外の区分では「4. 考えたこともない」の割合が最も高くなっています。



《問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」が取れているか×問 15(1)結婚の有無別》

男性の『結婚している』では「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」、それ以外の区分では「4. 考えたこともない」の割合が最も高くなっています。

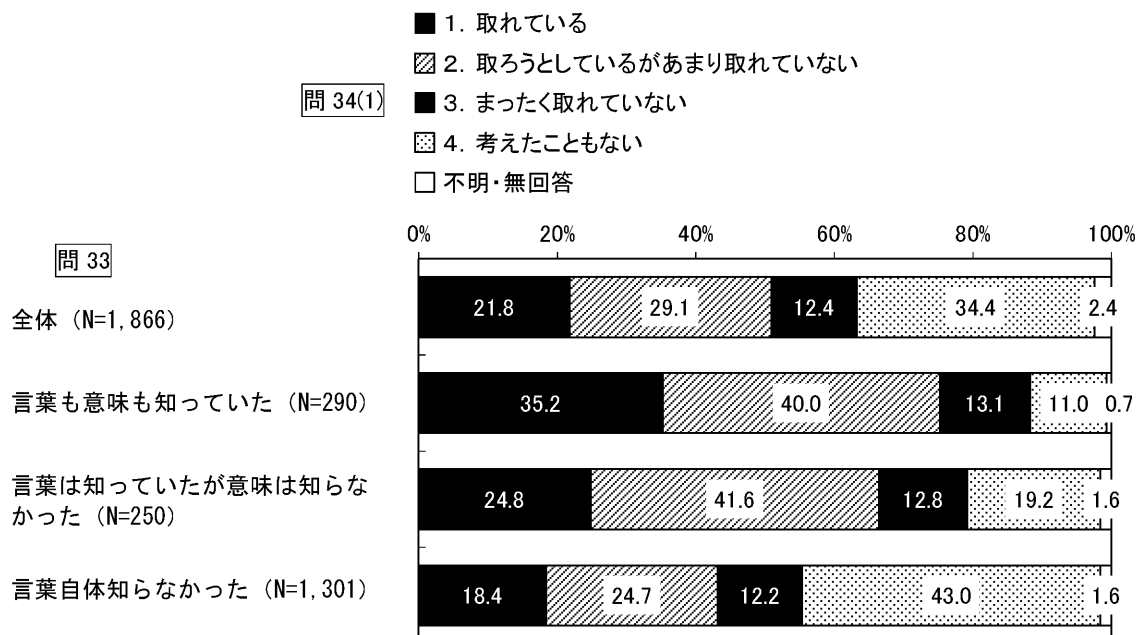
女性の『結婚している』『結婚していたことはあるが、離（死）別した』では「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」、『結婚していない』では「4. 考えたこともない」の割合が最も高くなっています。



《問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」が取れているか×

問 33「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度別》

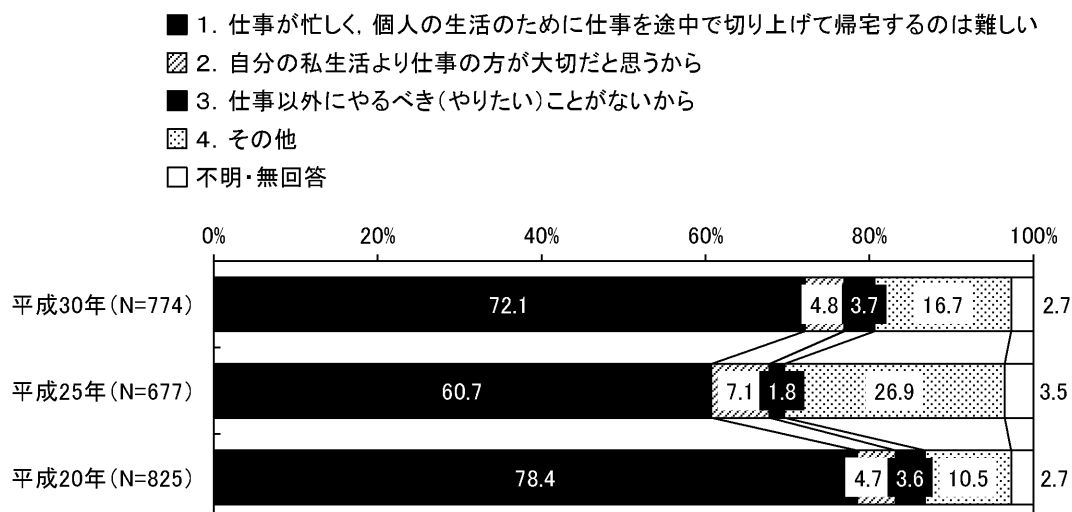
「真のワーク・ライフ・バランス」について知っている人ほど『取れている』の割合が高くなる傾向がみられます。



問 34(2) 取れていない理由は何ですか。(○は1つ)

「その他」を除き、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を途中で切り上げて帰宅するのは難しい」が72.1%と最も高く、次いで「2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから」が4.8%となっています。

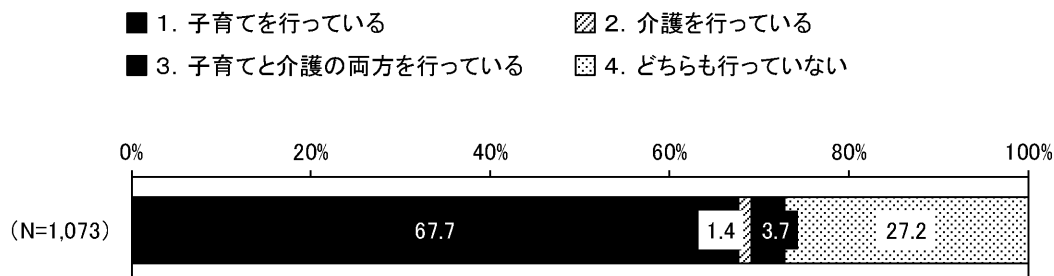
過去調査と比較すると、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を途中で切り上げて帰宅するのは難しい」が平成25年より11.4ポイント高く、平成20年より6.3ポイント低くなっています。



問 35(1) あなたは普段、小学生以下のお子さまの子育てやご家族の介護をされていますか。

(○は1つ)

「1. 子育てを行っている」が67.7%と最も高く、次いで「4. どちらも行っていない」が27.2%, 「3. 子育てと介護の両方を行っている」が3.7%となっています。



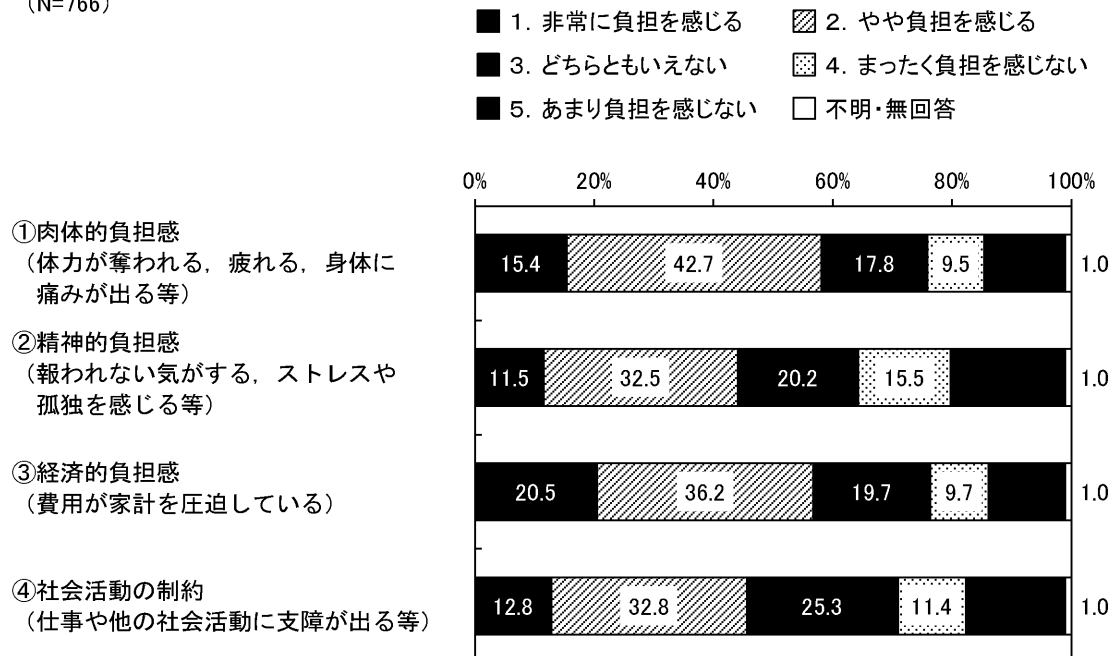
※不明・無回答除く

問 35(2) あなたは普段、「子育て」に対して以下のような負担を感じますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

『負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）』は, [①肉体的負担感（体力が奪われる, 疲れる, 身体に痛みが出る等）] が58.1%と最も高く, 次いで [③経済的負担感（費用が家計を圧迫している）] が56.7%となっています。

(N=766)



《問 35(2)「子育て」の負担感×問 1 性別》

男性の『負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）』は、
[③経済的負担感（費用が家計を圧迫している）]の割合が最も高くなっています。

女性の『負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）』は、
[①肉体的負担感（体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等）]の割合が最も高くなっています。

女性はすべての区分で男性と比べて『負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）』の割合が高くなっています。

(N=229)

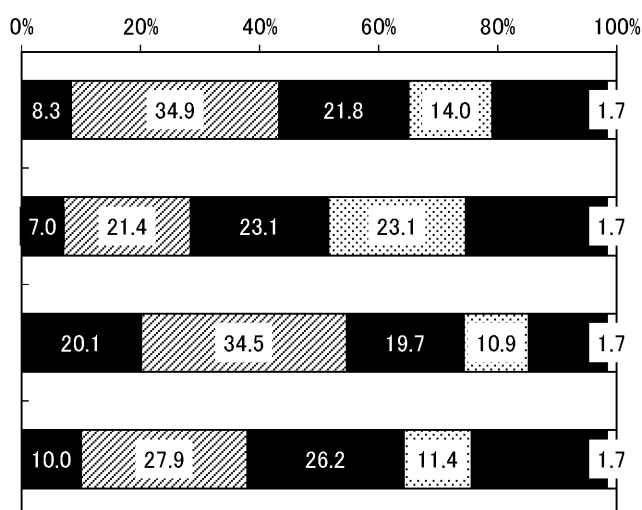
問 1

男 性

- ①肉体的負担感
（体力が奪われる、疲れる、身体に
痛みが出る等）
- ②精神的負担感
（報われない気がする、ストレスや
孤独を感じる等）
- ③経済的負担感
（費用が家計を圧迫している）
- ④社会活動の制約
（仕事や他の社会活動に支障が出る等）

問 35(2)

- 1. 非常に負担を感じる ▨ 2. やや負担を感じる
■ 3. どちらともいえない ▤ 4. まったく負担を感じない
■ 5. あまり負担を感じない □ 不明・無回答



(N=527)

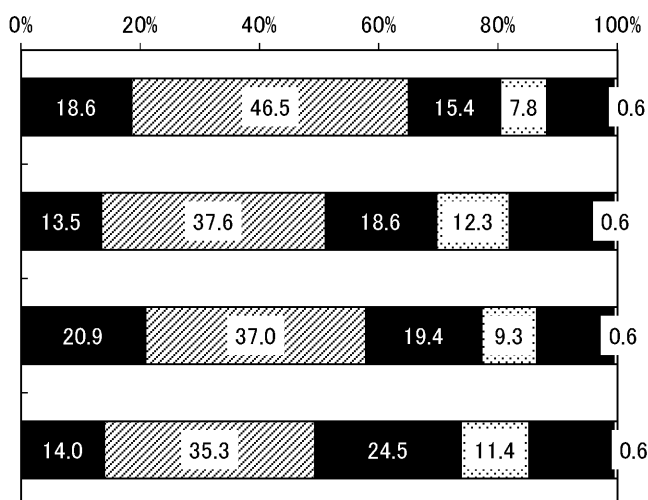
問 1

女 性

- ①肉体的負担感
（体力が奪われる、疲れる、身体に
痛みが出る等）
- ②精神的負担感
（報われない気がする、ストレスや
孤独を感じる等）
- ③経済的負担感
（費用が家計を圧迫している）
- ④社会活動の制約
（仕事や他の社会活動に支障が出る等）

問 35(2)

- 1. 非常に負担を感じる ▨ 2. やや負担を感じる
■ 3. どちらともいえない ▤ 4. まったく負担を感じない
■ 5. あまり負担を感じない □ 不明・無回答



《問 35(2)「子育て」の負担感×問 42(1)居住意向》

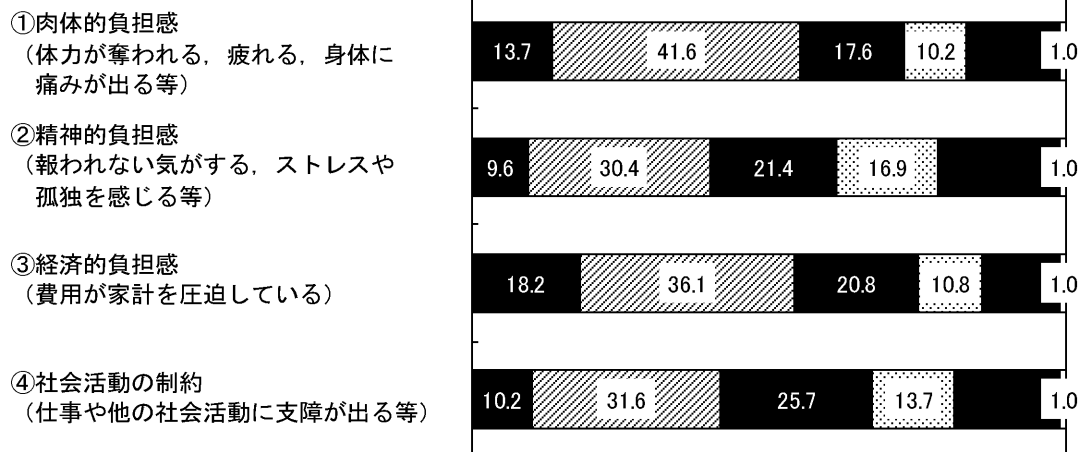
居住意向なしでは、すべての区分で居住意向ありと比べて『負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）』の割合が高くなっています。

(N=490)

問 35(2)

問 42(1)

居住意向あり

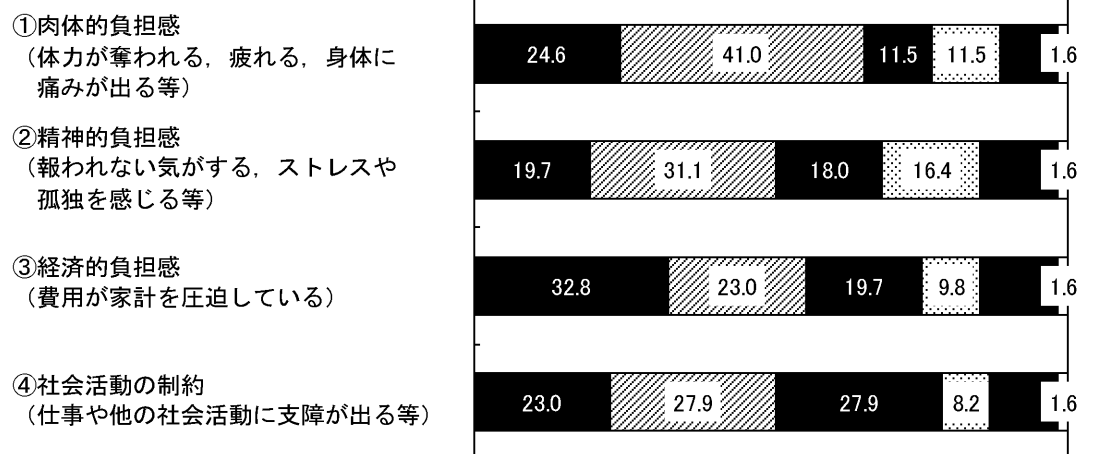


(N=61)

問 35(2)

問 42(1)

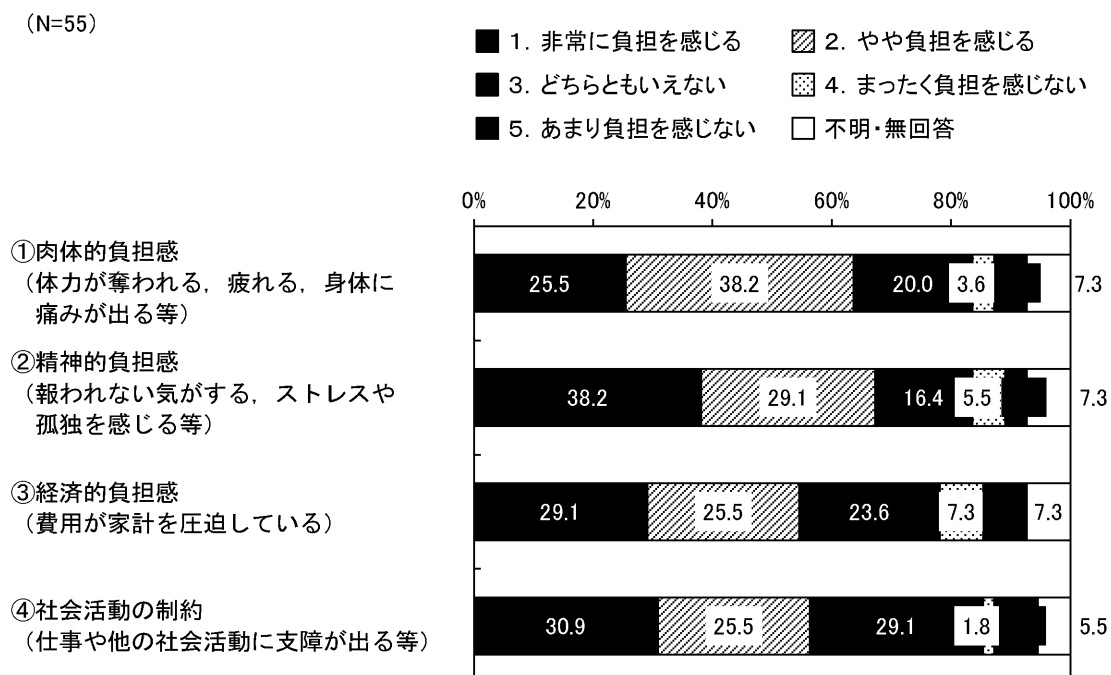
居住意向なし



問 35(3) あなたは普段、「介護」に対して以下のような負担を感じますか。

(○はそれぞれ1つつつ)

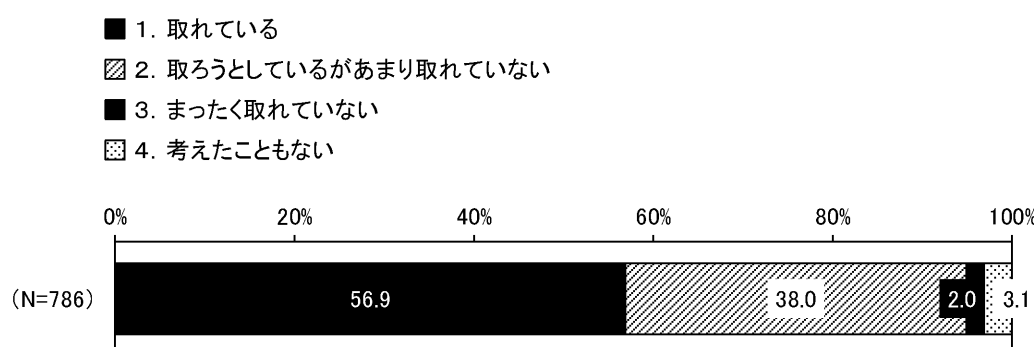
『負担を感じる(「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計)』は、[②精神的負担感(報われない気がする、ストレスや孤独を感じる等)]が67.3%と最も高く、次いで[①肉体的負担感(体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等)]が63.7%となっています。



問 35(4) お子さまと一緒に過ごす時間(遊ぶ時間や勉強を教える時間)は取れていますか。

(○は1つ)

「1. 取れている」が56.9%と最も高く、次いで「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」が38.0%、「4. 考えたこともない」が3.1%となっています。

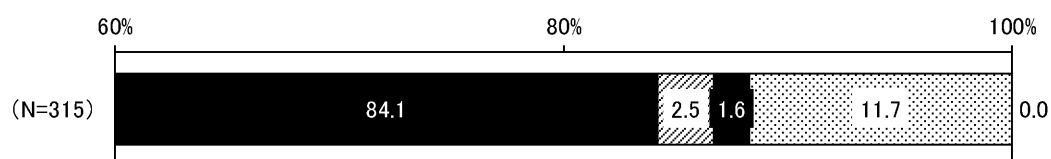


※不明・無回答除く

問 35(5) 取れていない理由は何ですか。(〇は1つ)

「その他」を除き、「1. 仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから」が 84.1%と最も高く, 次いで「2. 子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから」が 2.5%となっています。

- 1. 仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから
- ▨ 2. 子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから
- 3. 子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから
- ▤ 4. その他
- 不明・無回答



問 36 結婚の前後であなたとパートナーの仕事の状況は変わりましたか。(〇はそれぞれ1つずつ)

『(1) あなた自身』は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が53.3%と最も高く、次いで「3. 仕事を辞めた」が21.5%、「2. 仕事を変えて働き続けた」が15.4%となっています。

『(2) パートナー』は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が64.8%と最も高く、次いで「2. 仕事を変えて働き続けた」が16.1%、「3. 仕事を辞めた」が11.0%となっています。

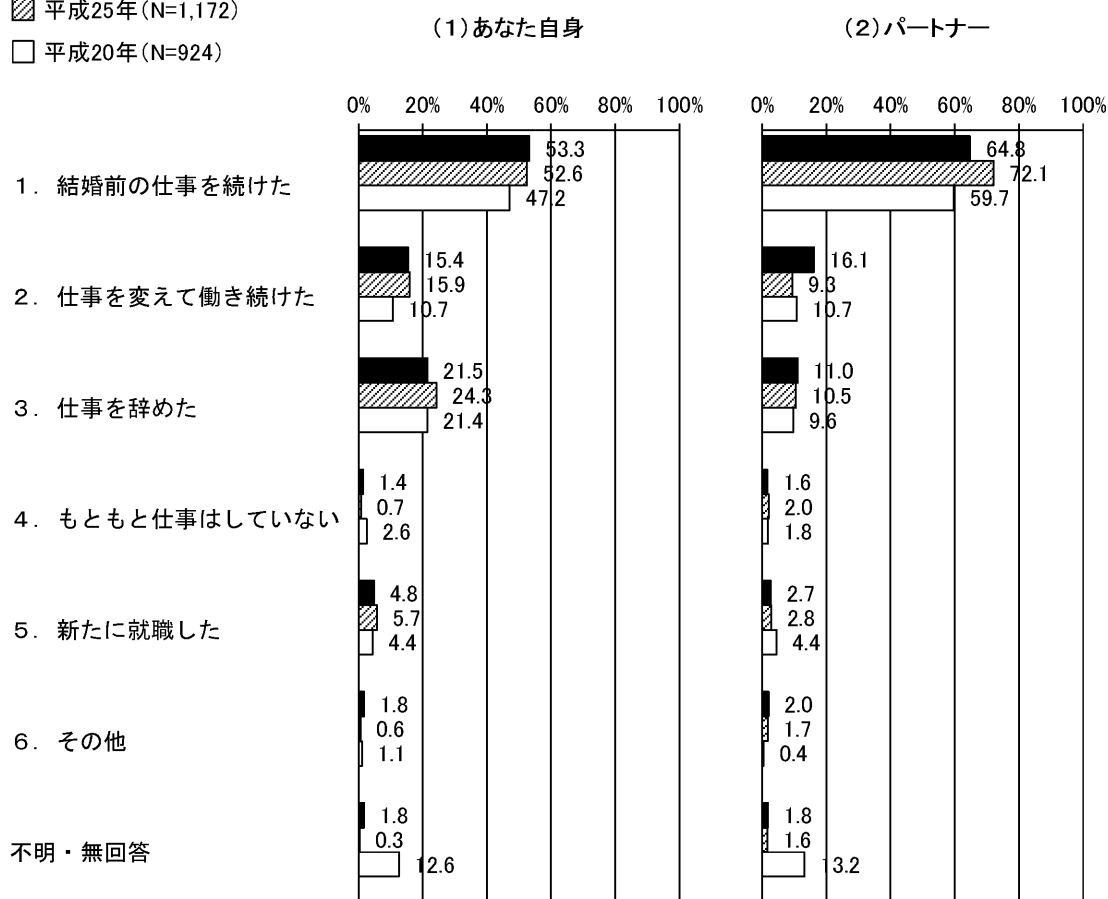
過去調査と比較すると、『(1) あなた自身』は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が平成20年より6.1ポイント高くなっています。

『(2) パートナー』は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が平成25年より7.3ポイント低く、「2. 仕事を変えて働き続けた」が平成20年より5.4ポイント高くなっています。

■ 平成30年(N=1,115)

▨ 平成25年(N=1,172)

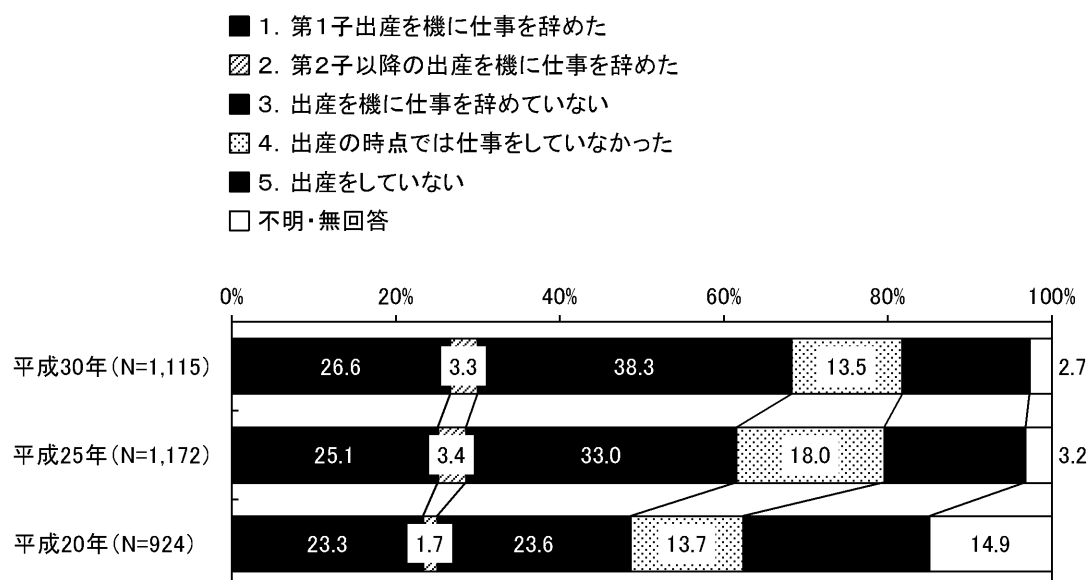
□ 平成20年(N=924)



問 37(1) あなたは、出産（パートナーの出産を含む）を機に仕事を辞めた経験がありますか。（〇は1つ）

「3. 出産を機に仕事を辞めていない」が38.3%と最も高く、次いで「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」が26.6%、「5. 出産をしていない」が15.5%となっています。

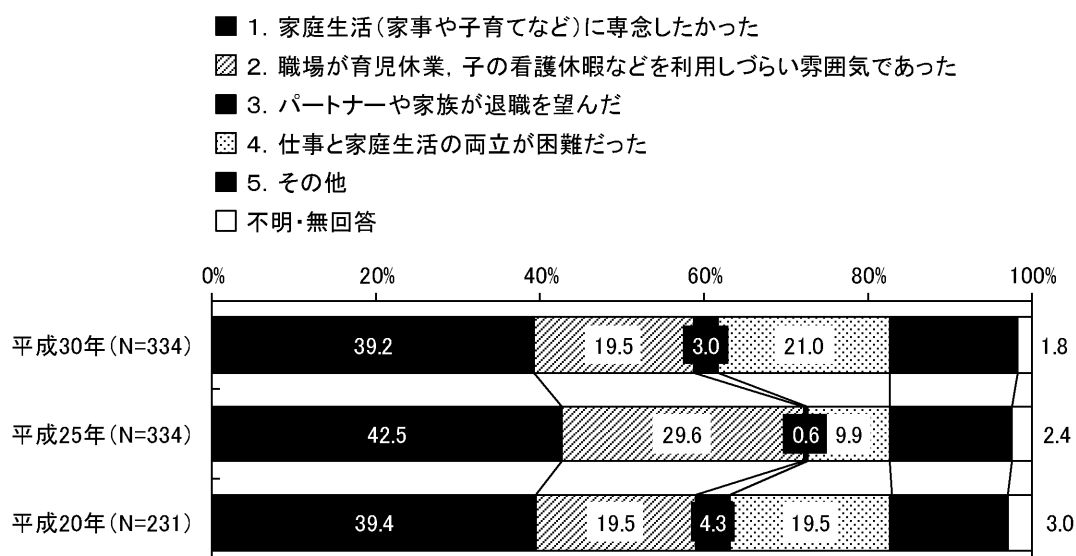
過去調査と比較すると、「3. 出産を機に仕事を辞めていない」が平成25年より5.3ポイント、平成20年より14.7ポイント高くなっています。



問 37(2) 仕事を辞めた理由は何ですか。（〇は1つ）

「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった」が39.2%と最も高く、次いで「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」が21.0%、「2. 職場が育児休業、子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった」が19.5%となっています。

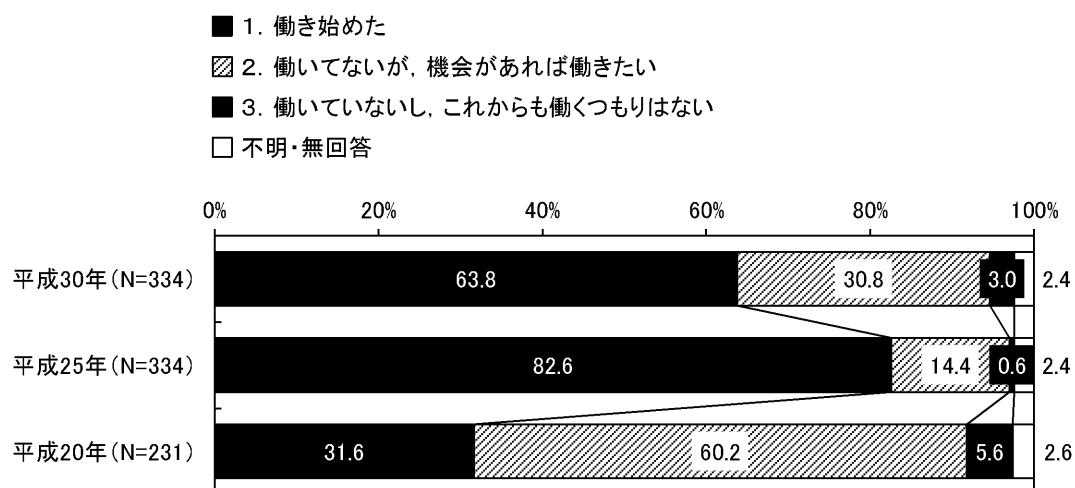
平成25年と比較すると、「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」が11.1ポイント高く、「2. 職場が育児休業、子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった」が10.1ポイント低くなっています。



問 37(3) 仕事を辞めた後、また働き始めましたか。(〇は1つ)

「1. 働き始めた」が63.8%と最も高く、次いで「2. 働いてないが、機会があれば働きたい」が30.8%となっています。

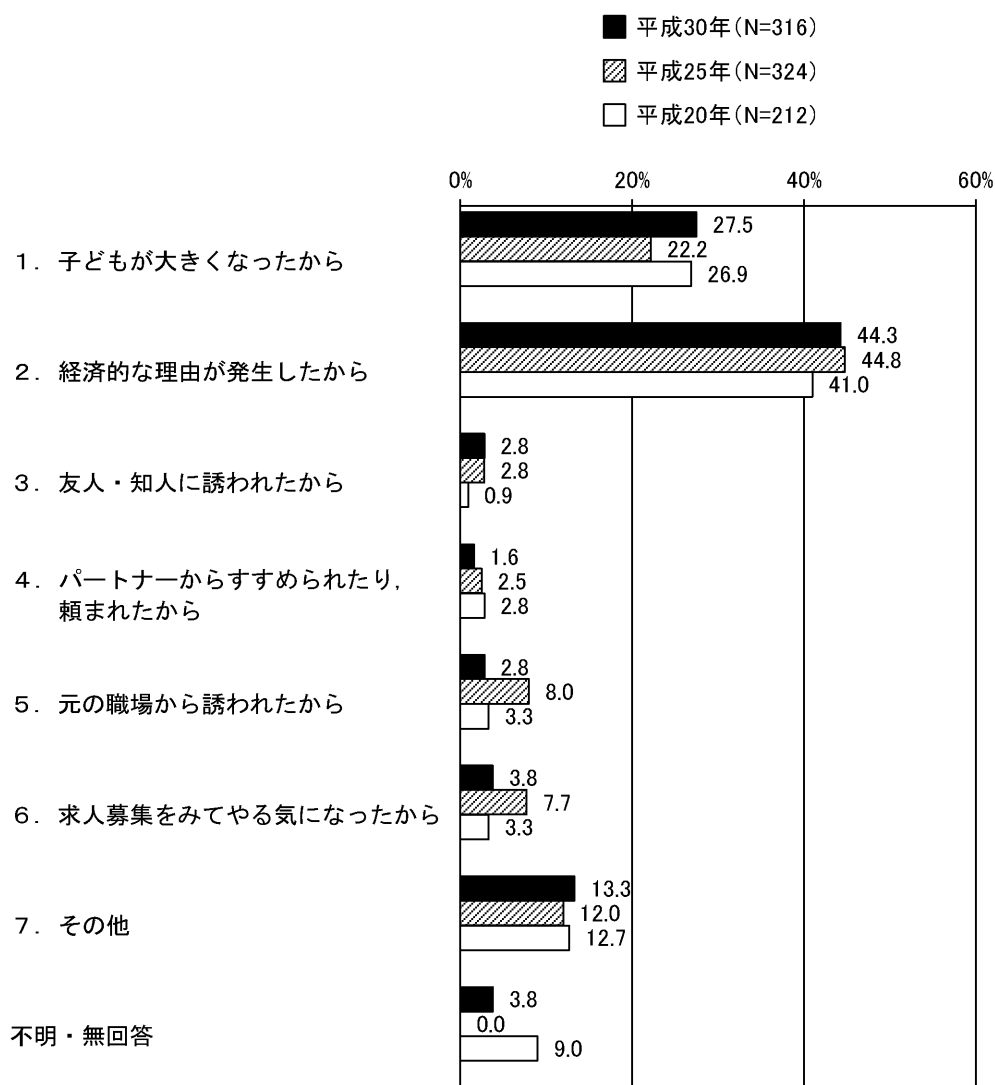
過去調査と比較すると、「1. 働き始めた」が平成25年より18.8ポイント低く、平成20年より32.2ポイント高くなっています。



問 37(4) また働き始めた、あるいは機会があれば働きたいと思った最も大きなきっかけは何でしたか。(〇は1つ)

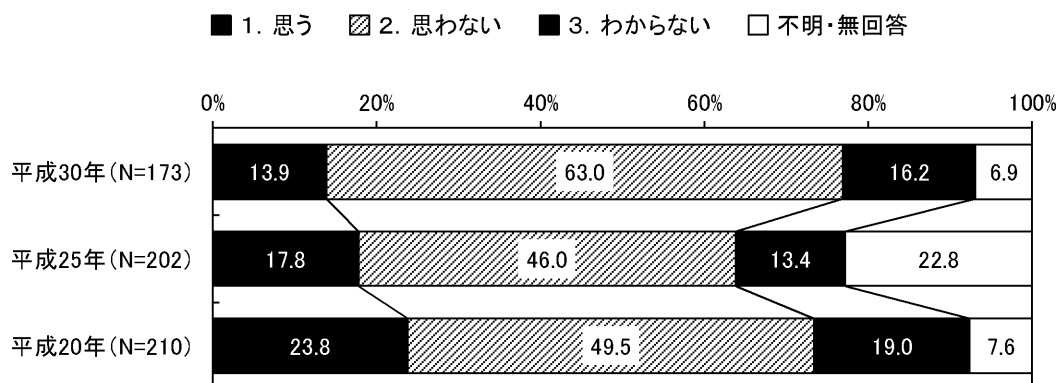
「その他」を除き、「2. 経済的な理由が発生したから」が 44.3%と最も高く、次いで「1. 子どもが大きくなったから」が 27.5%となっています。

平成 25 年と比較すると、「1. 子どもが大きくなったから」が 5.3 ポイント高く、「5. 元の職場から誘われたから」が 5.2 ポイント低くなっています。



問 37(5) あなたは、出産（パートナーの出産を含む）を機に仕事を辞めようと思いますか。
（○は1つ）

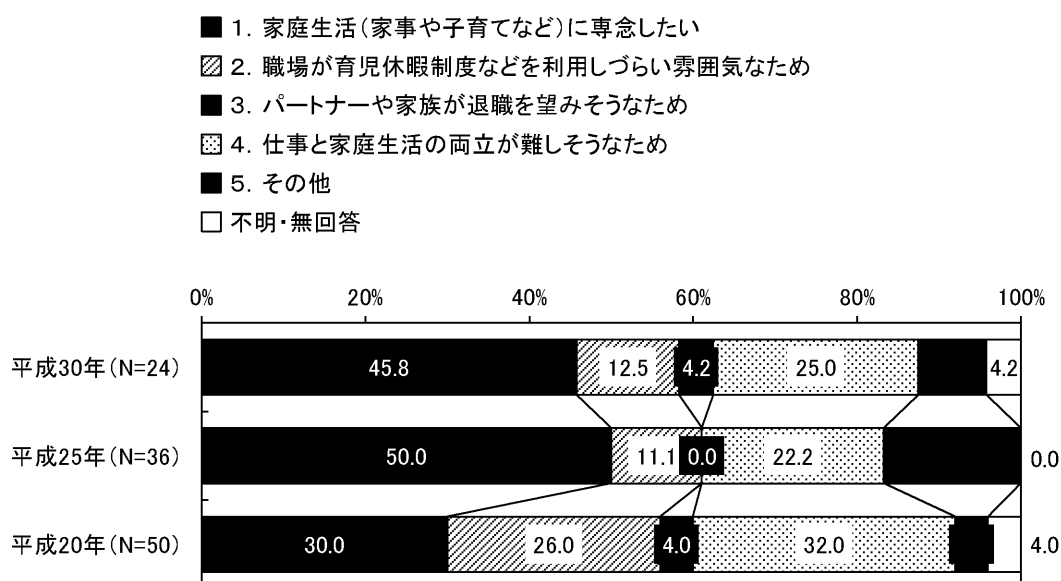
「2. 思わない」が63.0%と最も高く、次いで「3. わからない」が16.2%となっています。
 過去調査と比較すると、「2. 思わない」が平成25年より17.0ポイント、平成20年より13.5ポイント高くなっています。



問 37(6) その理由は何ですか。（○は1つ）

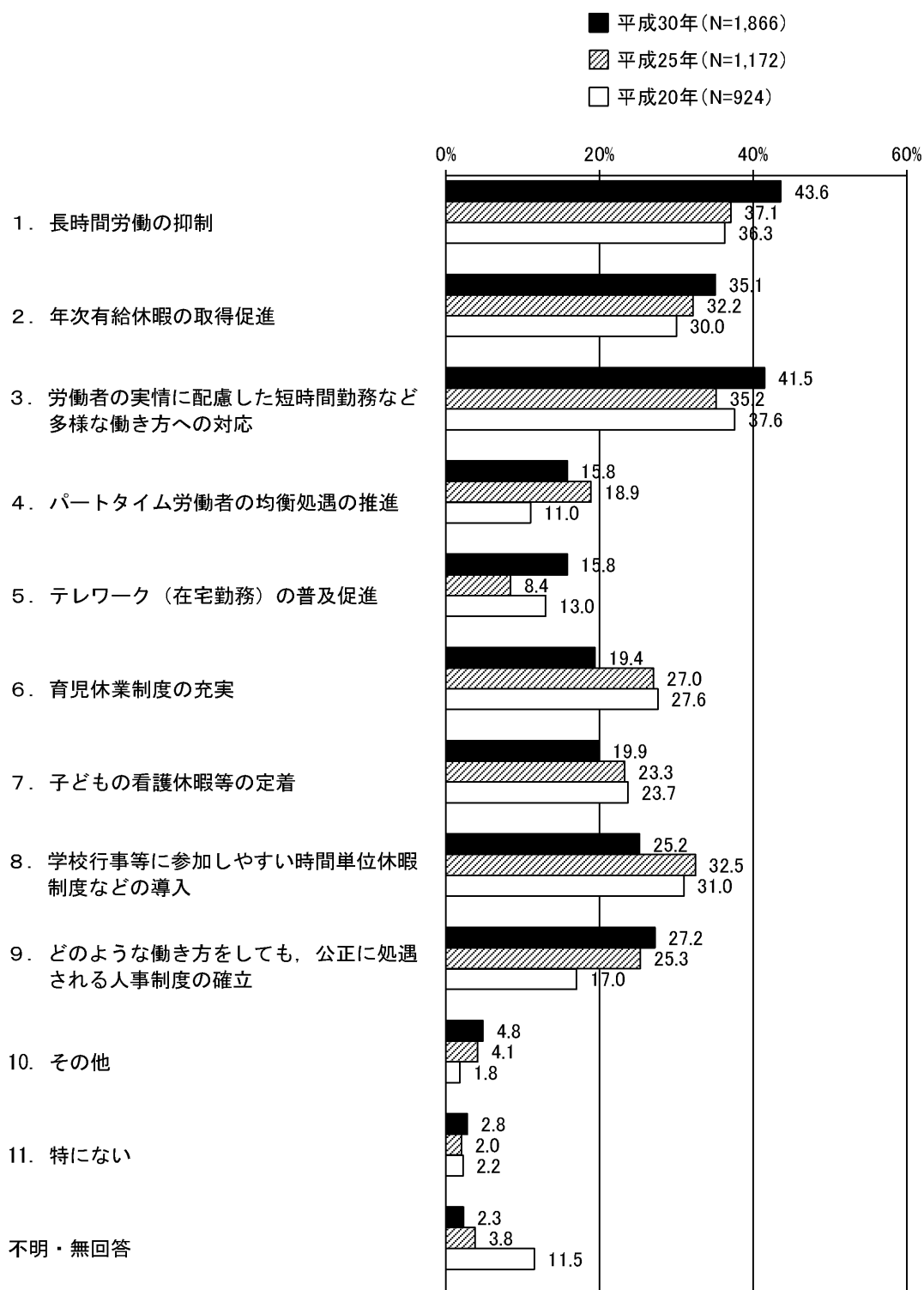
「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」が45.8%と最も高く、次いで「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」が25.0%、「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため」が12.5%となっています。

平成20年と比較すると、「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」が15.8ポイント高く、「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため」が13.5ポイント低くなっています。



問 38 真のワーク・ライフ・バランスの実現のために、企業等にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。（〇は3つまで）

「1. 長時間労働の抑制」が43.6%と最も高く、次いで「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」が41.5%、「2. 年次有給休暇の取得促進」が35.1%となっています。



※平成 25 年、平成 20 年は限定設問のため、サンプル数が異なる

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×問 1 性別》

『男性』では「長時間労働の抑制」,『女性』では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」の割合が最も高くなっています。

	1,866	813	655	774	294	295	362
	100.0	43.6	35.1	41.5	15.8	15.8	19.4
	666	337	268	245	70	109	157
	100.0	50.6	40.2	36.8	10.5	16.4	23.6
	1,177	465	378	520	221	183	199
	100.0	39.5	32.1	44.2	18.8	15.5	16.9
	16	7	6	6	1	2	4
	100.0	43.8	37.5	37.5	6.3	12.5	25.0

	1,866	372	471	507	90	53	42
	100.0	19.9	25.2	27.2	4.8	2.8	2.3
	666	89	122	173	38	24	25
	100.0	13.4	18.3	26.0	5.7	3.6	3.8
	1,177	280	344	328	52	29	15
	100.0	23.8	29.2	27.9	4.4	2.5	1.3
	16	2	3	5	0	0	2
	100.0	12.5	18.8	31.3	0.0	0.0	12.5

≪問 38「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×
 問 15(1)結婚の有無別≫

『結婚している』では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」、『結婚していたことはあるが、離（死）別した』では「年次有給休暇の取得促進」、『結婚していない』では「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

	1,866	813	655	774	294	295	362
	100.0	43.6	35.1	41.5	15.8	15.8	19.4
	1,115	456	335	482	192	172	200
	100.0	40.9	30.0	43.2	17.2	15.4	17.9
	86	28	35	27	14	10	9
	100.0	32.6	40.7	31.4	16.3	11.6	10.5
	657	326	283	263	88	112	149
	100.0	49.6	43.1	40.0	13.4	17.0	22.7
	1,866	372	471	507	90	53	42
	100.0	19.9	25.2	27.2	4.8	2.8	2.3
	1,115	296	348	286	49	31	13
	100.0	26.5	31.2	25.7	4.4	2.8	1.2
	86	17	27	29	4	6	2
	100.0	19.8	31.4	33.7	4.7	7.0	2.3
	657	58	94	190	37	16	26
	100.0	8.8	14.3	28.9	5.6	2.4	4.0

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 27 理想の子どもの人数別》

理想の子どもの人数が『1～3人』『多ければ多い方がいい』『ほしくない』では「長時間労働の抑制」,『4人以上』では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」の割合が最も高くなっています。

	1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4
	113 100.0	54 47.8	43 38.1	43 38.1	20 17.7	12 10.6	25 22.1
	899 100.0	398 44.3	321 35.7	393 43.7	149 16.6	142 15.8	171 19.0
	556 100.0	236 42.4	185 33.3	229 41.2	89 16.0	83 14.9	126 22.7
	42 100.0	13 31.0	15 35.7	18 42.9	5 11.9	7 16.7	5 11.9
	63 100.0	33 52.4	20 31.7	25 39.7	6 9.5	12 19.0	13 20.6
	131 100.0	61 46.6	55 42.0	46 35.1	14 10.7	31 23.7	14 10.7

	1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
	113 100.0	15 13.3	19 16.8	36 31.9	4 3.5	5 4.4	3 2.7
	899 100.0	174 19.4	239 26.6	229 25.5	39 4.3	15 1.7	14 1.6
	556 100.0	148 26.6	165 29.7	152 27.3	32 5.8	15 2.7	6 1.1
	42 100.0	13 31.0	15 35.7	9 21.4	2 4.8	4 9.5	0 0.0
	63 100.0	13 20.6	15 23.8	21 33.3	2 3.2	2 3.2	0 0.0
	131 100.0	8 6.1	13 9.9	48 36.6	11 8.4	9 6.9	4 3.1

《問 38「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 33「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度別》

『言葉も意味も知っていた』では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」,『言葉は知っていたが意味は知らなかった』『言葉自体知らなかった』では「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

	1,866	813	655	774	294	295	362
	100.0	43.6	35.1	41.5	15.8	15.8	19.4
	290	127	109	143	43	54	46
	100.0	43.8	37.6	49.3	14.8	18.6	15.9
	250	116	92	113	35	37	56
	100.0	46.4	36.8	45.2	14.0	14.8	22.4
	1,301	563	450	512	216	201	259
	100.0	43.3	34.6	39.4	16.6	15.4	19.9

	1,866	372	471	507	90	53	42
	100.0	19.9	25.2	27.2	4.8	2.8	2.3
	290	64	67	91	17	2	4
	100.0	22.1	23.1	31.4	5.9	0.7	1.4
	250	48	62	68	12	5	2
	100.0	19.2	24.8	27.2	4.8	2.0	0.8
	1,301	258	340	343	61	45	25
	100.0	19.8	26.1	26.4	4.7	3.5	1.9

≪問 38「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×
 問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別≫
 すべての区分で「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

	1,866	813	655	774	294	295	362
	100.0	43.6	35.1	41.5	15.8	15.8	19.4
	407	178	139	177	72	64	89
	100.0	43.7	34.2	43.5	17.7	15.7	21.9
	543	250	197	247	78	95	110
	100.0	46.0	36.3	45.5	14.4	17.5	20.3
	231	121	90	88	31	46	46
	100.0	52.4	39.0	38.1	13.4	19.9	19.9
	641	249	223	247	108	86	112
	100.0	38.8	34.8	38.5	16.8	13.4	17.5

	1,866	20	25	27	5	3	2
	100.0	108.0	123.0	94.0	8.0	7.0	6.0
	407	27	30	23	2	2	2
	100.0	113.0	146.0	165.0	37.0	5.0	3.0
	543	21	27	30	7	1	1
	100.0	38.0	41.0	74.0	19.0	3.0	2.0
	231	17	18	32	8	1	1
	100.0	109.0	156.0	168.0	25.0	37.0	16.0
	641	17	24	26	4	6	3
	100.0	19.2	24.8	27.2	4.8	2.0	0.8

<<問 38「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×
 問 35(4)子どもと過ごす時間の取得状況別>>

『取れている』『取ろうとしているがあまり取れていない』『まったく取れていない』では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」、『考えたこともない』では「長時間労働の抑制」「年次有給休暇の取得促進」の割合が最も高くなっています。

	1,866	813	655	774	294	295	362
	100.0	43.6	35.1	41.5	15.8	15.8	19.4
	447	181	129	196	64	72	89
	100.0	40.5	28.9	43.8	14.3	16.1	19.9
	299	125	95	131	56	45	46
	100.0	41.8	31.8	43.8	18.7	15.1	15.4
	16	3	6	7	4	2	2
	100.0	18.8	37.5	43.8	25.0	12.5	12.5
	24	9	9	5	2	5	6
	100.0	37.5	37.5	20.8	8.3	20.8	25.0

	1,866	372	471	507	90	53	42
	100.0	19.9	25.2	27.2	4.8	2.8	2.3
	447	144	160	115	15	9	4
	100.0	32.2	35.8	25.7	3.4	2.0	0.9
	299	82	97	80	14	7	0
	100.0	27.4	32.4	26.8	4.7	2.3	0.0
	16	2	6	5	1	0	0
	100.0	12.5	37.5	31.3	6.3	0.0	0.0
	24	3	6	5	2	3	0
	100.0	12.5	25.0	20.8	8.3	12.5	0.0

《問 38「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 37(1)出産を機に仕事を辞めた経験別》

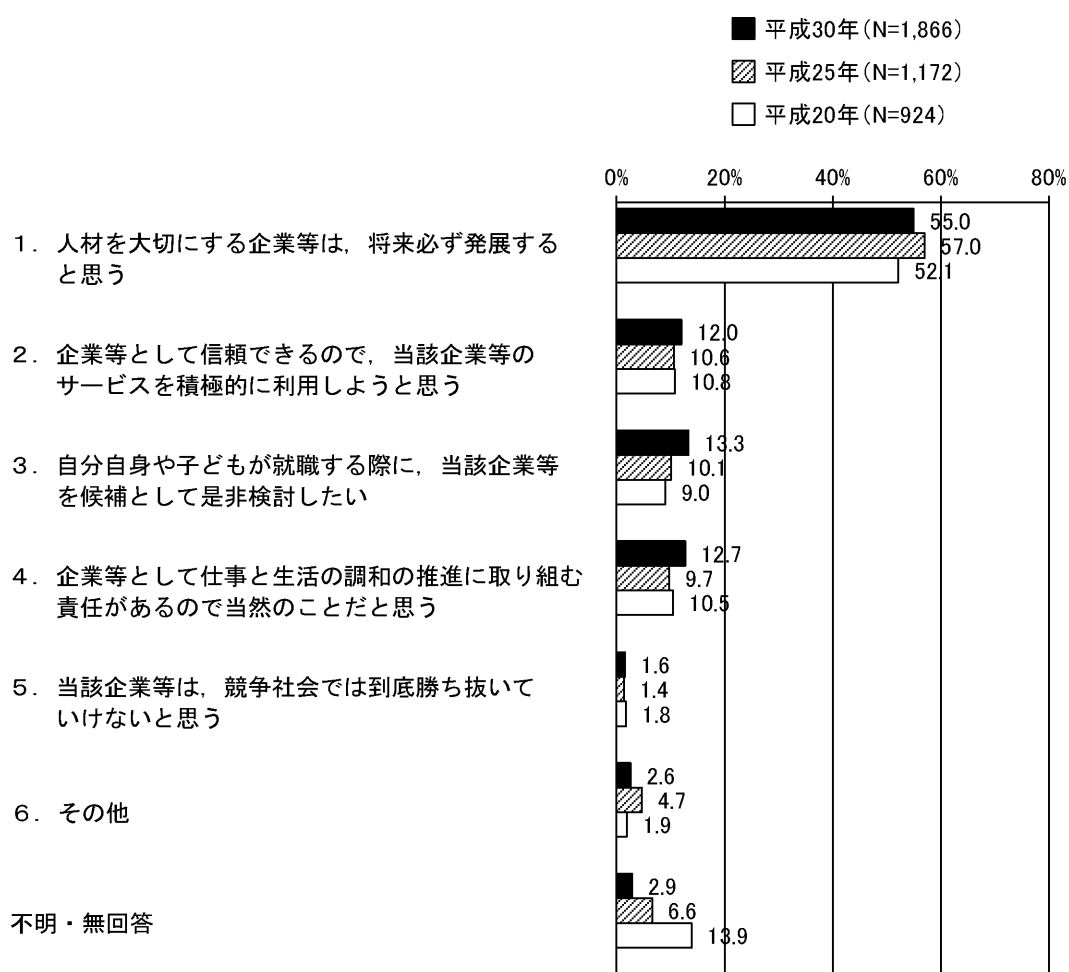
『第1子出産を機に仕事を辞めた』『第2子以降の出産を機に仕事を辞めた』『出産の時点では仕事をしていなかった』では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」,
『出産を機に仕事を辞めていない』『出産をしていない』では「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

	1,115	456	335	482	192	172	200
	100.0	40.9	30.0	43.2	17.2	15.4	17.9
	297	106	82	133	76	40	41
	100.0	35.7	27.6	44.8	25.6	13.5	13.8
	37	10	8	18	10	6	6
	100.0	27.0	21.6	48.6	27.0	16.2	16.2
	427	203	151	185	43	75	90
	100.0	47.5	35.4	43.3	10.1	17.6	21.1
	151	53	30	72	33	17	25
	100.0	35.1	19.9	47.7	21.9	11.3	16.6
	173	75	60	67	26	33	32
	100.0	43.4	34.7	38.7	15.0	19.1	18.5

	1,115	296	348	286	49	31	13
	100.0	26.5	31.2	25.7	4.4	2.8	1.2
	297	103	114	61	6	8	3
	100.0	34.7	38.4	20.5	2.0	2.7	1.0
	37	10	17	9	0	0	0
	100.0	27.0	45.9	24.3	0.0	0.0	0.0
	427	105	116	115	26	9	2
	100.0	24.6	27.2	26.9	6.1	2.1	0.5
	151	43	61	35	2	5	0
	100.0	28.5	40.4	23.2	1.3	3.3	0.0
	173	32	32	59	13	8	2
	100.0	18.5	18.5	34.1	7.5	4.6	1.2

問 39 真のワーク・ライフ・バランスを積極的に推進したり、理解がある企業等についてどのよう to 思いますか。(○は1つ)

「1. 人材を大切にする企業等は、将来必ず発展すると思う」が 55.0%と最も高く、次いで「3. 自分自身や子どもが就職する際に、当該企業等を候補として是非検討したい」が 13.3%, 「4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う」が 12.7% となっています。

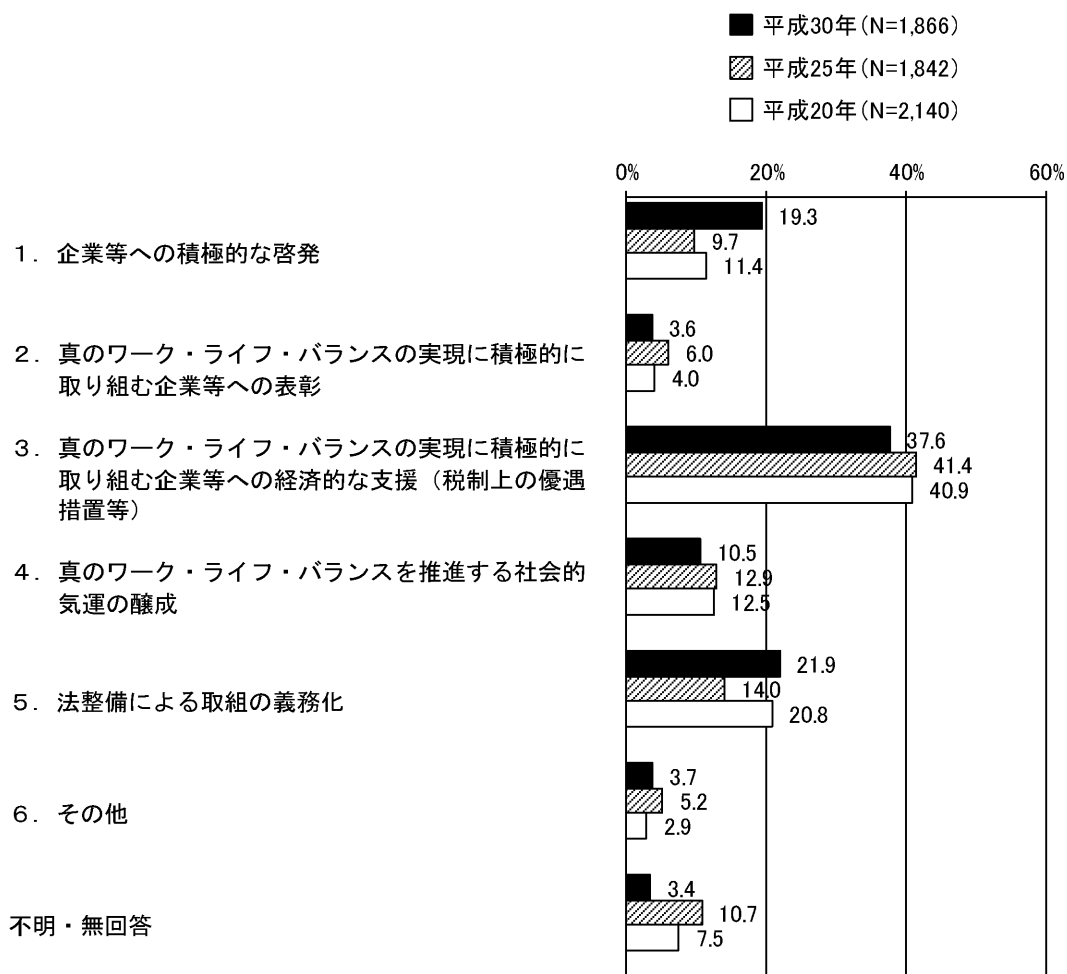


※平成 25 年、平成 20 年は限定設問のため、サンプル数が異なる

問 40 真のワーク・ライフ・バランスの実現のため、国や京都市にどのようなことを期待しますか。
(○は1つ)

「3. 真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」が37.6%と最も高く、次いで「5. 法整備による取組の義務化」が21.9%、「1. 企業等への積極的な啓発」が19.3%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 企業等への積極的な啓発」が9.6ポイント、「5. 法整備による取組の義務化」が7.9ポイント高く、平成20年と比較すると、「1. 企業等への積極的な啓発」が7.9ポイント高くなっています。



《問 40「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために期待すること×

問 27 理想の子どもの人数別》

理想の子ども人数が『1～4人以上』『ほしくない』では「真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援(税制上の優遇措置等)」,『多ければ多い方がいい』では「法整備による取組の義務化」の割合が最も高くなっています。

	理想の子ども人数が『1～4人以上』				理想の子ども人数が『ほしくない』				
	人数	割合	割合		人数	割合	割合	割合	
1	1,866	361	67	701	195	409	69	64	
	100.0	19.3	3.6	37.6	10.5	21.9	3.7	3.4	
	113	22	4	41	12	26	5	3	
	100.0	19.5	3.5	36.3	10.6	23.0	4.4	2.7	
	899	191	33	355	92	175	27	26	
	100.0	21.2	3.7	39.5	10.2	19.5	3.0	2.9	
	556	105	22	212	67	117	22	11	
	100.0	18.9	4.0	38.1	12.1	21.0	4.0	2.0	
	42	9	4	11	5	10	2	1	
2	100.0	21.4	9.5	26.2	11.9	23.8	4.8	2.4	
	63	9	0	24	2	26	2	0	
	100.0	14.3	0.0	38.1	3.2	41.3	3.2	0.0	
	131	14	2	44	13	43	8	7	
	100.0	10.7	1.5	33.6	9.9	32.8	6.1	5.3	

《問 40「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために期待すること×

問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別》

すべての区分で「真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援(税制上の優遇措置等)」の割合が最も高くなっています。

	理想の子ども人数が『1～4人以上』				理想の子ども人数が『ほしくない』				
	人数	割合	割合		人数	割合	割合	割合	
1	1,866	361	67	701	195	409	69	64	
	100.0	19.3	3.6	37.6	10.5	21.9	3.7	3.4	
	407	92	22	169	44	60	11	9	
	100.0	22.6	5.4	41.5	10.8	14.7	2.7	2.2	
	543	75	14	221	73	138	15	7	
	100.0	13.8	2.6	40.7	13.4	25.4	2.8	1.3	
	231	35	5	77	24	75	13	2	
	100.0	15.2	2.2	33.3	10.4	32.5	5.6	0.9	
	641	152	26	223	54	129	30	27	
2	100.0	23.7	4.1	34.8	8.4	20.1	4.7	4.2	

《問 40「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために期待すること×

問 37(1)出産を機に仕事を辞めた経験別》

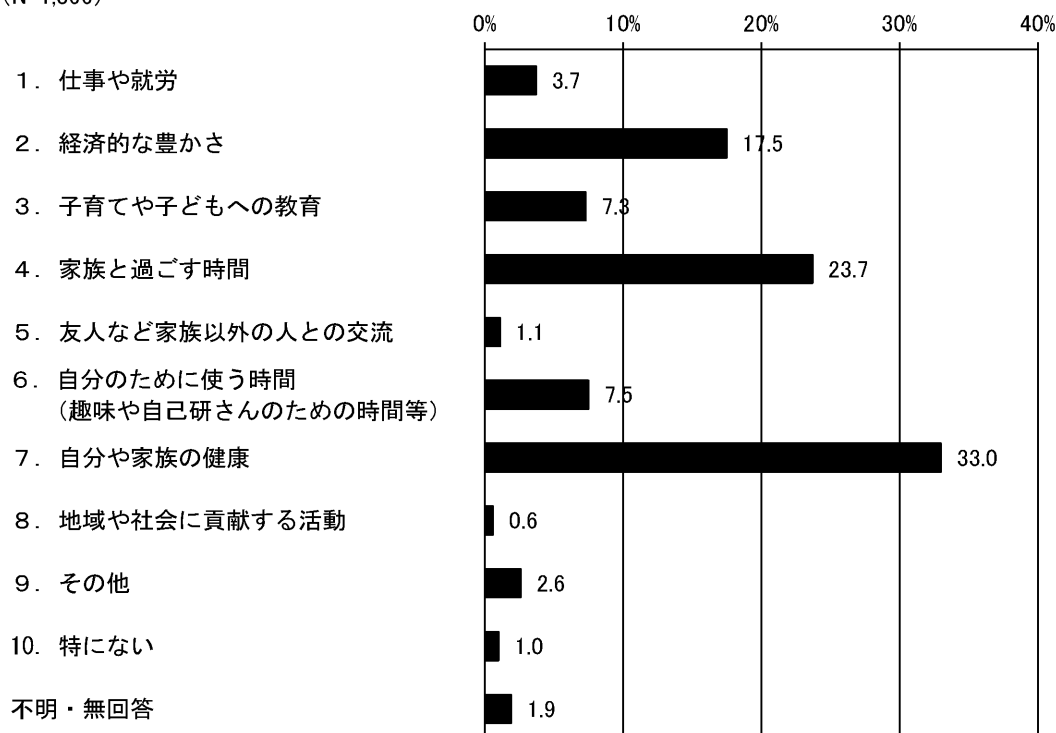
すべての区分で「真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」の割合が最も高くなっています。

	1,115	225	34	428	111	247	38	32
	100.0	20.2	3.0	38.4	10.0	22.2	3.4	2.9
	297	64	15	122	23	59	9	5
	100.0	21.5	5.1	41.1	7.7	19.9	3.0	1.7
	37	8	4	12	4	8	1	0
	100.0	21.6	10.8	32.4	10.8	21.6	2.7	0.0
	427	79	6	170	51	103	11	7
	100.0	18.5	1.4	39.8	11.9	24.1	2.6	1.6
	151	41	3	59	9	27	6	6
	100.0	27.2	2.0	39.1	6.0	17.9	4.0	4.0
	173	30	4	61	21	43	9	5
	100.0	17.3	2.3	35.3	12.1	24.9	5.2	2.9

問 41 あなたが生活で、最も重要だと考えていること（価値観）は何ですか。（○は1つ）

「7. 自分や家族の健康」が33.0%と最も高く、次いで「4. 家族と過ごす時間」が23.7%、「2. 経済的な豊かさ」が17.5%となっています。

(N=1,866)



《問 41 最も重要だと考えている価値観×問 1 年齢別》

『18～21 歳』では「経済的な豊かさ」、『30～34 歳』では「家族と過ごす時間」、それ以外の区分では「自分や家族の健康」の割合が最も高くなっています。

		『18～21 歳』					『22～29 歳』					『30～34 歳』					『35～39 歳』					『40～44 歳』					『45～49 歳』								
価値観	人数	割合					人数	割合					人数	割合					人数	割合					人数	割合									
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5					
経済的な豊かさ	1,866	69	326	136	443	20	140	116	7	31	2	28	1	13	138	3	26	6	34	4	15	167	4	34	4	38	7	30	279	8	45	17	89	2	23
	100.0	3.7	17.5	7.3	23.7	1.1	7.5		100.0	6.0	26.7	1.7	24.1	0.9		11.2	100.0	2.2	18.8	4.3	24.6		2.9	10.9	100.0	2.4	20.4	2.4		22.8	4.2	18.0	100.0	2.9	16.1
家族と過ごす時間	116	7	31	2	28	1	13	138	3	26	6	34	4	15	167	4	34	4	38	7	30	279	8	45	17	89	2	23	334	8	49	31	95	4	20
	100.0	6.0	26.7	1.7	24.1	0.9	11.2		100.0	2.2	18.8	4.3	24.6	2.9		10.9	100.0	2.4	20.4	2.4	22.8		4.2	18.0	100.0	2.9	16.1	6.1		31.9	0.7	8.2	100.0	2.4	14.7
自分や家族の健康	138	3	26	6	34	4	15	167	4	34	4	38	7	30	279	8	45	17	89	2	23	334	8	49	31	95	4	20	361	18	61	30	80	0	20
	100.0	2.2	18.8	4.3	24.6	2.9	10.9		100.0	2.4	20.4	2.4	22.8	4.2		18.0	100.0	5.0	16.9	8.3	22.2		0.0	5.5	100.0	5.0	16.9	8.3		22.2	0.0	5.5	100.0	2.4	14.7
収入の増加	167	4	34	4	38	7	30	279	8	45	17	89	2	23	334	8	49	31	95	4	20	361	18	61	30	80	0	20	402	18	76	41	63	2	18
	100.0	2.4	20.4	2.4	22.8	4.2	18.0		100.0	2.9	16.1	6.1	31.9	0.7		8.2	100.0	2.4	14.7	9.3	28.4		1.2	6.0	100.0	4.5	18.9	10.2		15.7	0.5	4.5	100.0	4.5	18.9

		『50～54 歳』					『55～59 歳』					『60～64 歳』					『65～69 歳』					『70～74 歳』					『75～79 歳』									
価値観	人数	割合					人数	割合					人数	割合					人数	割合					人数	割合										
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5						
経済的な豊かさ	1,866	616	12	49	19	36	116	25	0	5	0	4	138	40	0	6	2	2	167	43	2	2	0	3	279	77	2	8	5	3	334	107	1	8	4	7
	100.0	33.0	0.6	2.6	1.0	1.9		100.0	21.6	0.0	4.3	0.0		3.4	100.0	29.0	0.0	4.3		1.4	1.4	100.0	25.7	1.2		1.2	0.0	1.8	100.0	27.6		0.7	2.9	1.8	1.1	100.0
家族と過ごす時間	116	25	0	5	0	4	138	40	0	6	2	2	167	43	2	2	0	3	279	77	2	8	5	3	334	107	1	8	4	7	361	134	3	9	2	4
	100.0	21.6	0.0	4.3	0.0	3.4		100.0	29.0	0.0	4.3	1.4		1.4	100.0	25.7	1.2	1.2		0.0	1.8	100.0	25.7	1.2		1.2	0.0	1.8	100.0	27.6		0.7	2.9	1.8	1.1	100.0
自分や家族の健康	138	40	0	6	2	2	167	43	2	2	0	3	279	77	2	8	5	3	334	107	1	8	4	7	361	134	3	9	2	4	402	160	3	9	4	8
	100.0	29.0	0.0	4.3	1.4	1.4		100.0	25.7	1.2	1.2	0.0		1.8	100.0	25.7	1.2	1.2		0.0	1.8	100.0	25.7	1.2		1.2	0.0	1.8	100.0	27.6		0.7	2.9	1.8	1.1	100.0

《問 41 最も重要だと考えている価値観×問 3 就労形態別》

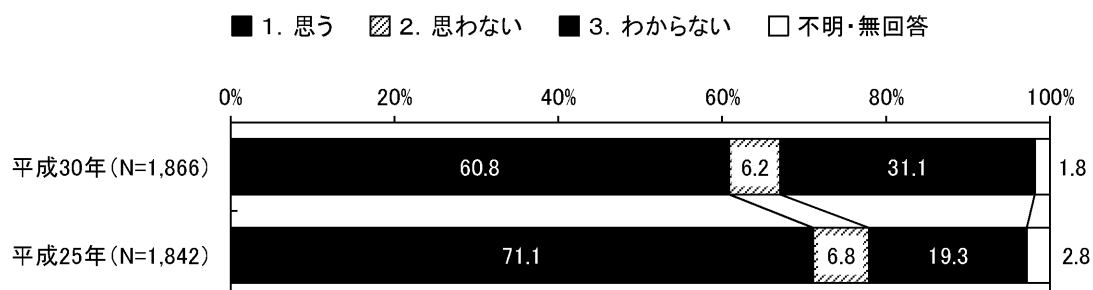
『派遣社員』では「経済的な豊かさ」、それ以外の区分では「自分や家族の健康」の割合が最も高くなっています。

	1,866	69	326	136	443	20	140
	100.0	3.7	17.5	7.3	23.7	1.1	7.5
	883	38	151	43	233	10	65
	100.0	4.3	17.1	4.9	26.4	1.1	7.4
	416	9	72	53	84	6	37
	100.0	2.2	17.3	12.7	20.2	1.4	8.9
	38	2	11	0	7	1	5
	100.0	5.3	28.9	0.0	18.4	2.6	13.2
	79	6	18	7	12	0	4
	100.0	7.6	22.8	8.9	15.2	0.0	5.1
	22	0	1	3	4	0	2
	100.0	0.0	4.5	13.6	18.2	0.0	9.1
	15	1	2	1	2	0	0
	100.0	6.7	13.3	6.7	13.3	0.0	0.0
	243	3	36	24	65	1	8
	100.0	1.2	14.8	9.9	26.7	0.4	3.3
	134	8	29	3	30	2	17
	100.0	6.0	21.6	2.2	22.4	1.5	12.7
	34	2	6	2	5	0	2
	100.0	5.9	17.6	5.9	14.7	0.0	5.9

	1,866	616	12	49	19	36
	100.0	33.0	0.6	2.6	1.0	1.9
	883	294	5	21	12	11
	100.0	33.3	0.6	2.4	1.4	1.2
	416	136	3	7	2	7
	100.0	32.7	0.7	1.7	0.5	1.7
	38	7	0	3	0	2
	100.0	18.4	0.0	7.9	0.0	5.3
	79	25	1	3	2	1
	100.0	31.6	1.3	3.8	2.5	1.3
	22	10	0	1	1	0
	100.0	45.5	0.0	4.5	4.5	0.0
	15	6	0	3	0	0
	100.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	243	95	2	5	0	4
	100.0	39.1	0.8	2.1	0.0	1.6
	134	33	1	5	1	5
	100.0	24.6	0.7	3.7	0.7	3.7
	34	10	0	1	1	5
	100.0	29.4	0.0	2.9	2.9	14.7

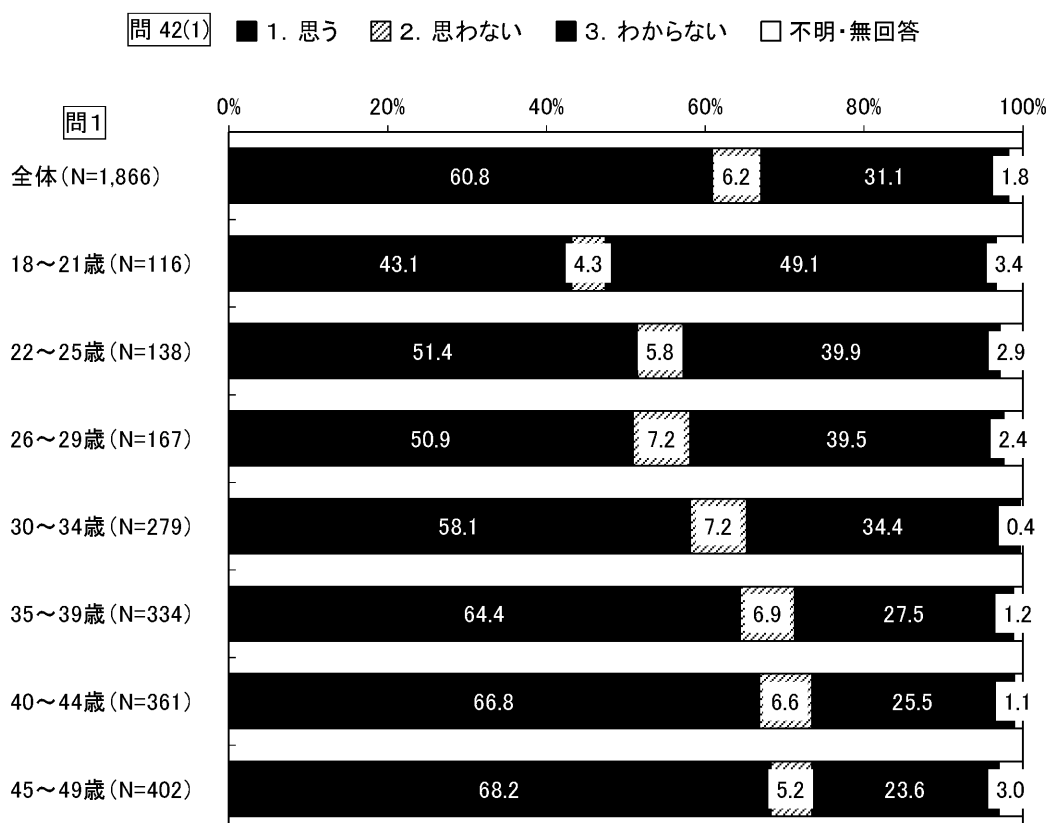
問 42(1) あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「1. 思う」が60.8%と最も高く、次いで「3. わからない」が31.1%となっています。
平成25年と比較すると、「1. 思う」が10.3ポイント低く、「3. わからない」が11.8ポイント高くなっています。



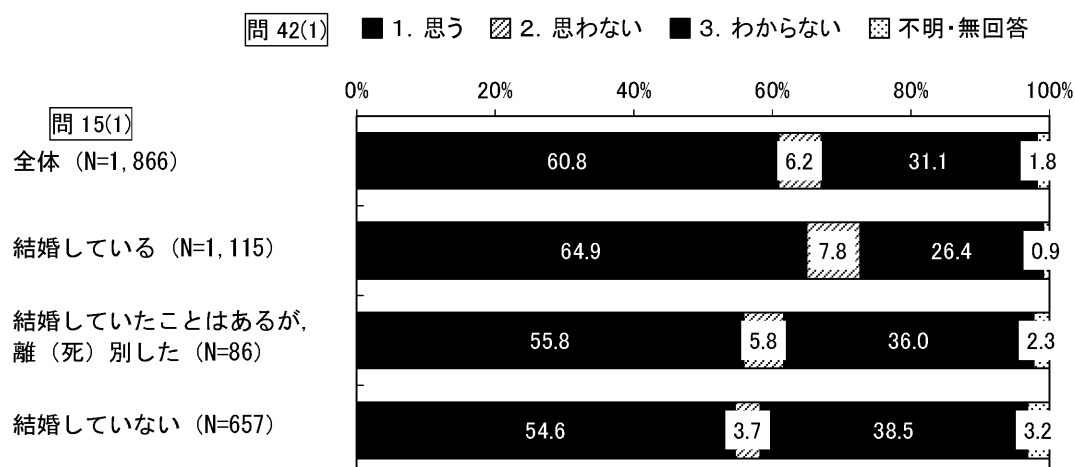
《問 42(1)居住意向×問 1 年齢別》

『18～21 歳』では「3. わからない」、それ以外の区分では「1. 思う」の割合が最も高くなっており、年齢が上がるほど「1. 思う」の割合が高くなる傾向がみられます。



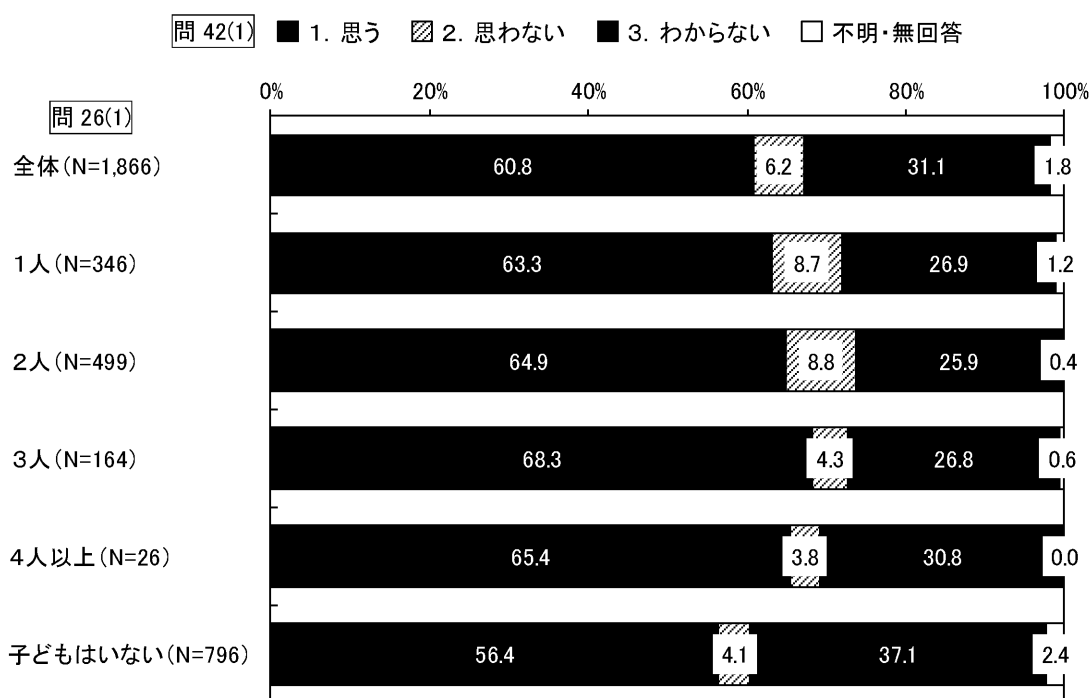
《問 42(1)居留意向×問 15(1)結婚の有無別》

『結婚している』では「1. 思う」の割合が他の区分と比べて高くなっています。



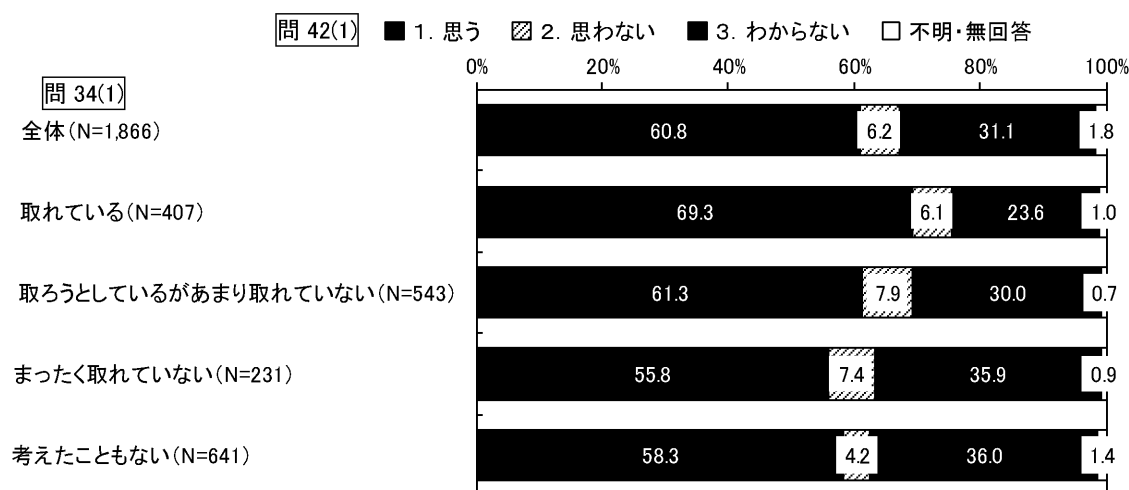
《問 42(1)居留意向×問 26(1)現在の子どもの人数別》

子どもの人数が多くなるほど「1. 思う」の割合が高くなる傾向がみられます。



《問 42(1)居住意向×問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別》

『取れている』では「1. 思う」の割合が他の区分と比べて高くなっています。



《問 42(1)居住意向×問 41 最も重要だと考えている価値観別》

『仕事や就労』『子育てや子どもへの教育』では「1. 思う」の割合が他の区分と比べて高くなっています。

問 42(1)	1. 思う	2. 思わない	3. わからない	不明・無回答
全体 (N=1,866)	60.8	6.2	31.1	1.8
取れている (N=407)	69.3	6.1	23.6	1.0
取ろうとしているがあまり取れていない (N=543)	61.3	7.9	30.0	0.7
まったく取れていない (N=231)	55.8	7.4	35.9	0.9
考えたこともない (N=641)	58.3	4.2	36.0	1.4

問 41	1. 思う	2. 思わない	3. わからない	不明・無回答
仕事や就労	60.8	6.2	31.1	1.8
子育てや子どもへの教育	69.3	6.1	23.6	1.0
収入の増加	61.3	7.9	30.0	0.7
住環境の改善	55.8	7.4	35.9	0.9
交通の便	58.3	4.2	36.0	1.4

問 43 安心して子どもを生み，子どもを健やかに育てていくための行政の取組や，社会制度のあり方について，特に望むことやご意見がありましたら，ご自由にご記入ください。（〇は1つ）

「7. 子育て世帯に対する経済的支援について」が 27.7%と最も高く，次いで「8. 仕事と子育ての両立支援と働き方について」が 15.8%となっています。

(N=1,866)

